

フィールドワークと性暴力・セクシュアルハラスメントに関する  
実態調査アンケート（2022年）の報告: 1 定量的な解析



共同研究グループ HiF

# 目次

はじめに .....	3
本文 .....	6
要旨 .....	7
1. 背景 .....	8
2. 対象と方法.....	10
3. 結果・考察.....	14
4. 結論 .....	24
謝辞 .....	26
引用文献.....	26
図 .....	29
表 .....	35
設問と回答.....	71
統計解析の詳細 .....	88
Abstract .....	97
おわりに .....	99

## はじめに

HiF (Harrassment in Fieldwork) は、分野の異なる研究者からなる有志の共同研究グループです。研究者が安全にフィールドワークを行うことができるように、フィールドで直面する危険や問題について情報を収集しています。それを通じて、フィールドワーカー個人および研究機関や学会等の注意を喚起し、安全対策の実施を促進させることを目的としています。当グループの活動は、複数のメンバーがフィールドワーク中にハラスメントを受けた経験をもとに構想され、2020年より正式に活動を開始しています。

フィールドワークは学問の発展につながる知見をもたらすだけでなく、フィールドワーカーの人生を豊かにしてくれる営みです。しかし、フィールドという特殊な社会空間で生じる様々な危険が、フィールドワーカーの人生を大きく左右することもあります。フィールドワーカー育成に関わる個人、及び、これらの個人が所属する様々な機関が、そのような危険と遭遇する可能性を認識し、フィールドワーカーができる限り危険に遭遇しないよう万全な対策を講じ、また万が一遭遇してしまった際に適切な対処ができるようにする必要があります。

フィールドワークについては、これまで、調査者が被調査者を一方的に調査し分析、記述する非対称な権力関係や、被調査者のプライバシー保護等の倫理的問題が議論されてきました。しかし、フィールドの人びとや、ともにフィールドワークを行う研究者などと信頼関係を築く中で、フィールドワーカーが身体的、社会的に弱い立場に置かれてしまう構造があります。また、フィールドワークに伴うリスクは、フィールドワーカー個人での管理に委ねられる場合も少なくなく、起きてしまった事柄に対してもその責任は個人の危機管理不足と見なされ、声を上げたり、相談したりすることが難しいかもしれません。こういった状況下でフィールドワーカーが直面する危険や問題、またそれらへの対処法はあまり取り上げられてきませんでした。特に日本では、フィールドワーカーが調査中や調査の準備中などに遭遇した危険や問題を分野や学会を越えて把握する試みがほとんど行われていないため、実態を把握する必要があります。

以上のような現状と課題に鑑み、HiFは、「フィールドワークと性暴力・セクシュアルハラスメントに関する実態調査アンケート」を2022年に実施しました。このオンラインアンケートの目的は、フィールドワーカーが直面する、セクシュアルハラスメントを含む性暴力とその対策に関する実態の把握、及び具体的な事例に関する情報の収集です。HiFは、この基礎的な知見を元にフィールドで起こる性暴力についての啓発を行なっていく予定です。

フィールドワークの場における異なる価値観との接触が、そこで起きてしまった性暴力の解釈を複雑にすることがあります。さまざまな現場に赴いて調査や研究を実施するフィールドワークという研究手法の性質上、フィールドワーカーは異なる文化や社会的規範との接触を頻繁に経験します。そのなかには、性暴力を受けた本人が、それを性暴力と名付けて差し支えないのか悩むような接触も含まれる場合もあるでしょう。本調査<sup>1</sup>では、そのような事例も性暴力の事例として対象に含めました。HiFは、こうしたはっきりしないもやもやとした経験からも、性暴力の有

---

<sup>1</sup> 本報告書では、「フィールドワークと性暴力・セクシュアルハラスメントに関する実態調査アンケート」の設問内容や回答そのものに関しては「本アンケート」と言及し、アンケートの実施と解析全体を指して「本調査」と呼びます。

する多面性について考えることが可能であると考えているからです。したがって、本調査では、本人の望まないすべての性的な意味合いを持った行為として性暴力を位置づけ(定義の詳細については「対象と方法」を参照)、性暴力かどうか自身でもわからないもやもやしたものも掘り上げることを目指しました。そのため、性暴力というレイプや強制わいせつなどを想起させる強い用語のせいで回答者が限定されてしまうことを避けるために、セクシュアルハラスメントというより一般に知られた言葉も本アンケートのタイトルに含めました。

本調査の結果は、3回に分けて報告する予定です。調査結果の解析は現在進行中ですが、本調査の重要性や喫緊性に鑑み、すべての解析結果が出るのを待つ前に、すでに解析の完了した内容から順次報告をすることにしました。本調査が分析し報告する内容や側面は多岐にわたり、また、自由記述回答も多数含まれるため、当初の想定以上に多くの時間をかけて、慎重な議論を重ねた上で解析をする必要があると判断したためです。

この一連の報告の最初となる本報告書では、選択式の回答とそれらの相互関係を数値的に解析した結果を報告します。つづく第二報では、回答の内容を解釈し分類する必要がある自由記述回答の内容についての数値的な解析の結果を報告する予定です。第三報では、回答に記された性暴力の典型例を、個人や事例が特定できないよう匿名化し、必要に応じて一部をフィクション化したうえで報告する予定です。自由記述の回答を合わせて分析することで、選択式の回答からは見えてこなかった傾向が明らかになる可能性があります。そのため、第二報や第三報において、本報告書で報告した結果の解釈が変化するおそれもあります。全体の分析結果が出揃った後で、最終的な報告書を公開する予定です。

なお、本アンケートで用いた「被害者」、「加害者」、「性暴力」という用語について、回答者の方々からさまざまな意見をいただきました。特に、回答者自身もそれを性暴力と名付けてよいのか悩むような、はっきりしないもやもやとした事例も対象に含めたいという HiF の理念・方針に鑑みると、「性暴力」や「被害者」といった確定的な用語を使うことには問題があるのではないかという意見は、非常に重要であると考えました。いただいた意見のなかで指摘されていた通り、そうした用語の使用が、回答しようとしていた人びとの意欲を削ぎ、また、回答者に新たな閉塞感と無力感を与えてしまった場合も十分にあったはずです。これらの意見を重く受け止め、今後の改善のために参考にさせていただきます。本報告書では、限られた紙面での明解さを重視し、そうした用語が併せ持つ鋭い棘をしっかりと認識したうえで、本アンケートの文中で使用していたもとの用語をそのまま使用します。これらの用語の定義の詳細については「対象と方法」を参照してください。

また、本アンケートのなかには、「フィールドワーク中の性被害を防ぎ、また起こってしまった場合の事後の対処のために、あなた自身がすべきだったこと、あるいは、すべきだと思うことは何ですか?」と問う設問があります(設問番号Ⅲ-7)。これについて、性暴力の発生の原因を被害者に帰し、被害者側に対策を求めているように見えるので不快だった、辛い気持ちになったという意見がありました。本設問は、性暴力が繰り返されないようにするために、後続のフィールドワーカーへのアドバイスをお聞きすることを意図していましたが、「すべき」という表現は不

適切であり、「あなた」ではなく、「フィールドワーカー」と書くなどの配慮が必要でした<sup>2</sup>。

HiF は、性暴力が被害者の行動のみによって防ぐことが可能だとは考えておらず、むしろその周囲にあるフィールドワーク規範や力関係をあぶりだすことが重要だと考えています。この設問の分析内容を読むことで不快になったり不安な気持ちになる方もいらっしゃるかもしれません。そうした内容が含まれている箇所があることをご承知おきください。

---

<sup>2</sup> 本件については以下の web ページ上でも謝罪を公開しています。

<https://safefieldwork.live-on.net/2022/03/17/post-1027/>

# 本文

フィールドワークと性暴力・セクシュアルハラスメントに関する実態調査アンケート（2022年）  
の報告: 1 定量的な解析

## 共同研究グループ HiF

大友瑠璃子（北海道大学）  
椎野若菜（東京外国語大学）  
杉江あい（京都大学）  
蔦谷匠（総合研究大学院大学）  
堀江未央（岐阜大学）  
山口亮太（金沢大学）

連絡先: [fieldworkandsafety@gmail.com](mailto:fieldworkandsafety@gmail.com)

出版: 共同研究グループ HiF

出版日: 2025年2月28日

## 要旨

1990年代以降、セクシュアルハラスメントなどの性暴力が大学や研究機関において重大な問題として認知されるようになった。しかし、フィールドワークの現場で生じる性暴力については、質的および量的な調査分析やその結果をもとにした対策がこれまでほとんどなされてこなかった。多種多様な現場に赴き研究を実施するフィールドワークには、フィールドという特有の社会空間、またそれをめぐって生起する複雑な人間関係から生じる性暴力が存在すると考えられる。フィールドで生じる性暴力の対策は、学問的探究を行う人に等しく安全な場を保障するために共有すべき重要課題である。本調査では、フィールドワーカーが受ける性暴力の実態把握を目的として、2022年に大規模なオンラインアンケートを実施した。日本国内のほぼすべての学協会に協力を依頼し、総計272の学協会を通じて本アンケートを知った2490名から回答を得た。2487名の有効回答のうち、1895名(76.2%)はフィールドワークを行ったことがあると回答し、そのうちさらに290名(15.3%)がフィールドワーク中に自身が何らかの性暴力を受けたことがあると回答した。この290名のうち、87.2%が女性(性自認の回答にもとづきHiFが分類)だった。また、性暴力を受けた回答者のうちの242名から、352件の性暴力に関する具体的な情報を得た。このうち、最近の10年間(2013-2022年)に起こった性暴力の事例は124件ともっとも多く(性暴力の事例全体の35.2%)、なかには、調査時点(2022年)の30年以上前に起こった性暴力についての回答もあった。

この調査結果の第一報となる本報告書では、数値データの集計によって得られた定量的な分析結果を示す。352件の性暴力の事例から見える特に明確な傾向として、加害者が男性である性暴力が94.3%だったこと、上の年齢階級から下の年齢階級への性暴力が77.7%だったこと、さまざまな職位のなかで大学院生(57.4%)と学部生(14.8%)がもっとも多く被害に遭っていることが明らかになった。また、フィールドワーク前に性暴力に関するガイダンスを受けたことがない人は、フィールドワーク経験のある1895名の回答者のうちの88.6%を占めた。自由記述の設問に対する回答のほとんどは未分析であり、今後報告を予定しているものの、本報告書で扱うデータは、フィールドワーカーが被った性暴力の一端を定量的に示している。

## 1. 背景

1990年代以降、日本の大学や研究機関において、年齢やジェンダーに基づく力関係の非対称性に起因する性暴力に注目が集まり、具体的な対策も講じられるようになってきている（たとえば、戒能・角田，2004；沼崎，2005）。しかし、特にフィールドワークの現場で生じる性暴力は、往々にして、組織を中心として実施される防止対策の射程の外に落ちてしまう。フィールドワークには、フィールドという特有の社会空間、またそれをめぐって生起する複雑な関係性から生じる性暴力も存在するためである。フィールドでは、大学や研究機関の構成員間の関わりに限らず、フィールドで出会う人びととの関わりの中かで性暴力を被ることもある。また、複数人でフィールドワークを行なう際にも、組織で実施される防止対策が有効にはたらかないようなフィールド特有の権力構造が立ち現れる場合もあり、その構造は複雑で把握が難しい。

英語で発信されているもののなかでは、人類学の分野に偏っていることは否めないものの、フィールドワーカーに焦点を絞った実態把握の取り組みがある。1987年には、文化人類学分野におけるフィールドワーカーの健康、リスクに関するアンケートがアメリカ人類学会によって実施された（Howell, 1990）。2014年には人類学を中心としつつも分野横断的なオンラインアンケートが実施され、有効回答者 666 人中 426 人（64%）がフィールドでのセクシュアルハラスメント<sup>3</sup>を報告し、140 人（21.7%）が性的暴行<sup>4</sup>の報告をしている（Clancy et al., 2014: 4）。この 2014 年の調査では、典型的な被害者が女性なのに対して、典型的な加害者は同大学や他大学の年長男性だった点など<sup>5</sup>、対策を講じるうえで重要な事実が明らかにされている（飯嶋，2020）。2017 年以降には、人類学研究に携わる研究者らを中心に、性暴力を受けた経験を積極的に告発し共有する「#MeTooAnthro」という活動が起こり、フィールドワーカーに対する性暴力を防ぐため、学生および教育・研究機関向けの指南書や、基本方針および行動計画のガイドラインを作成するよう各機関に対して呼びかけがなされている（Walters and Bergstrom, n.d.）。また、フィールドワークにおける性暴力やハラスメントの経験を記述し、安全対策の必要性を訴える研究が見られるようになってきている（Kloß, 2016）。そうした研究では、フィールドワークに伴う不確実性を考慮しない大学や助成機関の問題も指摘されている（Schneider, 2020）。2019 年には Hanson and Richards (2019) が、望まない性的接触やハラスメントを経験したフィールドワーカーへのインタビューを行い、主に女性がフィールドワーク中に直面するリスクを浮き彫りにした。現行のフィールドワーク教育や民族誌など

---

<sup>3</sup> Clancy et al. (2014, p. 4) では、セクシュアルハラスメントの具体例として、不適切または性的な発言、身体的な美しさに関するコメントなどを挙げている。

<sup>4</sup> Clancy et al. (2014, p. 4) では、性的暴行 (sexual assault) の具体例として、身体的なセクシュアルハラスメント、望まない性的接触、同意をしなかった、することができなかったあるいは反撃したり同意をしないことで危険と感じられた性的接触などを挙げている。

<sup>5</sup> Clancy et al. (2014) による調査は、回答してくれそうな人たちに対して著者たちが個別にメールや SNS でオンラインアンケートのリンクを送信していたほか、人類学系学会の SNS に掲載したもの、興味を持った人たちが SNS でさらに拡散するというスノーボールサンプリング方法を取っている。著者たちはこの調査方法の限界を認めており、サンプルが持ちうるバイアスについて記しているが、データの補正はおこなっていない。



においては、どのような場合においてもフィールドの人びとと良好な関係を保つフィールドワークが理想とされているがゆえに、ハラスメントを受けた経験が不可視化され、研究者のリスクを増幅させていることを指摘している (Hanson and Richards, 2019)。

しかし日本においては、フィールドワーカーが受ける性暴力の問題について、少なくとも研究という形で取り上げられることはなく、分野横断的に把握する試みもこれまでほとんどなされてこなかった。個別の学協会単位では、安全管理マニュアルやハラスメント防止ガイドライン<sup>6</sup>が公表されているものの、フィールドでの性暴力を防ぐためのガイドライン、基本方針、行動計画などの策定以前に、そもそもフィールドワーカーが経験している／した性暴力についての統計的な情報が欠けている<sup>7</sup>。

そこで、HiF は、誰がどのような状況でどのような性暴力を受けている／受けたかといったフィールドワークにおける性暴力の実態把握を目的として、本調査を実施した。フィールドワーカーは、現地の住人、調査協力者、共同研究者、指導者、同僚など、フィールドワークを通じて多様な人と出会い、関わる機会があるため、フィールドワークに関連した性暴力は多様な形態をとると考えられる。そうしたフィールドワークに関連した性暴力には、現地の住人とのあいだで起こるもの、研究者間で起こるもの、現地で出会う同じ国・地域の出身者や同じ組織などに所属している／いた人とのあいだで起こるもの<sup>8</sup>、といった複数の類型があると考えられる。さらに、この類型には、パワーハラスメント、アカデミックハラスメントといった、必ずしも性暴力の形を取らない別の種類の暴力<sup>9</sup>が関わっている場合もあると予想される。また、普段の居住地や所属機関といった日常の場所や、家族や友人などの社会ネットワークから物理的に離れることにより、味方になってくれる人の目が届きにくかったり、助けを求めるといった選択肢が簡単には取れない

---

<sup>6</sup> 例えば、「フィールド調査における安全管理マニュアル」(日本生態学会野外安全管理委員会, 2019)、「ハラスメント防止のためのガイドライン」(日本比較文化学会, 2008)、「ジェンダー法学会ハラスメント防止委員会規程」(ジェンダー法学会, 2008)、「表象文化論学会 ハラスメント防止ガイドライン」(表象文化論学会, 2020) が挙げられる。それらを枚挙することは本報告書の趣旨ではないため一部のみ例を挙げたが、取り上げの有無は個別の学協会による取り組みへの賛否を示すものではないことを念のため付記しておく。

<sup>7</sup> HiF はウェブサイトで、フィールドワークで経験したハラスメントに関する体験記(下記 URL 参照)を募集して掲載しており、杉江(2024)はそれをもとにハラスメントとその二次加害に関する注意喚起を行なっている。丸山(2023)は、いくつかの体験記を引用しつつ、自らの指導学生や自分自身のフィールドにおけるハラスメントの経験を綴っている。その上で、ハラスメントに遭った原因がフィールドワーカーとしての能力不足のためとされ、その経験の共有も問題化もされないこと、またそのことがトラブルのないフィールドワークを正統なものとする規範の強化につながりうることを指摘している。

<https://safefieldwork.live-on.net/category/story/>

<sup>8</sup> たとえば、日本人フィールドワーカーの場合には現地の日本人駐在員などが加害者となるケースがある (SAYNO!, 2020)。

<sup>9</sup> WHO の報告書 (Krug et al., 2002, p. 5, HiF 訳) では、暴力を「自分自身、他人、または集団やコミュニティに対して、意図的に物理的な力や権力を実際に行使したり、それを脅迫に利用すること」とし、「その結果、傷害、死亡、心理的被害、心理的発達不全、心理的剥奪を引き起こしたり、引き起こす可能性が高い力や権力」と定義している。本調査はこの定義をもとに、ハラスメント、いやがらせなどを含む行為を総称して暴力と述べた。

環境に置かれることで、性暴力から逃れられなくなるおそれがある。海外のフィールドであれば、緊急の対処が遅れたり、法的措置を取るのが困難な場合もあるかもしれない。複数人で実施する共同調査の場合は周囲の黙認や加担が助長されて、性暴力が不可視のままにされ、その後の被害者の救済や性暴力への対処がなされなかったり、同様の性暴力が再生産される環境が温存されてしまうおそれもある。本調査では、このような、フィールドにおける性暴力の複雑で重層的な構造を解きほぐし、性暴力を防ぎ、被害者の最大限の救済につなげるための基礎的な知見を提供することを目指した。

## 2. 対象と方法

### 2-1. オンラインアンケートの実施

フィールドワークにおける性暴力の実態について調べるため、性暴力を受けた経験のある人とない人の両方を対象に、2022年1月15日から2022年2月28日までを回答期間として<sup>10</sup>、オンラインアンケートを実施した。Microsoft Forms に日本語と英語で質問項目を記し、回答を収集した（設問と回答）。

理念上の母集団はフィールドワークを経験したことのある人（以下、フィールドワーク経験者とする）とした。しかし、フィールドワーク経験者のみに網羅的にアクセスすることは実際上不可能であるため、日本国内の学協会の所属者すべてを対象とし、そのなかからフィールドワーク経験者に回答を求める設計とした。また、フィールドワーク経験者がどの学協会に所属しているか不明であるため、学問分野を問わず、2021年時点で学会名鑑（学会名鑑 | 日本学術会議 <https://www.scj.go.jp>）に掲載されていた学協会を中心に、日本国内の2100の学協会に調査協力への依頼をメール送信または郵送し会員への周知を依頼した。承諾の得られた330学協会に対しては、HiF ウェブサイトに掲載した調査趣旨と回答フォームのURLを伝え、会員への周知を依頼した。なお、この330学協会の会員数の総和は332731名だったが、ひとりで複数の学協会の会員となっている重複のため実際の人数はもっと少ないと考えられる。各学協会においては、メーリングリストや会のお知らせを掲載するウェブページで会員への周知がなされた場合が多かった<sup>11</sup>。

本アンケートの設問は、次のように構成した。以下の五つの大問に含まれる設問の具体的な内容については設問と回答の章を参照。

0: 学問分野とフィールドワーク経験の有無など

I: 個人の基礎情報および性暴力を受けた経験の有無

II: 性暴力の実態

---

<sup>10</sup> 調査開始当初は2022年2月15日までの期間だったものを2月28日までに延長した。

<sup>11</sup> 本調査の存在を知った個人や組織が、メールを転送したり、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）などで本アンケートの存在を広めることについては妨げなかったが、HiFとして積極的に依頼はしなかった。調査母集団の代表性を担保するため、本アンケートを実施したHiFの各メンバーも、所属組織をはじめとした個人のネットワークを利用しての周知は控えた。

Ⅲ:フィールドワークと性暴力に関する事前学習の有無

Ⅳ:アンケートへのフィードバック

大問Ⅱは、辛い記憶のフラッシュバックなど精神的な苦痛が生じる恐れがあったため、性暴力を受けたという事実を伝えるだけにとどめたい場合には「スキップする」を選択し回答を省略できるようにした。ひとりの回答者が複数件の性暴力について回答できるように、大問Ⅱについては、最大 5 件入力できる設計とした。本報告書では、ひとりの回答者が本アンケートに回答したということを示す場合、「名」あるいは「人」という単位で数える。また、具体的な性暴力の事例は「件」という単位で数えることとした。すなわち、1 名の回答者が性暴力の事例を 1 件のみ入力している場合もあれば、複数件入力している場合もあるということになる。同一の回答者が実施するフィールドワークであっても、フィールドの状況やフィールドワークの内容は目的や時期、場所等によって、大きく変わり得ると考えられる。また、性暴力に遭うことには偶発的な側面もある。そのため、本報告書では、ひとりの回答者が性暴力の事例を複数件入力した場合でも、それぞれの性暴力に関する情報を独立したデータとして扱った。なお、本アンケートの回答フォームには、加害者が同一のケースや、加害者が複数であっても同じフィールドで同様の暴力が繰り返されるケースを 1 件と想定していることを HiF の認識として示しつつも、件数の数え方については回答者自身に委ねた。

オンラインアンケートの実施とその結果の解析作業は、名古屋大学人文学研究科の「人間を対象とした調査・実験に関する研究倫理審査」(承認番号: NUHM-21-009) および総合研究大学院大学の「人を対象とする研究」の実施に関する倫理審査」(承認番号: 2022001rp) の承認を受けて実施した。

## 2-2. 性暴力とフィールドワークの定義

本研究で使用する用語については、以下のように定義した。

- 性暴力:WHO の 2002 年の報告書の定義に準じた (Krug et al., 2002)。すなわち、「本人のセクシュアリティに対する、強制や威嚇によるあらゆる性的行為や、性的行為の試み、性的行動への衝動、望まない性的発話や接近であり、被害者とどのような関係であっても、自宅や職場に限らずどのような場所であっても起こるもの」(Krug et al., 2002, p. 149, HiF 訳) と定義し、本人の望まないすべての性的な意味合いを持った行為を対象とした。この定義は、性的なニュアンスをもったいやがらせなどのいわゆるセクシュアルハラスメントを含む<sup>12</sup>。

---

<sup>12</sup> セクシュアルハラスメントは、さまざまな団体や組織が独自に定義している。例えば、EU(the European Union)の 2006 年指令では、「性的な性質を持ついかなる形の望まない言語的、非言語的、身体的な行為が起こることで、特に、威圧的、敵対的、品位を傷つける、屈辱的、または攻撃的な環境を作り出すなど、人の尊厳を侵害する目的あるいはそのような効果を持って起きる」ことと定義している (European Union, 2006, Article 2(1)(d), HiF 訳)。文部省 (1999) は教育機関への通達として「職員が他の職員、学生等及び関係者を不快にさせる性的な言動、並びに学生等及び関係者が職員を不快にさせる性的な言動」と定義している。本調査における性暴力の定義は、これらの定義が示すセク

- 性被害:性暴力を被ること。
- 被害者:性暴力を被った当事者。
- 加害者:性暴力をふるった当事者。

本調査では、フィールドワークを、資料やデータの収集のために、研究者自らが研究室や研究機関を離れ、研究対象とする地域や団体など（フィールド）に赴き調査を行う研究手法および研究活動と定義した。この定義には、教員の引率のもとでの実習や巡検（エクスカージョン）なども含まれる。実際には、フィールドワークという定義にあてはまるのか、本アンケートを実施した HiF にとってあいまいに思える事例も回答として寄せられた。しかし、回答者がその事例をフィールドワークと考え本アンケートに回答したという事実を尊重し、フィールドワークに広く関連する性暴力の事例<sup>13</sup>として取り扱い、調査結果を解析した。ただし、回答者が明確に「研究ではない」と述べていた 1 事例については、その回答者の「研究ではない」という意向を尊重し、大問Ⅱ（性暴力の実態）の解析からは除外した。また、回答者本人ではなく調査対象者が受けた性暴力の事例に関する回答が 1 件あったが、これについても大問Ⅱの解析からは除外した<sup>14</sup>。

また、本報告書では、三つの種類の括弧を以下の用途のために使い分ける。

- []:アンケートの質問を引用していることを示す。
- <>:アンケートの回答の選択肢を示す<sup>15</sup>。
- 【】:個人特定のリスクを低下させ、また解析結果の解釈を容易にするために、アンケートの回答選択肢および自由記述の回答内容をより大きなレベルのくりに区分し直した用語を示す。

本報告書では、本アンケートの設問と回答選択肢、およびそれらの選択された数とその割合を設問と回答の章にまとめた。選択式および自由記述の回答を大きなレベルに区分し直して集計した場合に得られる割合も設問と回答の章に含めた。本文からそうした選択割合を参照する場合には、設問の番号を利用し、「設問Ⅲ-1」といったように記した。その一方で、複数の回答同士のクロス集計を示す場合には、表として本文に含めた。

### 2-3. データ解析の手順と留意事項

---

シユアルハラメントを内包している。なお、本調査で、双方の用語を併記した経緯については、「はじめに」を参照されたい。

<sup>13</sup> 当初、HiF はフィールドワーク中に起きた性暴力を想定していたが、実際に寄せられた回答には、その前後にフィールドワークに関連して起きた性暴力も含まれていた。どこからどこまでをフィールドワークの最中と見なすかには人によってとらえ方に幅がありうるため、これらの事例も解析の対象にした。

<sup>14</sup> 調査対象者が性暴力を受けた場面を目撃したり見聞きたりすることにより、回答者が望まない間接的な性暴力を受けたと解釈することもできる。しかし、本アンケートではフィールドワーク経験者の受けた性暴力に限定して設問を定めたため除外した。

<sup>15</sup> 元々の選択肢が「Yes」「No」のように英語で提示されていたものに関しては、設問の文脈に応じて表現を変更し、この記号を利用して示している。

本アンケートへの回答は匿名で収集したが、自由記述の回答内容に事例や回答者、関係機関の特定に繋がり得る固有名詞が書かれていた場合には、イニシャルや伏せ字に変換して匿名化処理を施したものを解析に使用した。また、明らかな誤植や誤りについては修正した。これはたとえば、性自認を尋ねる設問に「助成」と回答されたものを「女性」に直すといった操作や、[Ⅱ-3 被害の起こったフィールドワーク先(国)]の設問において〈その他（日本）〉と回答がなされているものを、選択式の〈日本国 Japan〉に割り当て直すといった操作である。また、回答間の相互矛盾についてもスクリーニングした。回答者の選択間違いと考えられる相互矛盾、または設問の言い回しや言葉遣いに不明瞭な箇所があり設問の意図が正確に伝わらなかったと考えられる相互矛盾が全体で 23 点みつき、これらについては、場合によってはほかの設問への回答も参考にしながら、その設問で本来選択されているべき回答のみを集計した。このうち特に 15 点は、[Ⅲ-1 フィールドワークに行く前に、性被害に関するガイダンスを受けましたか?]という設問に対し、〈何も受けていない〉と〈教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いた〉が両方選択されているものであったため、後者の選択のみを残した<sup>16</sup>。明らかに設問の意図が誤って理解され、選ばれた回答が設問への回答になっていないことが自由記述の内容からも判断できた 1 点については、解析から除外した。

次の四つの設問については、自由記述や設問で示された選択肢よりも大きなレベルのくりに区分し直した上で解析した。専門の学問分野（設問 0-2: 科研費審査の中区分を大区分に変換）、西暦年についての設問（設問 I-1, II-2: 現在や当時の年齢を 10 歳区切りの年齢階級に変換）、性暴力の起こった国・地域（日本国内と国外に変換）、加害者の年齢（設問 II-10b: 被害者の 10 歳区切りの年齢階級との違いに変換）である。専門の学問分野の変換時に、複数の大区分に含まれる 1 件の中区分（〈人間医工学 Biomedical engineering〉）については、含まれる大区分（【D】と【I】）の数で割った回答数（0.5 件）をそれぞれの大区分に割り振った。

自由記述の質問に対する回答について、本報告書で解析するのは、[0-1 本アンケートを知ったのはどのような媒体からですか?]と[I-2 あなたの性自認(性別)を自由に書いてください]の二つの設問に対する回答のみである。それぞれは、次のように分類し、解析した。本アンケートを知った媒体については、回答のなかで挙げられた名称や略称を正式な学協会名に変換し、それ以外の媒体については、【学術機関からの通知】(対象が限定してあるメールおよびメーリングリスト等)、【SNS】、【その他・不明】に区分した。

回答者の性自認（設問 I-2）については、【女性】、【男性】、【LGBTQ+】、【答えない】、【不明】の 5 カテゴリーに区分した。明らかに女性または男性を表す語彙のみで表現された回答は、それぞれ【女性】または【男性】に区分した。性自認に「女性」または「男性」といった二元論的な枠組みをあてはめようとする回答は【LGBTQ+】に区分した。【LGBTQ+】には、自身の性自認がわからない、または意図的に定めていないという回答も含まれる。性自認について回答することを積極的に控えた回答（〈その他(答えない)〉など）は【答えない】に区分した。性自認が明示

---

<sup>16</sup> 回答者が、設問で使用した語「ガイダンス」を、教員や先輩や同僚からインフォーマルなアドバイスを受けることとは異なるフォーマルなものであると解釈した、と HiF は判断した。

されておらず、本アンケート実施者である HiF が判断できない回答については【不明】に区分した。本アンケートにはさまざまな性自認の回答が寄せられ、HiF が、そうした多様な性自認をたった五つのカテゴリーに区分してしまうことには、悩みと議論があった。また、性自認はゆらぎ得るものであり、性暴力を受けた当時と回答時とで回答者の性自認が異なる可能性もある。そうした懸念を念頭に置きつつも、解析上の利点を優先し、回答内容を尊重し素直に解釈する形で、つまり HiF の臆測による判断を可能な限り排除した形で、上記五つのカテゴリーに分けた。これにより、回答者の性自認のカテゴリーごとの性被害の傾向を定量的に把握した<sup>17</sup>。こうした定量的な解析でこぼれ落ちてしまう個別のさまざまな性自認の意味合いについては、報告書第三報における性暴力の事例にて言及することを予定している。なお、本アンケートでは加害者の性別についても尋ねた。この質問への回答は、回答者の判断に基づいているため、加害者の性自認と必ずしも一致しているわけではない。

複数選択可能な設問を集計する際には、選択が単一でも複数でも、回答には重みをつけずに同等に扱った。これはたとえば、[ I-3 現在の身分]に〈大学教員(非常勤)〉と〈フリーランス研究者〉の二つの選択肢が選ばれていた場合でも、〈大学教員(非常勤)〉と〈フリーランス研究者〉それぞれの選択肢の回答数を 1/2 として扱うといった計算はせずに、それぞれ回答数 1 ずつとして数えたということである。クロス集計の際に、多くの選択肢を選んだ回答者あるいは多くの選択肢に当てはまる事例の相対的な寄与が全体的には高まってしまふものの、選択肢に提示した特性に少なくとも一部は合致する回答者や事例がどのくらいあったか、という数字を提示することを優先した。そのため、複数選択可能な設問の選択肢の選択割合は、全体の有効回答のなかでどのくらいの割合の回答者や事例がそれを選択したか、それに当てはまるかということの意味し、その設問のすべての選択肢の割合を足した場合に合計が 100%以上となることに注意されたい<sup>18</sup>。ただし、[ I-2 あなたの性自認(性別)を自由に書いてください]と、被害者との年齢差を計算した際の[ II-10 加害者の年齢]はこの計算の例外である<sup>19</sup>。

回答データは統計解析ソフトウェア R によって解析した (R Core Team, 2023)。

### 3. 結果・考察

#### 3-1. 回答データの全体像と代表性

総計で 2490 名からの回答があり、このうち、本アンケートの〈趣旨に同意しない〉回答者 3 名を除いた残りの 2487 名が有効回答者となった (設問 1)。2487 名のうち 1895 名

---

<sup>17</sup> 本アンケートでは、性自認のみを質問しており、回答者が加害者からどのように見なされていたかは尋ねなかったため、性自認に基づいた分析に限る。

<sup>18</sup> 本報告書では、複数選択可であった設問の回答を検討する際、(複数選択可) のように表示している。

<sup>19</sup> [I-2 あなたの性自認(性別)を自由に書いてください]の設問は、選択式ではなく自由記述として設定していたため、複数の性自認カテゴリーを併記することが可能であった。上述の通り、これを【女性】、【男性】、【LGBTQ+】、【答えない】、【不明】のうちの一つのカテゴリーに割り振った。[II-10 加害者の年齢]の設問は、年齢の推定が複数の区切りにまたがる場合もあると考えたため、複数選択可能とした。選択肢を複数選択した回答については、その年代の平均値を利用した。

(76.2%)は「フィールドワークを行ったことがある」と回答し(設問 0-3)、そのうちさらに290名(15.3%)が「フィールドワーク中に自身が何らかの性暴力・性被害に遭ったことがある」と回答した(設問 I-4)。

本アンケートを知った媒体については、有効回答者2487名のうち2327名(93.6%)が学協会の名前を一つ以上挙げた(設問 0-1)。挙げられた学協会の総数は272であり、うち248(91.2%)の学協会はHiFからの本アンケートの周知依頼に対して了承と返答していた。個別の学協会について、その名を挙げた回答者の総和は、平均で9.0名、中央値で4名、最大で163名、最小で1名だった。3名以上の回答者が名前を挙げた学協会は167あり、その名を挙げた回答者数をそれぞれの学協会の正会員の数で割った数値を、近似的な有効回答割合として計算した。その平均は $1.8 \pm 1.4\%$ 、中央値は1.5%だった。まとめると、272学協会の会員から回答があり、回答率の近似的な推測値は1.5%であった。

学協会の名前を挙げていない回答者のうち129名が【学術機関からの通知】(大学や知り合いからの電子メールなど、通知対象を限定したもの)を挙げていた(設問 0-1)。Twitterなどの【SNS】のみから本調査を知ったという回答者は21名存在し、残り10名については【その他・不明】だった(設問 0-1)。

回答者の専門とする学問分野については、2022年時点の科研費の審査区分のうち、大区分にまとめて傾向を検討した(設問 0-2)。有効回答者のうち10%以上のシェアを有していたのは、順に、【A 人文学系】(27.5%)、【I 医学系】(17.3%)、【F 農学系】(14.6%)、【G 生物学系】(13.9%)、【B 数物系】(10.9%)だった<sup>20</sup>。

本アンケートの回答者の代表性については十分に注意する必要がある。本アンケートでは、フィールドワークに興味関心があつて、性暴力を自身や関係者にも十分に起こり得る事象と認識している研究者からの回答が相対的に多数寄せられている可能性が高い。反対に、自分が行なったり携わったりした研究活動を本研究の定義するフィールドワークとして認識していない人や、性暴力を他人事と認識している人は、そもそも、回答まで至らなかった可能性が高いと考えられる。また、本アンケートの周知に協力した学協会、あるいはそもそも学協会全般に所属していない人(例えば、学部生やフリーランス研究者、様々な理由で研究をやめた人、研究活動から距離を取った人)は、フィールドワークの経験があつたとしても、本アンケートに回答する機会が得られなかったと想定される。さらに、一部の層には届きにくいメールやウェブ上でのお知らせなど、電子的な周知が中心となったことにより、学協会に所属している研究者であっても、本アンケートの回答フォームにたどりつくことができなかつた可能性も考えられる。以上のような限界があるため、本調査の結果として報告されているデータは、本アンケートの存在を知ることができた人のうち、フィールドワーク経験者、かつ、フィールドワークにおける性暴力に対する問題意識を有する人の回答が相対的に多数収集されている可能性があることを認識しておく必要がある。

加えて、性暴力を経験したことのある人が大問Ⅱ(性暴力の実態)を回答する場合は、1件ご

---

<sup>20</sup> 2022年1月時点の科学研究費助成事業の審査区分表では、大区分にはアルファベットのみが表記してある。しかし、本報告書では可読性を高めるため、各大区分を簡潔な語で表した。本調査のデータを解釈する際には、そうした学問分野ではなく、あくまで科研費審査区分にしたがった専門分野の区分を元に回答がなされていることに十分留意されたい。

とにたくさんの項目（16 の選択式設問と 10 の自由記述設問）を記入する必要がある設計と  
していた。そのため、一部の回答者からも指摘があったが、時間や労力の要求だけでなく、性暴  
力の詳細を思い出すことによる精神的苦痛も原因となって、本アンケートへの回答を途中で諦  
めた人がいたであろうことも想像に難くない。そのため、大問Ⅱについては、たくさんの項目に  
回答を入力することを厭わなかったか、あるいは精神的苦痛を感じながらも最後まで入力して  
くれた回答者の回答のみから構成されていることも認識しておく必要がある。

### 3-2. フィールドワーク経験のある回答者の全体像

[0-3 これまでの修学・研究のなかで、フィールドワークを行ったことがありますか?]に〈ある〉と回答した 1895 名の情報をもとに、フィールドワーク経験のある回答者の特徴を次のよう  
に捉えることができた。まず、専門とする学問分野は、選択割合のシェアが 10%を超えるもので  
大きい順に、【A 人文系】(32.0%)、【F 農学系】(17.5%)、【G 生物学系】(15.7%)、【B  
数物系】(12.9%) だった (表 1)。出生年から計算した現在の年齢区分は、【40 代】が最大  
(26.5%) だった (設問 I-1)。現在の身分 (複数選択可) でもっとも割合が大きかったのは  
〈常勤の大学教員〉であり (37.1%)、〈その他〉(12.1%)、〈常勤の研究者〉(11.6%)、〈大学院  
生〉(11.1%) と続いた (設問 I-3)。性自認 (性別) については、【女性】が 41.8%、【男性】が  
55.2%であった (設問 I-2)。【LGBTQ+】に区分した回答は 1.0%で、【答えない】が 1.8%  
だった (設問 I-2)。以上をまとめると、本アンケートに回答したフィールドワーク経験者は、年  
代は【40 代】、職位は〈常勤の大学教員〉が最多であった。また、性自認は【女性】と【男性】の割合  
に大きな差はないようだったが、日本の研究者や大学院生のジェンダー比が男性に偏っている  
こと (内閣府男女共同参画局, 2021b) を考えると、本アンケートの回答者は性自認を【女性】  
としている研究者や大学院生からの回答が多かったと言える。

### 3-3. フィールドワーク経験があり、かつ性暴力を受けたことのある回答者の全体像

[I-4 フィールドワーク中に自身が何らかの性暴力・性被害に遭ったことがありますか?]に  
〈ある〉と回答した 290 名の全体像を検討した。専門とする学問分野は、大きい順に、【A 人文  
系】141 名 (48.6%)、【G 生物学系】40 名 (13.8%)、【F 農学系】37 名 (12.8%) と続い  
た (表 2)。ただし、この結果の解釈には留意が必要である。ここで取り上げた学問分野におい  
て、特に性暴力が頻発していると即断することはできない。前述したような回答者の代表性や、  
フィールドワーク経験者の割合が学問分野によって違いうること、分野によって研究者の絶対数  
が違ふと考えられることなどからも、本結果の解釈には慎重さを要する。アンケート回答時点の  
年齢区分では、【40 代】が 78 名で最多 (26.9%) となり、【30 代】が 73 名で続いた  
(25.2%) (表 3)。性自認は【女性】が 253 名 (87.2%)、【男性】が 23 名 (7.9%)、  
【LGBTQ+】が 6 名 (2.1%) だった (表 4、図 1)。また、アンケート回答時点の職位は、〈大学  
教員(常勤)〉が最多の 92 名 (31.7%) で、〈大学院生〉の 44 名 (15.2%) が続いた (表 5)。

大問Ⅱ (性暴力の実態) の解析対象から除外した 2 名の回答者を除いた有効回答者 288 名  
のうち、性暴力の件数については〈1 件〉と回答した者が 139 名 (48.3%) で最多だった (設  
問Ⅱ-0-1)。件数が多くなるほど回答した人数は少なくなったが、〈6 件以上〉という回答者も



33名(11.5%)存在した(設問Ⅱ-0-1)。

288名の有効回答者のうち、46名(16.0%)は大問Ⅱへの回答を〈スキップする〉を選択した。性暴力の〈詳細の入力に進む〉を選択した242名の回答者から、性暴力の事例が総計で352件報告された。事例を2件入力した回答者は53名、3件は12名、4件以上は9名だった。架空のものに変更し匿名性を厳重に確保した上で、事例を報告書などに〈使用してよい〉という回答は、352件のうち332件(94.3%)でなされていた(設問Ⅱ-25)。

性暴力が起こった年代を2022年からさかのぼって10年ずつの区分で集計すると、最近の10年間(2013-2022年)は124件ともっとも回答件数が多く(性暴力の事例全体の35.2%)、それ以前になるほど件数は低下した(設問Ⅱ-2a)。しかし、本アンケート実施時点から30年以上前にあたる1992年以前の区分に起こった性暴力の事例も、23件(6.5%)あった。つまり、フィールドワーカーに対する性暴力は1990年代以前から存在し、本アンケートでは最近10年間で受けた性暴力についての回答件数が多かった。

[0-3 これまでの修学・研究のなかで、フィールドワークを行なったことがありますか?]という設問に〈ある〉を選択した回答者1895名のうち、[I-4 フィールドワーク中に自身が何らかの性暴力・性被害に遭ったことがありますか?]に対して〈ある〉を選択した回答者の割合(以後「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」と表記する)を性自認や専門分野ごとに検証した。まず、性自認ごとに比較すると、「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」は、【女性】が31.9%、(n = 793)、【男性】が2.2% (n = 1046)、【LGBTQ+】が31.6% (n = 19) だった(表6)。フィールドワークを行なったことが〈ある〉と回答した回答者の数が50名以上だった専門分野に限って見ると、「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」は、【A 人文学系】が23.3% (n = 606)、【G 生物学系】が13.5% (n = 297)、【K 環境学系】が12.0% (n = 92)、【F 農学系】が11.1% (n = 332)、【B 数物系】が10.7% (n = 244) と続いた(表7)。性自認と専門分野が「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」に与える影響を検討したところ、【女性】を基準にした場合、性自認が【男性】であることが被害割合の低さを有意に説明していた。また、【A 人文系】を基準にした場合、専門分野が【B 数物系】、【F 農学系】、または【I 医学系】であることが被害割合の低さを有意に説明していた(解析1)。

「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」を現在の職位(複数選択可)ごとに比較すると、いずれの職位でも10-20%程度だった(表8)。本アンケートは、特定の対象者を長期間追跡したデータではなく、本アンケート実施時点のみを対象とした一時点のデータの解析であるため、フィールドワークにおいて性暴力を受けた経験の有無が時間を経て研究者のキャリアに与える影響について、現段階では確実なことが言えない。

いずれの分析においても明確に現れた傾向をまとめると、「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」は、ほかの性自認に比べて【男性】で有意に小さかった(解析1)。

### 3-4. 性暴力が起こった場所と当時の被害者の状況

本節と次節3-5、3-6、3-7では242名から報告された性暴力の事例352件を検討する。これらの節で提示される数値や解析結果には、何らかの性暴力を受けたと回答したが、大問Ⅱ

(性暴力の実態) の入力スキップした 46 名の情報は含まれないことに留意する必要がある。本節では性暴力の起こった場所と当時の被害者の状況について分析する。

まず年齢については、【女性】と【LGBTQ+】では性暴力が起こったときに【20 代】だった事例が最も多く、【女性】(n = 314) で 161 件 (51.3%)、【LGBTQ+】(n = 15) で 8 件 (53.3%) だった (表 9、図 2)。【男性】(n = 19) では、【20 代】または【30 代】だった事例がそれぞれ 6 件 (31.6%) で最多だった (表 9)。つぎに、性暴力が起こった当時の職位については、いずれの性自認においても〈大学院生〉が最も多く、【女性】の場合は 182 件 (58.0%)、【男性】では 6 件 (31.6%)、【LGBTQ+】では 11 件 (73.3%) だった (表 10、図 3)。被害当時の職位が〈学部生〉だった事例はその次に多く、【女性】で 43 件 (13.7%)、【男性】で 5 件 (26.3%)、【LGBTQ+】で 4 件 (26.7%) だった (表 10)。つまり、本アンケートで回答されたフィールドワークにおける性暴力の事例の多くでは、被害者は【20 代】で、〈大学院生〉または〈学部生〉のときに性暴力を受けていた。

性暴力の起こった国・地域を日本国内と国外に区分すると、【国内】が【女性】(n = 314) の場合 176 件 (56.1%)、【男性】(n = 19) では 15 件 (78.9%) だった (表 11、図 4)。【LGBTQ+】(n = 15) では【国内】が 6 件 (40.0%) だった (表 11)。日本を除くと、性暴力の起こった国・地域は 40 挙げられており、挙げられた一つの国・地域あたりの事例の件数の平均は 2.8 件、中央値は 2 件、最大は 13 件、最小は 1 件だった。性暴力の起こる確率が【国内】と【国外】のどちらで高いのかについては、フィールドワークで性暴力を受けたことの〈ない〉回答者にフィールドワーク実施地域を尋ねなかったため、明らかにできなかった。

性暴力が起こった当時の被害者のフィールドワーク経験を見ると、〈まだフィールドワークの初心者〉での事例が【女性】は 97 件 (30.9%)、【男性】は 10 件 (52.6%) と最大で、〈生まれて初めてのフィールドワークで〉の事例はそれぞれ 22 件 (7.0%) と 1 件 (5.3%) だった (表 12、図 5)。【LGBTQ+】では、〈同じ場所で何度もフィールドワークを行っていた〉の件数が 7 件 (46.7%) で最大だった (表 12)。フィールド滞在中初めて性暴力が起こった時期については、フィールド滞在から〈1 ヶ月未満〉だった事例がいずれの性自認でも最多で、【女性】は 191 件 (60.8%)、【男性】は 11 件 (57.9%)、【LGBTQ+】は 4 件 (26.7%) だった (表 13)。性暴力が起こった当時の被害者のフィールドワーク経験ごとに見ても、フィールド滞在中初めて性暴力が起こった時期が〈1 ヶ月未満〉であった場合が最多だった (表 14)。ただし、フィールドワークの全体の滞在 (予定) 期間を尋ねなかったため、性暴力が起こる確率が〈1 ヶ月未満〉でもっとも大きいのか、あるいは、単に、1 ヶ月未満のフィールドワークを行なう回答者が多いだけなのかは区別できなかった。

まとめると、フィールドワークの経験が浅い段階で性暴力が起こった割合が大きい傾向がうかがえるものの、同じ場所で何度もフィールドワークを行っていた段階で性暴力を受けた回答者もあり、フィールドワーク経験を積んでも性暴力を完全に回避するのは難しいことが示唆される。

### 3-5. 加害者の性別と年齢階級

性暴力の事例 352 件から、まず、被害者の特徴と照らし合わせて、加害者の特徴<sup>21</sup>を分析した。被害者の性自認ごとに加害者の性別<sup>22</sup>を見ると、被害者が【女性】である事例 (n = 314) のうちの 305 件 (97.1%)、および、【LGBTQ+】である事例 (n = 15) のうちの 13 件 (86.7%) で、加害者が〈男性〉だった (表 15、図 6)。被害者が【男性】である事例 (n = 19) では、10 件 (52.6%) で加害者が〈男性〉だった (表 15)。被害者の性自認ごとに、被害者と加害者の 10 歳区切り (10 歳階級) の年齢差 (たとえば、被害者が【30 代】で加害者が〈30 代〉の選択のみなら【同年代】、被害者が【30 代】で加害者が〈40 代〉の選択のみなら【加害者が年上】、被害者が【30 代】で加害者が〈10 代〉と〈20 代〉と〈30 代〉の複数選択なら平均が取られて【被害者が年上】となる) を見ると<sup>23</sup>、【被害者が年下】の事例は、【女性】で 191 件、【男性】で 7 件、【LGBTQ+】で 6 件あった。【同年代】の事例は、【女性】で 43 件、【男性】で 4 件、【LGBTQ+】で 1 件あった。【被害者が年上】の事例は、【女性】で 8 件、【男性】で 2 件、【LGBTQ+】で 1 件あった (表 16、図 7)。つまり、本アンケートに入力された性暴力の事例では、被害者の性自認によらず、加害者は〈男性〉である場合がもっとも多く、性暴力の事例の 87% を占める【女性】に対する性暴力では、加害者が〈男性〉の事例が 97% を占めた。また、10 歳階級で比較すると【加害者が年上】である場合がいずれの性自認でももっとも多く、全体の 77.7% を占めた (設問 II-10b)。

### 3-6. 性暴力の類型

性暴力の状況とその類型の関係を検討した。被害者の性自認ごとに検討した場合でも (表 17、図 8)、性暴力の起こった国・地域ごとに検討した場合でも (表 18)、被害者と加害者の 10 歳階級の年齢差ごとに検討した場合でも (表 19)、本アンケートで設問に設定した性暴力の類型 (複数選択可) として選択されたなかでもっとも大きな割合を占めたのは〈望まない接近や接触〉(31.6-81.8%) と〈性的発話〉(31.6-57.9%) だった。〈レイプ〉は【女性】に対する性暴力の事例 (n = 314) のうち 14 件 (4.5%)、【LGBTQ+】(n = 15) のうち 1 件 (6.7%) で選択され、〈強制わいせつ〉は【女性】で 52 件 (16.6%)、【男性】(n = 19) で 3 件 (15.8%)、【LGBTQ+】で 2 件 (13.3%) で選択されていた (表 17)。なお、【男性】から

---

<sup>21</sup> アンケートフォームでは、HiF は「加害者が複数であっても同じフィールドで同様の暴力が繰り返されるケースを 1 件と想定していることを示していたにも関わらず、性暴力の具体的な事例を入力する際に、加害者の性別を複数選択式で提示していなかった。また、その性暴力が複数人によるものだったのか、単独の加害者によるものだったのかを尋ねる設問を設定しなかった。そのため、第一報で報告できる加害者の情報については限られる。被害者との詳しい関係性や、複数か単独かという情報は自由記述に記載されていることも多かったため、この点は、第二報で報告する予定である。

<sup>22</sup> アンケート回答者が判断したものであり、必ずしも性自認と同一であるとは限らない。

<sup>23</sup> 加害者の年齢については 10 歳階級でしか尋ねていなかったため、解析結果の解釈には注意が必要である。すなわち、10 歳ごとに区切った年齢区分に基づいて年齢を比較したものであり、同じ年代とカウントされているものなかにも実際には年上または年下の関係にあるものが存在するはずである。また、どの区分に割り振られるかと年齢差の大きさは必ずしも相関しない場合があり、たとえば被害者 29 歳と加害者 31 歳の 2 歳差のケースは【加害者が年上】に区分されるが、被害者 31 歳と加害者 39 歳の 8 歳差のケースは【同年代】に区分される。

〈レイプ〉と報告された事例はなかった。

性暴力が起こった当時の被害者の年齢階級は 20 代から 40 代に集中したため、被害時の年齢と性暴力の種類の関係は見えにくかった（表 20）。

性暴力の種類ごとに被害者のフィールドワーク経験を見ると、いずれの種類でも、被害者が〈まだフィールドワークの初心者〉である事例の割合がもっとも大きかった（31.2-53.8%）（表 21）。その一方で、〈既に何度もフィールドワークを行っていた場所〉であっても、各種の種類の性暴力が報告されていることも見落としてはならない。フィールドに滞在し始めてから初めて性暴力を受けた時期を性暴力の種類ごとに見ると、いずれの種類でも〈1 ヶ月未満〉の事例の割合が 50%を超えて最大（51.4-84.6%）だった（表 22）。ただし、前述のように、フィールドワークの全体の滞在（予定）期間を尋ねなかったため、種類ごとの性暴力が起こる確率が〈1 ヶ月未満〉でもっとも大きいのか、あるいは、単に、1 ヶ月未満のフィールドワークを行なう回答者が多いだけなのかは区別できない。

### 3-7. 性暴力の事後対応

性暴力の事例 352 件について、事後対応に関連する[Ⅱ-16 被害に遭っているときや被害直後に、フィールドに頼ることのできる人がいましたか?]と[Ⅱ-18 被害のあと、何らかの対処をとりましたか?]の回答について検討した。ただし、これらの設問では、頼れる人の有無が対処行動につながったか否かについては尋ねていないため、この二つの連関について解析は困難である。また、設問Ⅱ-18 中の文言である「対処」が意図する内容や行動に関して、回答者には HiF の想定を事前に共有することはなかった。したがって、たとえば、その場で心身を守るための即時的な行動、今後予測される同様の危機への予防的措置、加害者を罰するための積極的なアクション、などのどこからを対処と見なすかという回答者の認識には大きな幅があると思われる。そのため、詳しい考察は、対処についての自由記述をカテゴリー化したものを数値的に分析する予定の第二報に譲る。

まず、性自認ごとに、設問Ⅱ-16 とⅡ-18 への回答を検討した。頼れる人が〈いなかった〉事例は、【女性】に対する性暴力（n=314）と【LGBTQ+】（n=15）とで半数を超え、それぞれ 215 件（68.5%）および 11 件（73.3%）だった（表 23、図 9）。【男性】（n = 19）では、頼れる人が〈いた〉事例と〈いなかった〉事例がそれぞれ 9 件（47.4%）で同数だった（表 23）。性暴力が起こった後の対処の有無を被害者の性自認ごとに見ると、【女性】では〈とった〉事例は 225 件（71.7%）、【男性】では 11 件（57.9%）と半数を超えた（表 24、図 10）。【LGBTQ+】では〈とった〉事例と〈とらなかった〉事例がそれぞれ 7 件（46.7%）で同数だった（表 24）。被害者の当時のフィールドワーク経験ごとに、被害のあとに対処をとったか否かを見ると、〈生まれて初めてのフィールドワークで被害に遭った〉事例（n = 23）では〈とった〉事例が 21 件（91.3%）だったのに対し、よりフィールドワーク経験を積んだと考えられるほかの状況での性暴力の事例では、〈とった〉事例の割合は 70%前後となった（表 25）。

次に、性暴力の起こった国・地域を日本国内と国外に区分して、頼れる人と対処の有無を比較した。【国内】の事例（n = 199）では、頼れる人が〈いなかった〉事例が 146 件（73.4%）、対処を〈とった〉事例が 125 件（62.8%）、【国外】の事例（n = 113）では、それぞれ〈いなか

った)が 67 件 (59.3%)、〈とった)が 93 件 (82.3%) と半数を超えた (表 26、表 27、図 11、図 12)。

性自認と性暴力の起こった国・地域が頼れる人と対処の有無に与える影響を検討した。【女性】を基準にした場合、性自認が【男性】であることが頼れる人が〈いた)割合の高さを有意に説明していた (解析 2)。また、【国内】を基準にした場合、性暴力が【国外】で起こったことが頼れる人が〈いた)割合の高さを有意に説明していた (解析 2)。対処の有無については、【女性】を基準にした場合、性自認が【LGBTQ+】であることが対処を〈とった)割合の低さを有意に説明していた (解析 3)。また、【国内】を基準にした場合、性暴力が【国外】で起こったことが対処を〈とった)割合の高さを有意に説明していた (解析 3)。この結果をどのように解釈するかはさまざまな可能性があり、現段階では確固とした解釈を提示できない。

被害者の年齢階級は【20 代】と【30 代】、職位は〈大学院生)に大きく偏っていたため、これらの変数と事後対応に関する回答の関係については確実な議論ができない。参考のため、それぞれのクロス表を示した (表 28、表 29)。

被害のあとに対処をとったかどうかを性暴力の類型ごとに見ると、いずれの類型でも多くの回答者は対処を〈とった)と回答しているが、対処を〈とらなかつた)という回答者もいることに留意する必要がある (表 30)。性暴力が起こった後の対処の有無と被害の起きた年代の連関についても検討したが、明確な特徴や傾向は見られなかつた。

性暴力の事例 352 件について、[Ⅱ-20 被害のあと、どのような人に相談しましたか?]という設問に対する複数回答可の回答は、〈誰にも相談しなかつた)が最多の 158 件 (44.9%) だった (設問Ⅱ-20)。この次には〈その他)が 103 件 (29.3%)、〈先輩・後輩を含む大学の友人)が 79 件 (22.4%)、〈恋人・配偶者)が 36 件 (10.2%) で続いた。〈警察)、〈ハラスメント相談窓口)、〈弁護士)といったより公的な性格の相談窓口の選択割合は、すべてを足しても 28 件 (7.9%) だった (設問Ⅱ-20)。内閣府による 2018 年の「男女間における暴力に関する調査」では、性暴力の被害者の相談先として大多数を占めるのが家族や親族および友人や知人であり、公的機関に相談する被害者の割合が非常に少ないという結果が報告されている (内閣府男女共同参画局, 2021a)。本調査の結果もそうした先行調査の結果と整合的だった。

### 3-8. フィールドワーク実施前に行なつた事前学習や準備

[0-3 これまでの修学・研究のなかで、フィールドワークを行つたことがありますか?]に〈ある)と答えた 1895 名の回答者について、フィールドワーク前の事前学習(ガイダンスや情報共有)や準備(用意したものや気を付けたこと)の有無とその種類について検討した。まず、[Ⅲ-1 フィールドワークに行く前に、性被害に関するガイダンスを受けましたか?](複数選択可)への回答を回答者の特徴(年齢や職位や性自認)ごとに検討した。フィールドワークを行なつたことが〈ある)と回答した 1895 名のうち、回答者の現在の年齢階級すべてにおいて、〈何のガイダンスも受けていない)が選択された割合がもっとも大きかつた (82.9-91.1%)。何らかの事前学習を受けたことのある回答者のなかでは、〈教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり体験談を聞いた)を選択した割合がほとんどの年齢階級で最大だった (表 31)。フィールドワークを行なつたことが〈ある)回答者 1895 名の事前に事前学習を受けた経験の有無を

現在の職位ごとに見ると、アンケート回答時点の職位が〈学部生〉の回答者（n=28）は、それ以外の職位を選んだ回答者と比べて、フィールドでの性暴力に関するさまざまな種類の事前学習を受けた割合がすべてにおいて大きい傾向にあった（表 32）。また、フィールドワークを行なったことが〈ある〉回答者 1895 名の事前学習を受けた経験の有無を現在の性自認ごとに見たクロス集計もまとめたが、〈何のガイダンスも受けていない〉回答者がほとんどを占めたため、さらなる解析は実施しなかった（表 33）。

以上のことから、性暴力を受けた回答者も含め本アンケートに回答したほとんどのフィールドワーク経験者は、年齢区分や現在の職位や性自認に関わらず、性暴力に関しての事前学習を受けたことがないことが示される。ただし、なんらかの事前学習を受けた回答者のうち、年齢区分や現在の職位や性自認に関わらず、〈教員や先輩・同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり体験談を聞いた〉は選択割合がもっとも大きい傾向にあった。

次に、性暴力に関しての事前学習を受けた経験の有無およびその形態ごとに、[Ⅲ-2 フィールドワークに行く前に、性被害の可能性を考えて用意したもののや気を付けたことはありますか?]への回答を検討した。事前学習を〈何も受けていない〉1679 名の場合では、事前に用意したもののや気を付けたことが〈ある〉と回答した回答者は、230 名（13.7%）だったが、〈教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり体験談を聞いた〉119 名では 43.7%だった（表 34、図 13）。事前学習を〈何も受けていない〉を基準にすると、何らかの事前学習を受けたことが、用意したもののや気を付けたことが〈ある〉割合の高さを有意に説明していた（解析 4）。また、性自認と事前学習を受けた経験の有無とその種類が、事前に用意したもののや気を付けたことの有無に与える影響を検討した。【女性】を基準にした場合、性自認が【男性】であることが、用意したもののや気を付けたことが〈ある〉割合の低さを有意に説明していた（解析 4）。性暴力に関する事前学習を受けた経験の有無および形態ごとに、「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」を検討した。事前学習を〈何も受けていない〉回答者では「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」が 15.1%だった一方、〈教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり体験談を聞いた〉回答者では、「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」は 22.7%だった（表 35、図 14）<sup>24</sup>。しかし、性自認と備えの有無の組み合わせごとに、

---

<sup>24</sup> この結果は、周囲の人から性暴力に関する情報の提供があるような環境にいることと、実際に性暴力が起こる確率が大きいことが正に相関しているような状況を示唆する。この結果に関しては、様々な解釈がありうる。例えば、フィールド自体の危険について事前に情報が共有されている環境、研究者などからの過去のハラスメントについて情報が事前に共有されている環境などにいることは、フィールドワーク先で実際に性暴力が起こる確率が最初から高いことを示している可能性がある。また、性暴力全般についての知識が共有されている環境にいて、自分の身に起こった性暴力を性暴力だと認識する可能性がある。性暴力の被害者たちの語りをもとに性暴力が起こるプロセスを分析した金田（2020, p.66）は、被害者が自分だけでは自らの身に起こったことを性暴力であると明確に自覚できない場合が多々あり、友人などの第三者が被害者の自覚を促す上で重要な役割を果たすことを指摘している。いずれにせよ、この設問では因果の関係を明らかにしておらず、性暴力に関する注意喚起を受けたり体験談を聞いたりしたことが理由で性暴力を受ける、という因果関係を示す結果ではないと考えられる。また、本文中に記したように、一般化線形モデルの結果は、周囲の人から性暴力に関する情報の提供があるような環境にいることが実際に性暴力を受ける確率を大きくするという因果関係を

「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」を見ると、【女性】と【男性】では、気をつけたり用意したものが〈ある〉場合でも〈ない〉場合でも、「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」はそれぞれ同様だった（表 36）。さらに、性自認、事前学習を受けた経験の有無と種類、準備の有無が「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」に与える影響を検討したところ、女性を基準にした場合に【男性】であることのみが被害割合の低さを有意に説明していた（解析 5）。

### 3-9. 性暴力を防ぐために回答者が必要と答えた対策

フィールドワーク中の性暴力を防ぎ、また起こってしまった場合に、関係者が取るべき対策についての選択式回答を検討した。ただし、いずれの設問においても、特に性暴力を受けた回答者が〈その他〉を選択した割合が高いこと、そして、本調査で設定した選択肢が、被害者が真に望む対策を包含していなかった可能性があることに、留意が必要である。なかでも、（潜在的な）加害者をターゲットにした対策を選択肢として用意しておらず、その重要性が過小評価された結果になっているおそれがある。また、取るべき対策は事例ごとに異なる可能性も十分にあり、たとえば、加害者が所属機関内部にいる人物（指導教員など）である場合とそうでない場合とでは、回答者の求める対策は全く異なってくるのが予想される。そのため、本節で示す結果の過度の一般化は危険であり、現時点ではこの結果をもとにして対策の指針が立てられる状況にはない。

[I-4 フィールドワーク中に自身が何らかの性暴力・性被害に遭ったことがありますか?]に〈ある〉と回答した 290 名の回答傾向を検討した。現地の機関が取るべき対策では、選択者が多い順に、〈性被害に関するヘルプデスクを常時設置する〉が 81 名（27.9%）、〈性被害の危険に関する注意喚起、パンフレットの配布など〉が 69 名（23.8%）と、選択割合が 20%を超えた（表 37）。所属機関が取るべき対策では、〈性被害の危険に関する講習会の実施〉が 85 名（29.3%）、〈カウンセリングの案内や法的措置を含めた所属機関主導の被害対応〉が 82 名（28.3%）と、選択割合が 3 割近くとなった（表 38）。指導的な立場の人が取るべき対策では、回答が分散した（表 39）。個人個人のフィールドワーカーが取るべき対策も選択先が分散した（表 40）。

次に、フィールドワーク経験のある回答者 1895 名のうち、フィールドワークで性暴力を受けたことの〈ある〉回答者 290 名と〈ない〉回答者 1605 名の傾向を比較し、性暴力を受けた経験の有無によって選択にもっとも差が現れた対策を見た。現地の機関が取るべき対策では、〈現地の警察や病院、カウンセリングなど必要な機関と連携〉を選択した被害者の割合は 16.9%（49 名）で、性暴力を受けたことがない人は 30.7%（492 名）だった（表 37）。所属機関が取るべき対策では、〈所属機関におけるハラスメント対策センターなどの設置、充実〉および〈カウンセリングの案内や法的措置を含めた所属機関主導の被害対応〉を選択した被害者の割合は 17.2%（50 名）および 28.3%（82 名）だが、性暴力を受けたことがない人は 25.7%（412 名）および 36.3%（583 名）だった（表 38）。指導的な立場にある人が取るべき対

---

支持しなかった（解析 5）。

策では、〈あなたの滞在先や移動手段などの安全性を確認する〉を選択した被害者の割合は 7.6% (22 名) で、性暴力を受けたことがない人は 17.5% (281 名) だった (表 39)。個人個人のフィールドワーカーが取るべき対策では、〈教員や先輩など、フィールドワークの経験者に話を聞く〉を選択した被害者の割合は 14.8% (43 名) で、性暴力を受けたことがない人では 7.9% (126 名)、〈性被害対応に必要なフィールドの情報を集めておく〉を選択した被害者の割合は 13.4% (39 名) で、性暴力を受けたことがない人では 33.8% (543 名) だった (表 40)。

性暴力を防ぐ対策と起こってしまった場合の事後対処に関する設問と大問 II (性暴力の実態) のあいだのクロス集計については厳密な議論ができず、本文では取り扱わないこととした。これは、まず、性暴力を防ぐため、また事後対処として必要だと思うことの各設問は、回答者が受けた性暴力の事例ごとに尋ねたわけではなく、回答者ひとりにつき一つの回答しかできない設計としていたためである。また、性暴力を受けたことの〈ある〉回答者によって選択された回答が、自身の経験した性暴力の事例において実際に有効だったものなのか、自身の性暴力の事例では取ることができなかったが、本来はあると望ましかった対策として選択されたのかによって、回答のニュアンスが変化するためである。

#### 4. 結論

以上で報告した結果は、フィールドワークを経験したことがあるすべての人びとのうち、本アンケートにアクセスすることができ、フィールドワークにおける性暴力に対する問題意識を有する人の回答が相対的に多数収集されている可能性が高いことを常に認識しておく必要がある。また、性暴力の事例については、たくさんの項目に回答を入力することを厭わなかった人の回答のみから構成されていることも認識しておく必要がある。

本アンケートでは、1895 名の〈フィールドワークを行ったことがある〉回答者のうち、290 名が〈フィールドワーク中に自身が何らかの性暴力・性被害に遭ったことがある〉と回答した (設問 I-4)。その内訳は、【女性】が 253 名 (87.2%)、【男性】が 23 名 (7.9%)、【LGBTQ+】が 6 名 (2.1%) だった (表 4、図 1)。

次に、特に重要と HiF が考える結果を以下に箇条書きで記す。解析に使用した具体的な性暴力の事例 352 件の分析から明らかになったことは以下の通りである。

- 本調査で報告された性暴力が起こった時期は、最近の 10 年間 (2013-2022 年) が事例全体の 35.2% を占めた。しかし、なかには、本アンケート調査時点 (2022 年) の 30 年以上前に起こった性暴力についての回答もあった (設問 II-2a)。
- 【20 代】のときに性暴力を経験した事例が、【女性】 (n = 314) は 161 件 (51.3%)、【LGBTQ+】 (n = 15) は 8 件 (53.3%) だった (表 9、図 2)。【男性】 (n = 19) では、【20 代】または【30 代】で性暴力を受けた事例がそれぞれ 6 件 (31.6%) だった (表 9)。
- さまざまな職位のなかで、〈大学院生〉と〈学部生〉のときに性暴力を受けた事例が全体の 72.6% を占めた。〈大学院生〉は 202 件、〈学部生〉は 52 件 だった (設問 II-1)。



- 性暴力の起こった国・地域を、日本国内と国外に区分すると、【国内】は 199 件（56.5%）、【国外】は 113 件（32.1%）だった（設問Ⅱ-3）。【国外】には 40 の国・地域が挙げられた。
- 性暴力が起こった当時の被害者のフィールドワーク経験は〈まだフィールドワークの初心者〉での事例が 112 件（31.8%）を占めた。〈生まれて初めてのフィールドワークで〉の事例は 23 件（6.5%）だった（設問Ⅱ-6）。
- 加害者が〈男性〉であった性暴力の事例が 332 件で、全体の 94.3%を占めた（設問Ⅱ-11）。
- 10 歳階級で比較すると【加害者が年上】であった性暴力の事例が 205 件で全体の 77.7%を占めた（設問Ⅱ-10b）。
- 本調査で報告された性暴力の類型は、〈望まない接近や接触〉が 61.1%、〈性的発話〉が 41.2%だった（設問Ⅱ-15）。
- フィールドで頼れる人がいなかった性暴力の事例は 237 件で、全体の 67.3%を占めた（設問Ⅱ-16）。【女性】を基準にした場合、性自認が【男性】であることが、頼れる人がいた割合の高さを有意に説明していた（解析 2）。また、【日本国内】を基準にした場合、性暴力が起こったのが【国外】であることが、頼れる人がいた割合の高さを有意に説明していた（解析 2）。
- 性暴力が起こった後に何らかの対処を〈とった〉事例は 247 件で、全体の 70.2%を占めた（設問Ⅱ-18）。【女性】を基準にした場合、性自認が【LGBTQ+】であることが対処を〈とった〉割合の低さを有意に説明していた（解析 3）。また、【日本国内】を基準にした場合、性暴力が起こったのが【国外】であることが対処を〈とった〉割合の高さを有意に説明していた（解析 3）。
- 性暴力が起こった後に、〈誰にも相談しなかった〉事例が 158 件と最多で、全体の 44.9%を占めた（設問Ⅱ-20）。

フィールドワーク経験者全体（1895 名）の事前学習や準備（設問Ⅲ-1、Ⅲ-2）に関して明らかになったことは以下の通りである。

- フィールドワークにおける性暴力についての事前学習（ガイダンスや情報共有）を受けていないフィールドワーク経験者は 1679 人であり、88.6%を占めた（設問Ⅲ-1）。職位や年代、性自認、専門分野の大区分による違いは見られなかった。
- 事前学習の有無と性自認が準備（用意したものや気を付けたこと）の有無に与える影響を検討すると、事前学習を〈何も受けていない〉を基準とした場合、何らかの事前学習を受けた経験は、用意したものや気を付けたことがある割合の高さを有意に説明していた（解析 4）。また、【女性】を基準とした場合、【男性】であることが用意したものや気を付けたことが〈ある〉割合の低さを有意に説明していた（解析 4）。
- 事前学習の有無、性自認、準備の有無が、性暴力にあう確率に与える影響を検討すると、事前学習を〈何も受けていない〉を基準とした場合、何らかの事前学習を受けた経験は、性暴力を受ける確率と有意な関係を持たなかった（解析 5）。また、事前に用意したものや気を付けた

ことが〈ない〉を基準とした場合、事前に用意したもののや気を付けたことが〈ある〉ことも、性暴力にあう確率と有意な関係を持たなかった（解析 5）。しかし、【女性】を基準とした場合、性自認が【男性】であることが性暴力にあう確率の低さを有意に説明していた（解析 5）。

フィールドワーク中の性暴力を防ぎ、また起こってしまった場合に関係者が取るべき対策について、フィールドワーク経験者全体（1895 名）が回答した選択式設問（設問Ⅲ-4～7）から明らかになったことは以下の通りである。

- 現地の機関がとるべき対策、所属機関がとるべき対策、指導的な立場にある人がとるべき対策、個人個人のフィールドワーカーがとるべき対策のいずれの設問においても、性暴力の状況によって望まれる選択肢は異なると考えられるため、本調査の回答の傾向から有効な対策を一般化することはできない。また、特に性暴力を受けた回答者が〈その他〉を選択した割合が高かったことは、被害者が真に望む対策を選択肢として包含できていなかった可能性を示唆する。
- 有効な対策として選択された回答のうち、フィールドワークで性暴力を受けたことの〈ある〉回答者 290 名と〈ない〉回答者 1605 名とで選択割合が 10%以上異なるものが存在した。こうした差異は、一般には有効だと考えられているが実際にはそうでない対策やその逆を示している可能性があり、将来的により詳しく検証していく価値があるかもしれない。

## 謝辞

黄潔さん、稲角暢さんにはアンケート実施に向けた諸準備を共同で実施いただきました。本報告書の草稿に対して、駒澤大佐さん、服部久美恵さん、本郷峻さんには大変貴重かつ適切なご指摘・ご助言をいただきました。小室萌佳さんには表紙と裏表紙のイラストを提供いただきました。ここに記して謝意を表します。

なお、本調査を含め HiF の活動は以下の助成を受けて実施いたしました。

- 2022 年 Diversity, Equity, and Inclusion (DEI) 推進に向けた研究助成(北海道大学)
- 2021 年 若手研究者研究支援制度:三大学共同研究支援制度(北海道大学)
- 2021 年 NICA フェロー (名古屋大学)
- 2021 年 名古屋大学高等研究院共同研究助成(名古屋大学)

## 引用文献

飯嶋秀治, 2020, 人類学会の安全教授と大学ガイドラインの間で, 澤柿教伸、野中健一、椎野若菜(編)『FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 第 9 巻 フィールドワークの安全対策』古今書院 p. 113-123.

戒能民江・角田由紀子, 2004, 『キャンパスのセクハラ対策 調査・紛争処理編—法的対処を踏まえた運用“進化”と危機管理 (高等教育ハンドブック)』地域科学研究会.

金田智之, 2020, 地位・関係性を利用した性暴力—社会的抗拒不能, 齋藤梓、大竹裕子 (編)

- 『性暴力被害の実際—被害はどのように置き、どう回復するのか』金剛出版 p. 55-68.
- ジェンダー法学会, 2008, ジェンダー法学会ハラスメント防止委員会規程,  
[https://jagl.jp/?page\\_id=364](https://jagl.jp/?page_id=364)
- 杉江あい, 2024, フィールドワークにおいて注意すべきこと—質的調査を中心に, 吉田容子、  
影山穂波 (編), 2024, 『ジェンダーの視点でよむ都市空間』古今書院 p. 148-156.
- 内閣府男女共同参画局, 2021a, 男女間における暴力に関する調査報告書,  
[https://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/e-vaw/chousa/pdf/r02/r02danjokan-12.pdf](https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/chousa/pdf/r02/r02danjokan-12.pdf)
- 内閣府男女共同参画局, 2021b, 令和 3 年版 男女共同参画白書,  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r03/zentai/pdf/r03\\_print.pdf](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/pdf/r03_print.pdf)
- 日本生態学会野外安全管理委員会, 2019, フィールド調査における安全管理マニュアル, 日本生態学会誌 69: S1-S94.
- 日本比較文化学会, 2008, ハラスメント防止のためのガイドライン,  
[https://hikakubunka.jp/?page\\_id=167](https://hikakubunka.jp/?page_id=167)
- 沼崎一郎, 2005, 『改訂増補版 キャンパス・セクシュアル・ハラスメント対応ガイド—あなたにできること、あなたがすべきこと』嵯峨野書院.
- 表象文化論学会, 2020, 表象文化論学会 ハラスメント防止ガイドライン,  
<https://www.repre.org/association/antiharassment/>
- 丸山里美, 2023, フィールドワークにおけるセクシュアル・ハラスメント, 理論と実践 16: 18-31.
- 文部省, 1999, 文部省におけるセクシュアル・ハラスメント防止等に関する規程の制定について,  
<https://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/boryoku/houkoku/pdf/hbo04j-2-6.pdf>
- 横山広美, 2022, 『なぜ理系に女性が少ないのか』幻冬舎.
- Clancy, K. B. H., Nelson, R. G., Rutherford, J. N., Hinde, K., 2014, Survey of academic field experiences (SAFE): Trainees report harassment and assault. PLOS ONE 9: e102172.
- European Union, 2006, Directive 2006/54/EC of the European Parliament and of the Council of 5 July 2006 on the implementation of the principle of equal opportunities and equal treatment of men and women in matters of employment and occupation (recast), Official Journal of the European Union 204, p. 23-36.
- Krug, E. G., Linda L. D., James A., Mercy, J. A., Anthony, B. Z., Lozano, R., 2002, World report on violence and health. World Health Organization.  
[https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/42495/9241545615\\_eng.pdf](https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/42495/9241545615_eng.pdf)

- Hanson, R., Richards, P., 2019, Harassed: Gender, bodies, and ethnographic research. University of California Press.
- Howell, N., 1990, Surviving fieldwork: A report of the advisory panel on health and safety in fieldwork. American Anthropological Association.
- Kloß, S. T., 2017, Sexual(ized) harassment and ethnographic fieldwork: A silenced aspect of social research. *Ethnography* 18: 396–414.
- R Core Team, 2023, R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing.
- SAYNO!, 2020, <https://sayno-ryugaku.com/fact/>
- Schneider, L. T., 2020, Sexual violence during research: How the unpredictability of fieldwork and the right to risk collide with academic bureaucracy and expectations. *Critique of Anthropology* 40: 173–193.
- Walter, H., Bergstrom, K., n.d., A long journey home: Faculty guide. <https://metoanthro.org>

図

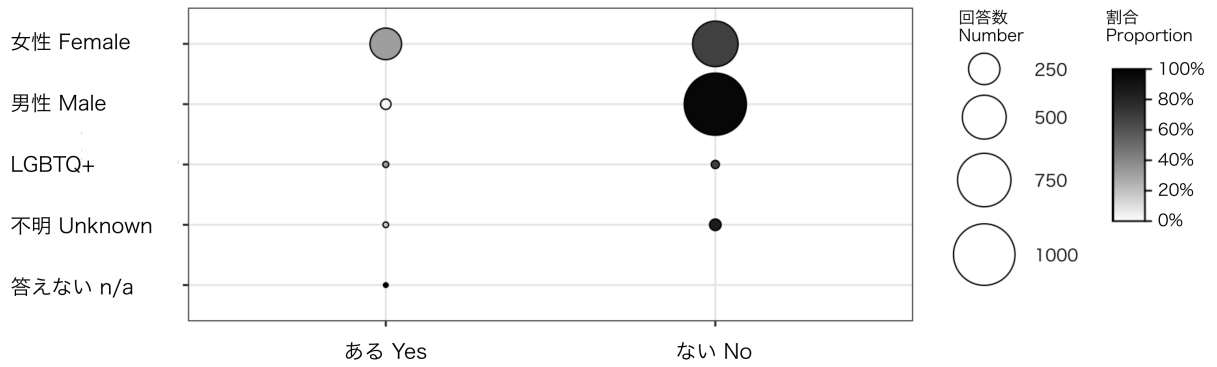


図 1. 性自認ごとに区分した、性被害の有無

Figure 1. Experience of sexual violence by fieldworkers' gender identity

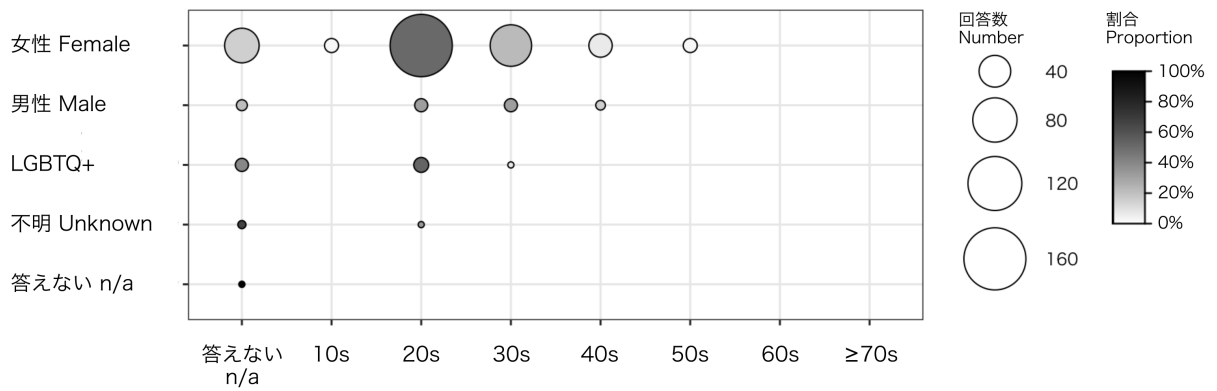


図 2. 性自認ごとに区分した、被害当時の年齢階級

Figure 2. Age class at the time of sexual violence by victims' gender identity

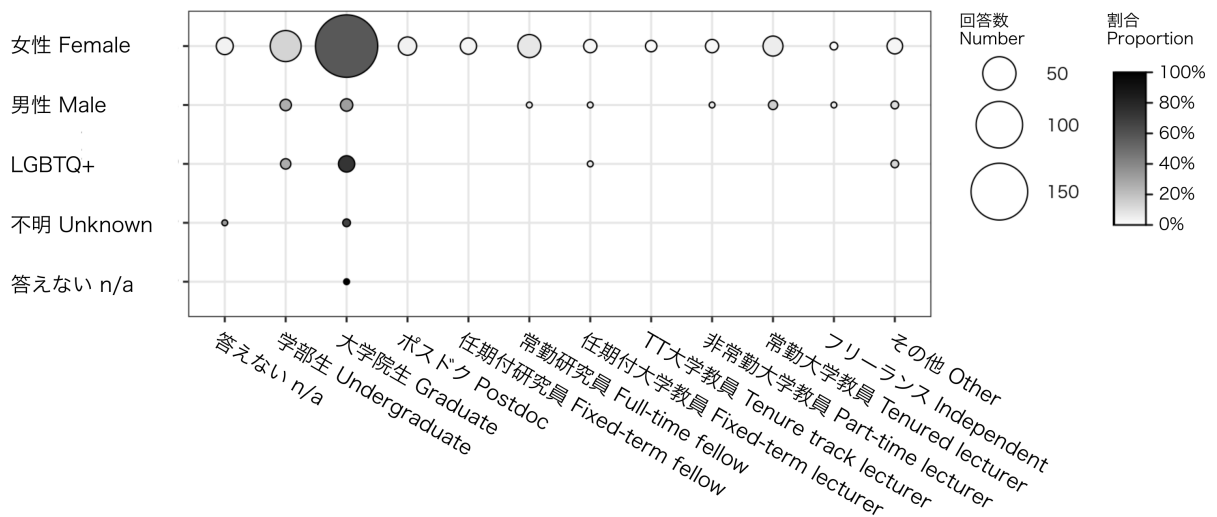


図 3. 性自認ごとに区分した、被害当時の職位

Figure 3. Position at the time of sexual violence by victims' gender identity

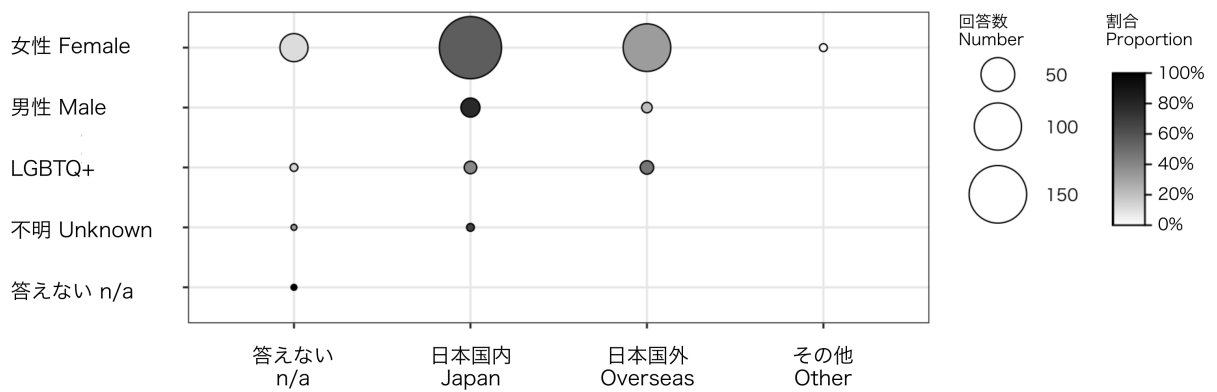


図 4. 性自認ごとに区分した、性暴力の起こった国・地域

Figure 4. Country/region where sexual violence occurred by victims' gender identity

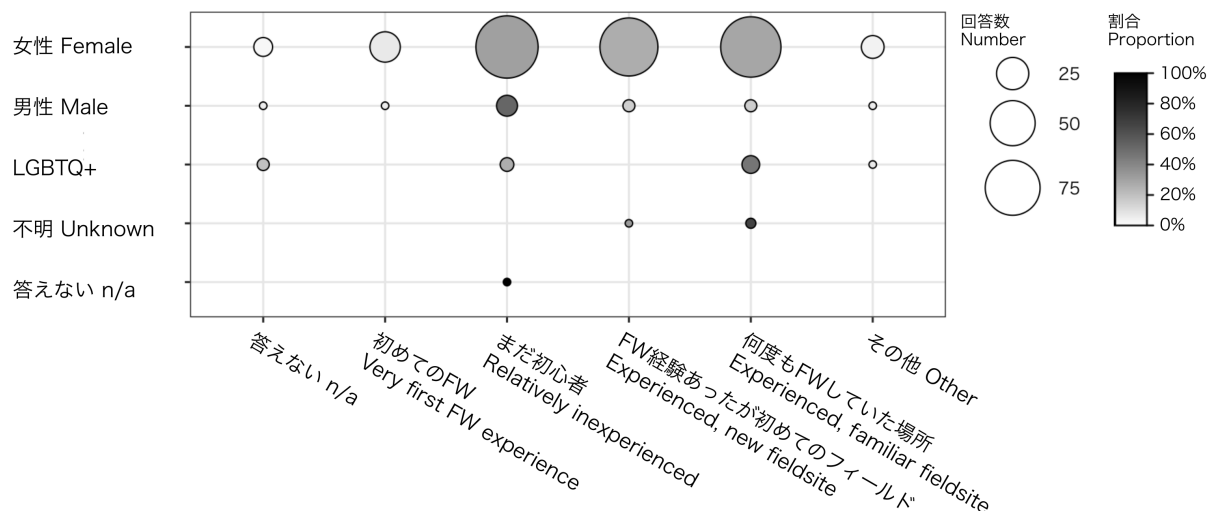


図 5. 性自認ごとに区分した、被害当時のフィールドワーク経験  
 Figure 5. Fieldwork experience at the time of sexual violence by victims' gender identity

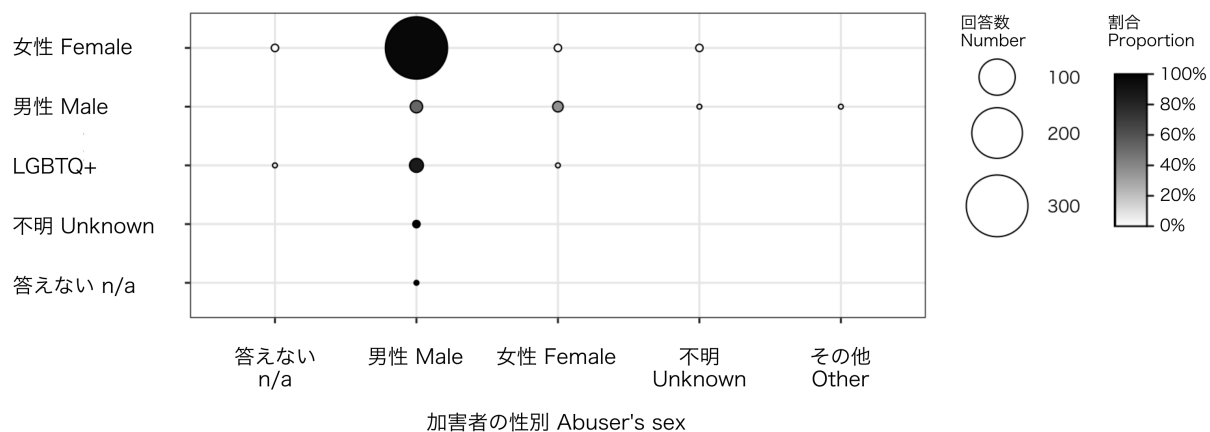


図 6. 被害者の性自認ごとに区分した、加害者の性別  
 Figure 6: Abuser's sex by victims' gender identity

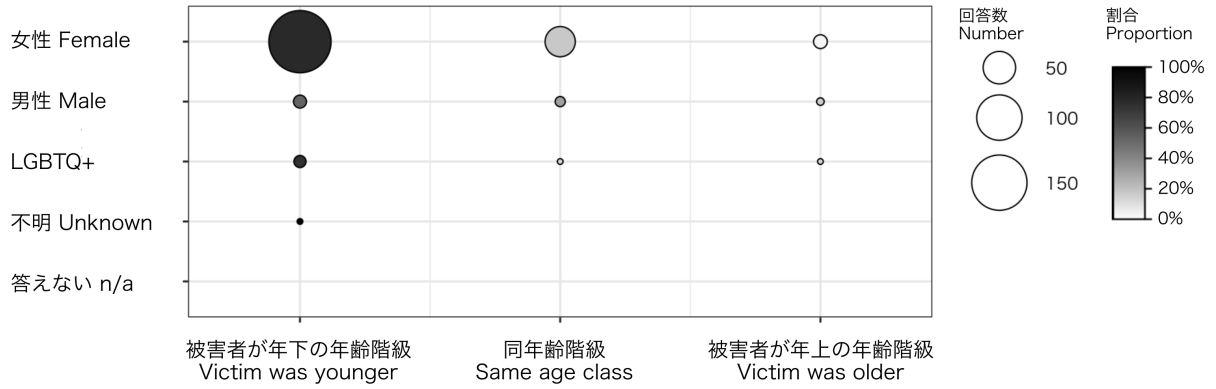


図 7. 被害者の性自認ごとに区分した、被害者と加害者の年代差  
 Figure 7. Age class difference between victim and abuser by victims' gender identity

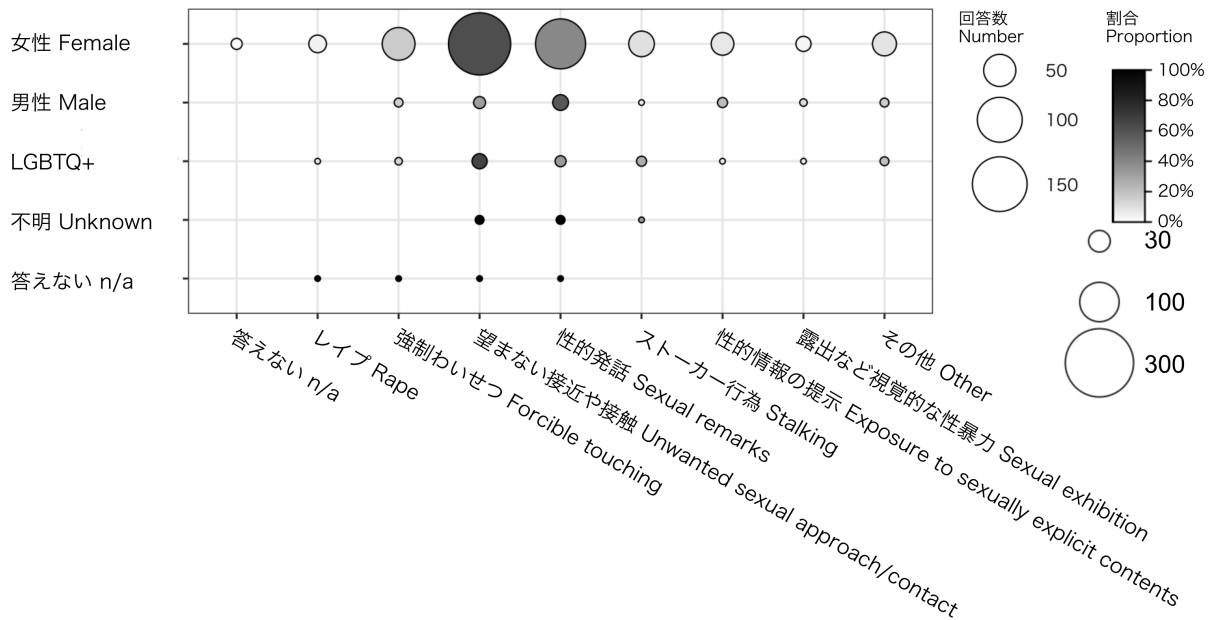


図 8. 性自認ごとに区分した、性暴力の種類  
 Figure 8. Type of sexual violence by victims' gender identity



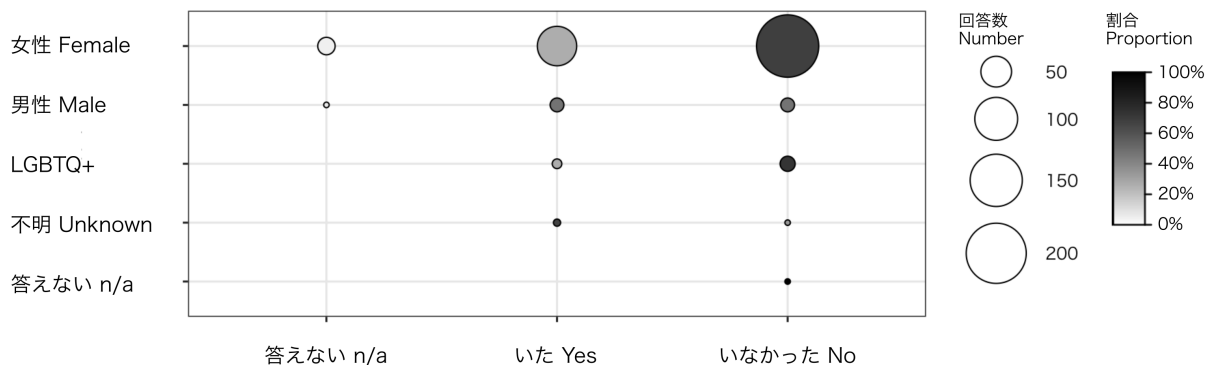


図 9. 性自認ごとに区分した、フィールドにおける頼れる人の有無  
 Figure 9. Presence/absence of a reliable person at the fieldsite by victims' gender identity

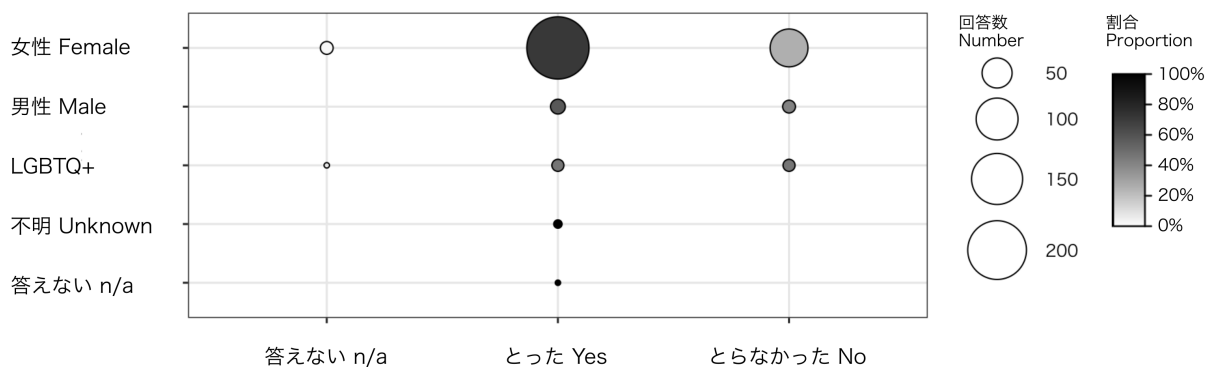


図 10. 性自認ごとに区分した、被害後の対処の有無  
 Figure 10. Taking action or not after sexual violence by victims' gender identity

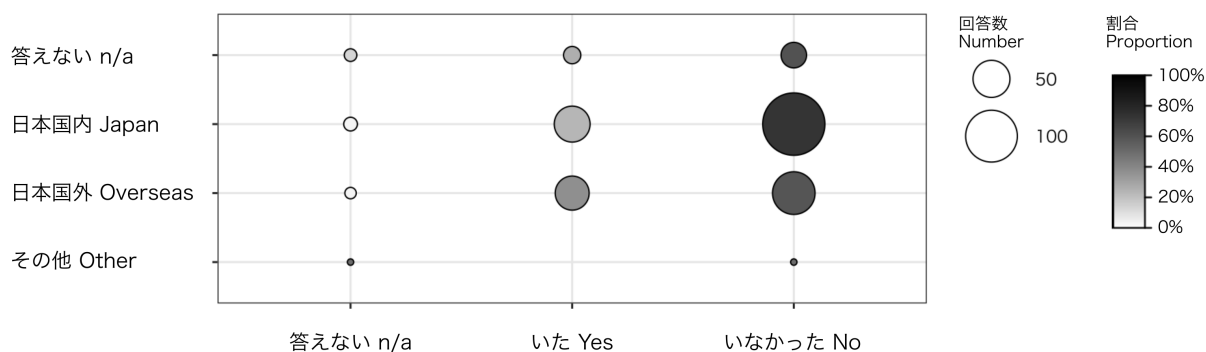


図 11. 性暴力の起こった国・地域ごとに区分した、フィールドにおける頼れる人の有無  
 Figure 11. Presence/absence of a reliable person at the fieldsite by country/region where sexual violence occurred

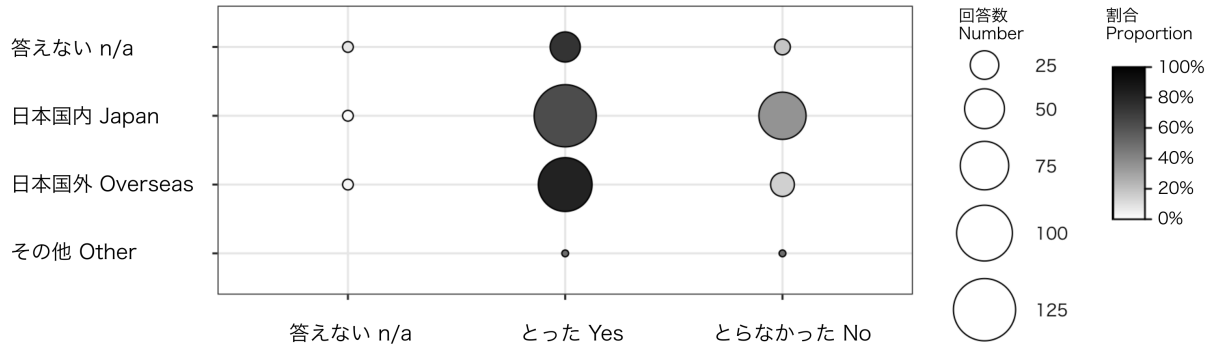


図 12. 性暴力の起こった国・地域ごとに区分した、被害後の対処の有無  
 Figure 12. Taking action or not after the sexual violence by country/region where sexual violence occurred

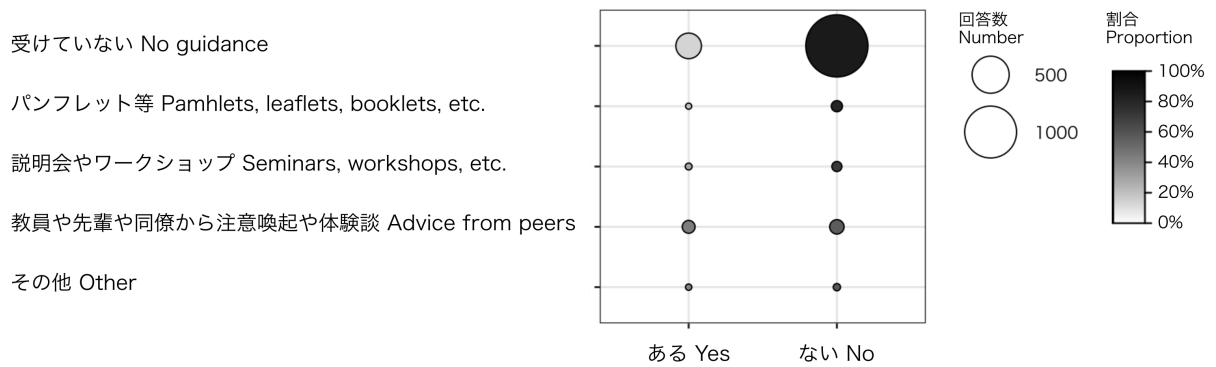


図 13. 性暴力に関する事前学習についての回答で区分した、準備の有無  
 事前学習はガイダンスや情報共有、準備は用意したものや気を付けたことを指す。  
 Figure 13. Pre-fieldwork preparation by fieldworkers' experience of receiving prior guidance

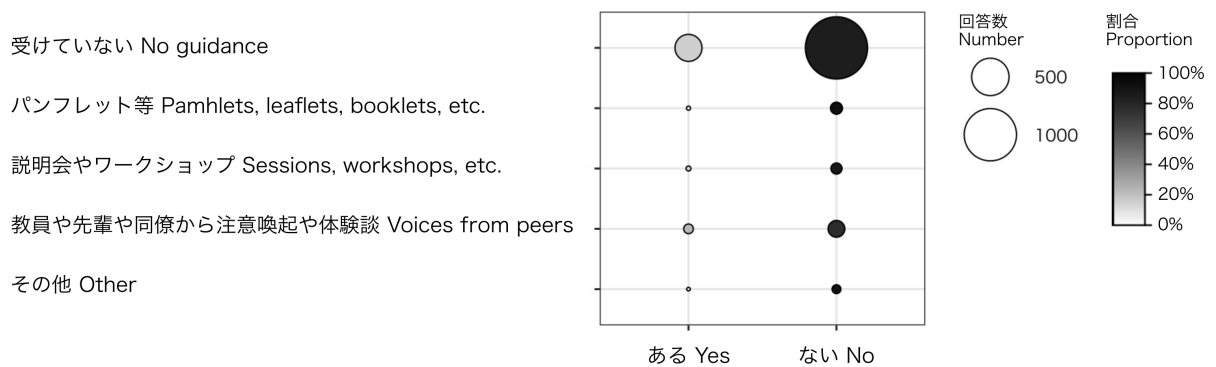


図 14. 性暴力に関する事前学習についての回答で区分した、性被害の有無  
 Figure 14. Experience of sexual violence by fieldworkers' experience of receiving prior guidance

表

本文に掲載しているクロス表の中には、同じデータを対象としながら縦と横が入れ替わっているだけのものもある。これは、何を基準に比較を実施しているかが異なるためである。簡潔さよりは理解のしやすさを優先し、本報告書ではそうした表面的に重複している表も異なる複数の表として掲載した。

表 1. フィールドワークを行なったことがあるかどうかで区分した、専門分野の大区分の回答数と割合 (%)

Table 1. Academic discipline by respondents' fieldwork experience

	答えたくない I do not want to answer	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	n
あり YES	45 (2.4%)	606 (32.0%)	244 (12.9%)	43 (2.3%)	25 (1.3%)	22 (1.2%)	332 (17.5%)	297 (15.7%)	32 (1.7%)	150 (7.9%)	7 (0.4%)	92 (4.9%)	1895
なし NO	32 (5.4%)	79 (13.3%)	26 (4.4%)	6 (1.0%)	17.5 (3.0%)	25 (4.2%)	32 (5.4%)	49 (8.3%)	38 (6.4%)	280.5 (47.4%)	4 (0.7%)	3 (0.5%)	592

注:大区分の詳細は審査区分表 (<https://www-kaken.jsps.go.jp/kaken1/daichukubunList.do#K>) 参照。

Note: Please refer to the review category of KAKENHI (Grants-in-Aid for Scientific Research) to see what academic discipline each alphabetical category includes.

表 2. 性暴力を受けたことがあるかどうかで区分した、専門分野の大区分の回答数と割合 (%)

Table 2. Academic discipline by fieldworkers' experience of sexual violence

	答えたくない I do not want to answer	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	n
あり YES	14 (4.8%)	141 (48.6%)	26 (9.0%)	4 (1.4%)	3.5 (1.2%)	1 (0.3%)	37 (12.8%)	40 (13.8%)	0 (0.0%)	12.5 (4.3%)	0 (0.0%)	11 (3.8%)	290
なし NO	31 (1.9%)	465 (29.0%)	218 (13.6%)	39 (2.4%)	21.5 (1.3%)	21 (1.3%)	295 (18.4%)	257 (16.0%)	32 (2.0%)	137.5 (8.6%)	7 (0.4%)	81 (5.0%)	1605

表 3. 性暴力を受けたことがあるかどうかで区分した、現在の年齢階級の回答数と割合 (%)

Table 3. Age class (at the time of survey) by fieldworkers' experience of sexual violence

	答えたくない I do not want to answer	≥70s	60s	50s	40s	30s	20s	≤10s	n
あり YES	39 (13.4%)	3 (1.0%)	16 (5.5%)	47 (16.2%)	78 (26.9%)	73 (25.2%)	34 (11.7%)	0 (0.0%)	290
なし NO	80 (5.0%)	39 (2.4%)	173 (10.8%)	389 (24.2%)	424 (26.4%)	319 (19.9%)	181 (11.3%)	0 (0.0%)	1605

表 4. 性暴力を受けたことがあるかどうかで区分した、性自認の回答数と割合 (%)

Table 4. Gender identity by fieldworkers' experience of sexual violence

	女性 Female	男性 Male	LGBTQ+	答えたくない I do not want to answer	不明 Unknown	n
あり YES	253 (87.2%)	23 (7.9%)	6 (2.1%)	5 (1.7%)	3 (1.0%)	290
なし NO	540 (33.6%)	1023 (63.7%)	13 (0.8%)	29 (1.8%)	0 (0.0%)	1605

表 5. 性暴力を受けたことがあるかどうかで区分した、現在の職位の回答数と割合 (%)

Table 5. Position (at the time of the survey) by fieldworkers' experience of sexual violence

	学部生 Undergraduate student	大学院生 Graduate student	ポスドク Post doctoral fellow	研究員 (任期付き) Research fellow (fixed term)	研究員 (常勤) Research fellow (full time)	大学教員 (任期付き) University lecturer (fixed term)	大学教員 (テニユアトラック) University lecturer (tenure track)	大学教員 (非常勤) University lecturer (part time)	大学教員 (常勤) University lecturer (tenured)	フリーランス研究者 Independent researcher	その他 Others	答えたくない I do not want to answer	n
あり YES	13 (4.5%)	3 (1.0%)	44 (15.2%)	13 (4.5%)	18 (6.2%)	26 (9.0%)	27 (9.3%)	13 (4.5%)	16 (5.5%)	92 (31.7%)	13 (4.5%)	24 (8.3%)	290
なし NO	42 (2.6%)	25 (1.6%)	166 (10.3%)	50 (3.1%)	78 (4.9%)	194 (12.1%)	111 (6.9%)	54 (3.4%)	68 (4.2%)	611 (38.1%)	48 (3.0%)	205 (12.8%)	1605

表 6. 性自認ごとに区分した、フィールドワーク経験のある回答者内における被害数とその割合

Table 6. Experience of sexual violence by fieldworkers' gender identity

	あり YES	なし NO	n
女性 Female	253 (31.9%)	540 (68.1%)	793
男性 Male	23 (2.2%)	1023 (97.8%)	1046
LGBTQ+	6 (31.6%)	13 (68.4%)	19
答えない No answer	5 (14.7%)	29 (85.3%)	34
不明 Unknown	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3

注:「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」は[0-3 これまでの修学・研究のなかで、フィールドワークを行なったことがありますか? ]という設問に〈ある〉を選択した回答者 1895 名のうち、[ I-4 フィールドワーク中に自身が何らかの性暴力・性被害に遭ったことがありますか? ]に対して〈ある〉を選択した回答者の割合を指す。

表 7. 専門分野の大区分ごとに区分した、フィールドワーク経験のある回答者内における被害数とその割合

Table 7. Experience of sexual violence by fieldworkers' academic discipline

	あり YES	なし NO	n
答えたくない I do not want to answer	14 (31.1%)	31 (68.9%)	45
A	141 (23.3%)	465 (76.7%)	606
B	26 (10.7%)	218 (89.3%)	244
C	4 (9.3%)	39 (90.7%)	43
D	3.5 (14.0%)	21.5 (86.0%)	25
E	1 (4.5%)	21 (95.5%)	22
F	37 (11.1%)	295 (88.9%)	332
G	40 (13.5%)	257 (86.5%)	297
H	0 (0.0%)	32 (100.0%)	32
I	12.5 (8.3%)	137.5 (91.7%)	150
J	0 (0.0%)	7 (100.0%)	7
K	11 (12.0%)	81 (88.0%)	92

表 8. 現在の職位ごとに区分した、フィールドワーク経験のある回答者内における被害数とその割合

Table 8. Experience of sexual violence by fieldworkers' position (at the time of the survey)

	あり YES	なし NO	n
答えたくない I do not want to answer	13 (23.6%)	42 (76.4%)	55
学部生 Undergraduate student	3 (10.7%)	25 (89.3%)	28
大学院生 Graduate student	44 (21.0%)	166 (79.0%)	210
ポスドク Post-doctoral fellow	13 (20.6%)	50 (79.4%)	63
研究員(任期付き) Research fellow (fixed term)	18 (18.8%)	78 (81.3%)	96
研究員(常勤) Research fellow (full-time)	26 (11.8%)	194 (88.2%)	220
大学教員(任期付き) University lecturer (fixed term)	27 (19.6%)	111 (80.4%)	138
大学教員(テニュアトラック) University lecturer (tenure track)	13 (19.4%)	54 (80.6%)	67
大学教員(非常勤) University lecturer (part-time)	16 (19.0%)	68 (81.0%)	84
大学教員(常勤) University lecturer (tenured)	92 (13.1%)	611 (86.9%)	703
フリーランス研究者 Independent researcher	13 (21.3%)	48 (78.7%)	61
その他 Others	24 (10.5%)	205 (89.5%)	229

表 9. 性自認ごとに区分した、被害当時の年齢階級の回答数と割合 (%)

Table 9. Age class (at the time of sexual violence) by victims' gender identity

	不明 Unknown	≥70s	60s	50s	40s	30s	20s	≤10s	n
女性 Female	48 (15.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (2.2%)	21 (6.7%)	70 (22.3%)	161 (51.3%)	7 (2.2%)	314
男性 Male	4 (21.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (15.8%)	6 (31.6%)	6 (31.6%)	0 (0.0%)	19
LGBTQ+	6 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	8 (53.3%)	0 (0.0%)	15
答えない No answer	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	3
不明 Unknown	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1



表 10. 性自認ごとに区分した、被害当時の職位の回答数と割合 (%)

Table 10. Position (at the time of sexual violence) by victims' gender identity

	答えたくない I do not want to answer	学部生 Undergraduate student	大学院生 Graduate student	ポストドク Post doctoral fellow	研究員 (任期付き) Research fellow (fixed term)	研究員 (常勤) Research fellow (full time)	大学教員 (任期付き) University lecturer (fixed term)	大学教員 (テニユアトラック) University lecturer (tenure track)	大学教員 (非常勤) University lecturer (part time)	大学教員 (常勤) University lecturer (tenured)	フリーランス研究者 Independent researcher	その他 Others	n
女性 Female	12 (3.8%)	43 (13.7%)	182 (58.0%)	14 (4.5%)	11 (3.5%)	23 (7.3%)	7 (2.2%)	5 (1.6%)	7 (2.2%)	17 (5.4%)	2 (0.6%)	10 (3.2%)	314
男性 Male	0 (0.0%)	5 (26.3%)	6 (31.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	3 (15.8%)	1 (5.3%)	2 (10.5%)	19
LGBTQ+	0 (0.0%)	4 (26.7%)	11 (73.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (13.3%)	15
答えない No answer	1 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3
不明 Unknown	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1

表 11 性自認ごとに区分した、性暴力の起こった国・地域（日本の国内と国外に区分）の回答数と割合（％）

Table 11. Country/region where sexual violence occurred by victims' gender identity

	不明 Unknown	日本国内 Japan	日本国外 Overseas	その他 Others	n
女性 Female	34 (10.8%)	176 (56.1%)	102 (32.5%)	2 (0.6%)	314
男性 Male	0 (0.0%)	15 (78.9%)	4 (21.1%)	0 (0.0%)	19
LGBTQ+	2 (13.3%)	6 (40.0%)	7 (46.7%)	0 (0.0%)	15
答えない No answer	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3
不明 Unknown	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1

表 12. 性自認ごとに区分した、被害当時のフィールドワーク経験の回答数と割合 (%)

Table 12. Fieldwork experience (at the time of sexual violence) by victims' gender identity

	答えたくない I do not want to answer	私は、生まれて初めてのフィールドワークで、性暴力・性被害に遭った I experienced sexual violence during my very first fieldwork placement	私が性暴力・性被害に遭った時、私は、まだフィールドワークの初心者であった When I experienced sexual violence I was still relatively new to doing fieldwork	私は、別の場所でのフィールドワークの経験があったものの、初めて行ったフィールドで性暴力 性被害に遭った I had some previous experience doing fieldwork elsewhere and I experienced sexual violence for the first time while on field assignment	私は、既に何度もフィールドワークを行っていた場所で性暴力・性被害に遭った I experienced sexual violence in the fieldsite where I had already performed fieldwork many times	その他 Others	n
女性 Female	8 (2.5%)	22 (7.0%)	97 (30.9%)	84 (26.8%)	91 (29.0%)	12 (3.8%)	314
男性 Male	1 (5.3%)	1 (5.3%)	10 (52.6%)	3 (15.8%)	3 (15.8%)	1 (5.3%)	19
LGBTQ+	3 (20.0%)	0 (0.0%)	4 (26.7%)	0 (0.0%)	7 (46.7%)	1 (6.7%)	15
答えない No answer	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	3
不明 Unknown	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1

表 13. 性自認ごとに区分した、フィールド滞在後どのくらいの時期に初めて性暴力を受けたかの回答数と割合 (%)

Table 13. Time spent in fieldsite before experiencing sexual violence by victims' gender identity

	答えたくない I do not want to answer	1 か月未満 Less than 1 month	1 か月以上 3 か月未満 1 month or longer but less than 3 months	3 か月以上 6 か月未満 3 months or longer but less than 6 months	6 か月以上 1 年未満 6 months or longer but less than a year	1 年以上 More than a year	その他 Others	n
女性 Female	10 (3.2%)	191 (60.8%)	35 (11.1%)	18 (5.7%)	19 (6.1%)	29 (9.2%)	12 (3.8%)	314
男性 Male	2 (10.5%)	11 (57.9%)	2 (10.5%)	2 (10.5%)	1 (5.3%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	19
LGBTQ+	4 (26.7%)	4 (26.7%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	2 (13.3%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	15
答えない No answer	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3
不明 Unknown	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1

表 14. 当時のフィールドワーク経験ごとに区分した、フィールド滞在後どのくらいの時期に初めて性暴力を受けたかの回答数と割合 (%)

Table 14. Time spent in fieldsite before experiencing sexual violence by victims' fieldwork experience (at the time of sexual violence)

	答えたくない I do not want to answer	1 か月未満 Less than 1 month	1 か月以上 3 か月未満 1 month or longer but less than 3 months	3 か月以上 6 か月未満 3 months or longer but less than 6 months	6 か月以上 1 年未満 6 months or longer but less than a year	1 年以上 More than a year	その他 Others	n
答えたくない I do not want to answer	7 (58.3%)	5 (41.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12
私は、生まれて初めてのフィールドワークで、性暴力・性被害に遭った。I experienced sexual violence during my very first fieldwork placement.	1 (4.3%)	13 (56.5%)	5 (21.7%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	23
私が性暴力・性被害に遭った時、私は、まだフィールドワークの初心者であった。When I experienced sexual violence, I was still relatively new to doing fieldwork.	4 (3.6%)	59 (52.7%)	13 (11.6%)	9 (8.0%)	14 (12.5%)	10 (8.9%)	3 (2.7%)	112
私は、別の場所でのフィールドワークの経験はあったものの、初めて行ったフィールドで性暴力・性被害に遭った。I had some previous experience doing fieldwork elsewhere and I experienced sexual violence for the first time while on field assignment.	0 (0.0%)	70 (79.5%)	7 (8.0%)	3 (3.4%)	3 (3.4%)	2 (2.3%)	3 (3.4%)	88

私は、既に何度もフィールドワークを行っていた場所で性暴力・性被害に遭った。I experienced sexual violence in the fieldsite where I had already performed fieldwork many times.	4 (3.9%)	55 (53.4%)	14 (13.6%)	6 (5.8%)	5 (4.9%)	18 (17.5%)	1 (1.0%)	103
その他 Others	1 (7.1%)	7 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (42.9%)	14

表 15. 被害者の性自認ごとに区分した、加害者の性別の回答数と割合 (%)

Table 15. Abusers' sex by victims' gender identity

	答えたくない I do not want to answer	男性 Male	女性 Female	不明 Not sure	その他 Others	n
女性 Female	3 (1.0%)	305 (97.1%)	3 (1.0%)	3 (1.0%)	0 (0.0%)	314
男性 Male	0 (0.0%)	10 (52.6%)	7 (36.8%)	1 (5.3%)	1 (5.3%)	19
LGBTQ+	1 (6.7%)	13 (86.7%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15
答えない No answer	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3
不明 Unknown	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1

表 16. 被害者の性自認ごとに区分した、被害者と加害者の年代差の回答数と割合 (%)

Table 16. Age class difference between victim and abuser by victims' gender identity

	加害者が上の年代 Abusers were older	被害者と加害者が同年 代 Same age class	被害者が上の年代 Respondent was older	n
女性 Female	191 (78.9%)	43 (17.8%)	8 (3.3%)	242
男性 Male	7 (53.8%)	4 (30.8%)	2 (15.4%)	13
LGBTQ+	6 (75.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	8
答えない No answer	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1
不明 Unknown	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0

表 17. 性自認ごとに区分した、性暴力の種類の回答数と割合 (%)

Table 17. Type of sexual violence by victims' gender identity

	答えたくない I do not want to answer	レイプ Rape	強制わいせつ Forcible touching	望まない接近や接触 Unwanted sexual approaches and or contact	性的発言 Sexual remarks and or sexually suggestive comments	ストーカー行為 Stalking	望まない性的情報(画像や書籍など)の提示 Exposure to unwanted sexually explicit media contents (e.g., images, books)	裸や性器の露出など視覚的な性暴力 Sexual exhibition (e.g., nudity exposure of genitals)	その他 Others	n
女性 Female	5 (1.6%)	14 (4.5%)	52 (16.6%)	195 (62.1%)	125 (39.8%)	31 (9.9%)	24 (7.6%)	10 (3.2%)	27 (8.6%)	314
男性 Male	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (15.8%)	6 (31.6%)	11 (57.9%)	1 (5.3%)	4 (21.1%)	2 (10.5%)	3 (15.8%)	19
LGBTQ+	0 (0.0%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	10 (66.7%)	5 (33.3%)	4 (26.7%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	3 (20.0%)	15
答えない No answer	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3
不明 Unknown	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1



表 18. 性暴力の起こった国・地域ごとに区分した、性暴力の種類の回答数と割合 (%)

Table 18. Type of sexual violence by country/region where sexual violence occurred

	答えたくない I do not want to answer	レイプ Rape	強制わいせ つ Forcible touching	望まない接近 や接触 Unwanted sexual approaches and or contact	性的発言 Sexual remarks and or sexually suggestive comments	ストーカー行 為 Stalking	望まない性 的情報(画像 や書籍など) の提示 Exposure to unwanted sexually explicit media contents (e.g., images, books)	裸や性器の 露出など視 覚的な性暴 力 Sexual exhibition (e.g., nudity exposure of genitals)	その他 Others	n
不明 Unknown	3 (7.9%)	4 (10.5%)	10 (26.3%)	25 (65.8%)	12 (31.6%)	4 (10.5%)	4 (10.5%)	4 (10.5%)	4 (10.5%)	38
日本国内 Japan	0 (0.0%)	8 (4.0%)	34 (17.1%)	108 (54.3%)	93 (46.7%)	19 (9.5%)	15 (7.5%)	5 (2.5%)	26 (13.1%)	199
日本国外 Overseas	2 (1.8%)	4 (3.5%)	14 (12.4%)	80 (70.8%)	40 (35.4%)	14 (12.4%)	10 (8.8%)	4 (3.5%)	3 (2.7%)	113
その他 Others	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2

表 19. 被害者と加害者の年代差ごとに区分した、性暴力の種類の回答数と割合 (%)

Table 19. Type of sexual violence by age class difference between victim and abuser

	答えたくない I do not want to answer	レイプ Rape	強制わいせ つ Forcible touching	望まない接近 や接触 Unwanted sexual approaches and or contact	性的発言 Sexual remarks and or sexually suggestive comments	ストーカー行 為 Stalking	望まない性的 情報(画像や 書籍など)の 提示 Exposure to unwanted sexually explicit media contents (e.g., images, books)	裸や性器の 露出など視 覚的な性暴 力 Sexual exhibition (e.g., nudity exposure of genitals)	その他 Others	n
加害者が上の年 代 Abusers were older	0 (0.0%)	6 (2.9%)	35 (17.1%)	120 (58.5%)	83 (40.5%)	18 (8.8%)	14 (6.8%)	3 (1.5%)	21 (10.2%)	205
被害者と加害者 が同年代 Same age class	0 (0.0%)	3 (6.3%)	9 (18.8%)	33 (68.8%)	19 (39.6%)	8 (16.7%)	4 (8.3%)	1 (2.1%)	4 (8.3%)	48
被害者が上の年 代 Respondent was older	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (18.2%)	9 (81.8%)	6 (54.5%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	11

表 20. 性暴力を受けた年齢階級ごとに区分した、性暴力の種類の回答数と割合 (%)

Table 20. Type of sexual violence by victims' age class (at the time of sexual violence)

	答えたくない I do not want to answer	レイプ Rape	強制わいせ つ Forcible touching	望まない接近 や接触 Unwanted sexual approaches and or contact	性的発言 Sexual remarks and or sexually suggestive comments	ストーカー行 為 Stalking	望まない性 的情報(画像 や書籍など) の提示 Exposure to unwanted sexually explicit media contents (e.g., images, books)	裸や性器の 露出など視 覚的な性暴 力 Sexual exhibition (e.g., nudity exposure of genitals)	その他 Others	n
不明 Unknown	3 (4.9%)	5 (8.2%)	11 (18.0%)	36 (59.0%)	28 (45.9%)	7 (11.5%)	6 (9.8%)	5 (8.2%)	7 (11.5%)	61
≥70s	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0
60s	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0 (NA%)	0
50s	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (57.1%)	7
40s	1 (4.2%)	2 (8.3%)	2 (8.3%)	18 (75.0%)	11 (45.8%)	0 (0.0%)	5 (20.8%)	1 (4.2%)	1 (4.2%)	24
30s	1 (1.3%)	2 (2.6%)	10 (13.0%)	45 (58.4%)	29 (37.7%)	7 (9.1%)	6 (7.8%)	2 (2.6%)	10 (13.0%)	77
20s	0 (0.0%)	6 (3.4%)	29 (16.5%)	110 (62.5%)	73 (41.5%)	22 (12.5%)	12 (6.8%)	5 (2.8%)	10 (5.7%)	176
≤10s	0 (0.0%)	1 (14.3%)	4 (57.1%)	4 (57.1%)	4 (57.1%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	7

表 21. 性暴力の類型ごとに区分した、被害当時のフィールドワーク経験の回答数と割合 (%)

Table 21. Fieldwork experience (at the time of sexual violence) by type of sexual violence

	答えたくない I do not want to answer	私は、生まれて初めてのフィールドワークで、性暴力・性被害に遭った I experienced sexual violence during my very first fieldwork placement	私が性暴力・性被害に遭った時、私は、まだフィールドワークの初心者であった When I experienced sexual violence I was still relatively new to doing fieldwork	私は、別の場所でのフィールドワークの経験はあったものの、初めて行ったフィールドで性暴力 性被害に遭った I had some previous experience doing fieldwork elsewhere and I experienced sexual violence for the first time while on field assignment	私は、既に何度もフィールドワークを行っていた場所で性暴力・性被害に遭った I experienced sexual violence in the fieldsite where I had already performed fieldwork many times	その他 Others	n
答えたくない I do not want to answer	3 (60.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	5
レイプ Rape	1 (6.3%)	3 (18.8%)	8 (50.0%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	16
強制わいせつ Forcible touching	3 (5.2%)	5 (8.6%)	22 (37.9%)	10 (17.2%)	17 (29.3%)	1 (1.7%)	58
望まない接近や接触 Unwanted sexual approaches and or contact	7 (3.3%)	13 (6.0%)	67 (31.2%)	56 (26.0%)	64 (29.8%)	8 (3.7%)	215
性的発言 Sexual remarks and or sexually suggestive comments	3 (2.1%)	9 (6.2%)	53 (36.6%)	35 (24.1%)	39 (26.9%)	6 (4.1%)	145

ストーカー行為 Stalking	2 (5.4%)	1 (2.7%)	14 (37.8%)	9 (24.3%)	10 (27.0%)	1 (2.7%)	37
望まない性的情報(画像や書籍などの提示 Exposure to unwanted sexually explicit media contents (e.g., images, books)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	15 (51.7%)	8 (27.6%)	5 (17.2%)	0 (0.0%)	29
裸や性器の露出など視覚的な性暴力 Sexual exhibition (e.g., nudity exposure of genitals)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	7 (53.8%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	13
その他 Others	2 (6.1%)	2 (6.1%)	9 (27.3%)	7 (21.2%)	10 (30.3%)	3 (9.1%)	33

表 22. 性暴力の種類ごとに区分した、フィールド滞在後どのくらいの時期に初めて性暴力を受けたかの回答数と割合 (%)

Table 22. Time spent in fieldsite before experiencing sexual violence by type of sexual violence

	答えたくない I do not want to answer	1か月未満 Less than 1 month	1か月以上3か月未満 1 month or longer but less than 3 months	3か月以上6か月未満 3 months or longer but less than 6 months	6か月以上1年未満 6 months or longer but less than a year	1年以上 More than a year	その他 Others	n
答えたくない I do not want to answer	3 (60.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5
レイプ Rape	1 (6.3%)	9 (56.3%)	5 (31.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	16
強制わいせつ Forcible touching	5 (8.6%)	32 (55.2%)	5 (8.6%)	5 (8.6%)	5 (8.6%)	5 (8.6%)	1 (1.7%)	58
望まない接近や接触 Unwanted sexual approaches and or contact	10 (4.7%)	120 (55.8%)	28 (13.0%)	11 (5.1%)	19 (8.8%)	20 (9.3%)	7 (3.3%)	215
性的発言 Sexual remarks and or sexually suggestive comments	4 (2.8%)	94 (64.8%)	15 (10.3%)	8 (5.5%)	7 (4.8%)	12 (8.3%)	5 (3.4%)	145
ストーカー行為 Stalking	2 (5.4%)	19 (51.4%)	8 (21.6%)	2 (5.4%)	3 (8.1%)	2 (5.4%)	1 (2.7%)	37
望まない性的情報(画像や書籍など)の提示 Exposure to unwanted sexually explicit media contents (e.g., images, books)	2 (6.9%)	18 (62.1%)	6 (20.7%)	1 (3.4%)	1 (3.4%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	29
裸や性器の露出など視覚的な性暴力 Sexual exhibition (e.g., nudity exposure of	1 (7.7%)	11 (84.6%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13

genitals)								
その他 Others	3 (9.1%)	19 (57.6%)	1 (3.0%)	2 (6.1%)	1 (3.0%)	3 (9.1%)	4 (12.1%)	33

表 23. 性自認ごとに区分した、フィールドにおける頼れる人の有無の回答数と割合 (%)

Table 23. Presence/absence of a reliable person by victims' gender identity

	答えたくない I do not want to answer	あり YES	なし NO	n
女性 Female	15 (4.8%)	84 (26.8%)	215 (68.5%)	314
男性 Male	1 (5.3%)	9 (47.4%)	9 (47.4%)	19
LGBTQ+	0 (0.0%)	4 (26.7%)	11 (73.3%)	15
答えない No answer	0 (0.0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	3
不明 Unknown	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1

表 24. 被害者の性自認ごとに区分した、被害後の対処の有無の回答数と割合 (%)

Table 24. Taking action or not after sexual violence by victims' gender identity

	答えたくない I do not want to answer	あり YES	なし NO	n
女性 Female	8 (2.5%)	225 (71.7%)	81 (25.8%)	314
男性 Male	0 (0.0%)	11 (57.9%)	8 (42.1%)	19
LGBTQ+	1 (6.7%)	7 (46.7%)	7 (46.7%)	15
答えない No answer	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3
不明 Unknown	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1



表 25. 被害当時のフィールドワーク経験ごとに区分した、被害後の対処の有無の回答数と割合 (%)

Table 25. Taking action or not after sexual violence by victims' fieldwork experience (at the time of sexual violence)

	答えたくない I do not want to answer	あり YES	なし NO	n
答えたくない I do not want to answer	6 (50.0%)	6 (50.0%)	0 (0.0%)	12
私は、生まれて初めてのフィールドワークで、性暴力・性被害に遭った。I experienced sexual violence during my very first fieldwork placement.	1 (4.3%)	21 (91.3%)	1 (4.3%)	23
私が性暴力・性被害に遭った時、私は、まだフィールドワークの初心者であった。When I experienced sexual violence, I was still relatively new to doing fieldwork.	1 (0.9%)	76 (67.9%)	35 (31.3%)	112
私は、別の場所でのフィールドワークの経験はあったものの、初めて行ったフィールドで性暴力・性被害に遭った。I had some previous experience doing fieldwork elsewhere and I experienced sexual violence for the first time while on field assignment.	0 (0.0%)	65 (73.9%)	23 (26.1%)	88
私は、既に何度もフィールドワークを行っていた場所で性暴力・性被害に遭った。I experienced sexual violence in the fieldsite where I had already performed fieldwork many times.	0 (0.0%)	72 (69.9%)	31 (30.1%)	103
その他 Others	1 (7.1%)	7 (50.0%)	6 (42.9%)	14

表 26. 性暴力の起こった国・地域ごとに区分した、フィールドにおける頼れる人の有無の回答数と割合 (%)

Table 26. Presence/absence of a reliable person by country/region where sexual violence occurred

	答えたくない I do not want to answer	あり YES	なし NO	n
不明 Unknown	5 (13.2%)	10 (26.3%)	23 (60.5%)	38
日本国内 Japan	6 (3.0%)	47 (23.6%)	146 (73.4%)	199
日本国外 Overseas	4 (3.5%)	42 (37.2%)	67 (59.3%)	113
その他 Others	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	2

表 27. 性暴力の起こった国・地域ごとに区分した、被害後の対処の有無の回答数と割合 (%)

Table 27. Taking action or not after sexual violence by country/region where sexual violence occurred

	答えたくない I do not want to answer	あり YES	なし NO	n
不明 Unknown	3 (7.9%)	28 (73.7%)	7 (18.4%)	38
日本国内 Japan	3 (1.5%)	125 (62.8%)	71 (35.7%)	199
日本国外 Overseas	3 (2.7%)	93 (82.3%)	17 (15.0%)	113
その他 Others	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	2

表 28. 被害当時の職位ごとに区分した、フィールドにおける頼れる人の有無の回答数と割合 (%)

Table 28. Presence/absence of a reliable person by victims' position (at the time of sexual violence)

	答えたくない I do not want to answer	あり YES	なし NO	n
答えたくない I do not want to answer	3 (23.1%)	4 (30.8%)	6 (46.2%)	13
学部生 Undergraduate student	1 (1.9%)	8 (15.4%)	43 (82.7%)	52
大学院生 Graduate student	7 (3.5%)	66 (32.7%)	129 (63.9%)	202
ポスドク Post-doctoral fellow	0 (0.0%)	2 (14.3%)	12 (85.7%)	14
研究員(任期付き) Research fellow (fixed term)	1 (9.1%)	6 (54.5%)	4 (36.4%)	11
研究員(常勤) Research fellow (full-time)	1 (4.2%)	4 (16.7%)	19 (79.2%)	24
大学教員(任期付き) University lecturer (fixed term)	1 (11.1%)	4 (44.4%)	4 (44.4%)	9
大学教員(テニュアトラック) University lecturer (tenure track)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	5
大学教員(非常勤) University lecturer (part-time)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	5 (62.5%)	8
大学教員(常勤) University lecturer (tenured)	1 (5.0%)	8 (40.0%)	11 (55.0%)	20
フリーランス研究者 Independent researcher	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	3
その他 Others	1 (7.1%)	1 (7.1%)	12 (85.7%)	14

表 29. 被害当時の職位ごとに区分した、被害後の対処の有無の回答数と割合 (%)

Table 29. Taking actions or not after sexual violence by victims' position (at the time of sexual violence)

	答えたくない I do not want to answer	あり YES	なし NO	n
答えたくない I do not want to answer	3 (23.1%)	5 (38.5%)	5 (38.5%)	13
学部生 Undergraduate student	3 (5.8%)	33 (63.5%)	16 (30.8%)	52
大学院生 Graduate student	1 (0.5%)	145 (71.8%)	56 (27.7%)	202
ポスドク Post-doctoral fellow	1 (7.1%)	10 (71.4%)	3 (21.4%)	14
研究員(任期付き) Research fellow (fixed term)	1 (9.1%)	9 (81.8%)	1 (9.1%)	11
研究員(常勤) Research fellow (full-time)	0 (0.0%)	20 (83.3%)	4 (16.7%)	24
大学教員(任期付き) University lecturer (fixed term)	0 (0.0%)	4 (44.4%)	5 (55.6%)	9
大学教員(テニュアトラック) University lecturer (tenure track)	0 (0.0%)	4 (80.0%)	1 (20.0%)	5
大学教員(非常勤) University lecturer (part-time)	3 (37.5%)	4 (50.0%)	1 (12.5%)	8
大学教員(常勤) University lecturer (tenured)	0 (0.0%)	13 (65.0%)	7 (35.0%)	20
フリーランス研究者 Independent researcher	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3
その他 Others	0 (0.0%)	9 (64.3%)	5 (35.7%)	14

表 30. 性暴力の種類ごとに区分した、被害後の対処の有無の回答数と割合 (%)

Table 30. Taking action or not after sexual violence by type of sexual violence

	答えたくない I do not want to answer	あり YES	なし NO	n
答えたくない I do not want to answer	4 (80.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	5
レイプ Rape	1 (6.3%)	13 (81.3%)	2 (12.5%)	16
強制わいせつ Forcible touching	1 (1.7%)	48 (82.8%)	9 (15.5%)	58
望まない接近や接触 Unwanted sexual approaches and or contact	3 (1.4%)	161 (74.9%)	51 (23.7%)	215
性的発言 Sexual remarks and or sexually suggestive comments	2 (1.4%)	102 (70.3%)	41 (28.3%)	145
ストーカー行為 Stalking	0 (0.0%)	30 (81.1%)	7 (18.9%)	37
望まない性的情報(画像や書籍など)の提示 Exposure to unwanted sexually explicit media contents (e.g., images, books)	1 (3.4%)	20 (69.0%)	8 (27.6%)	29
裸や性器の露出など視覚的な性暴力 Sexual exhibition (e.g., nudity exposure of genitals)	0 (0.0%)	8 (61.5%)	5 (38.5%)	13
その他 Others	2 (6.1%)	17 (51.5%)	14 (42.4%)	33

表 31. 回答者の現在の年齢階級ごとに区分した、性暴力に関する事前学習を受けたかの回答数と割合 (%)

Table 31. Experience of receiving prior guidance by fieldworkers' age class (at the time of survey)

	何も受けていない I received no guidance	パンフレット等を受け取 った Guidance was provided through written information materials (e.g., pamphlets, leaflets, booklets)	説明会やワークショ ップに参加した Guidance was provided through information sessions workshops	教員や先輩・同僚から性被害に関する注意 喚起を受けたり、体験談を聞いた Hearing personal experiences about and/or receiving reminders/warnings about sexual violence from your academic advisor(s), supervisor(s), other faculty member(s), senior colleague(s) and/or fellow student(s).	その他 Others	n
不明 Unknown	103 (86.6%)	3 (2.5%)	2 (1.7%)	8 (6.7%)	6 (5.0%)	119
≥70s	34 (82.9%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	3 (7.3%)	3 (7.3%)	41
60s	165 (87.3%)	4 (2.1%)	8 (4.2%)	8 (4.2%)	4 (2.1%)	189
50s	397 (91.1%)	14 (3.2%)	6 (1.4%)	22 (5.0%)	2 (0.5%)	436
40s	450 (89.6%)	12 (2.4%)	10 (2.0%)	29 (5.8%)	4 (0.8%)	502
30s	345 (88.0%)	9 (2.3%)	9 (2.3%)	28 (7.1%)	5 (1.3%)	392
20s	185 (86.0%)	5 (2.3%)	6 (2.8%)	21 (9.8%)	0 (0.0%)	215
≤10s	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0

表 32. 現在の職位ごとに区分した、性暴力に関する事前学習を受けたかの回答数と割合 (%)

Table 32. Experience of receiving prior guidance by fieldworkers' position (at the time of the survey)

	何も受けていない I received no guidance	パンフレット等を受け取った Guidance was provided through written information materials (e.g., pamphlets, leaflets, booklets)	説明会やワークショップに参加した Guidance was provided through information sessions workshops	教員や先輩・同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いた Hearing personal experiences about and/or receiving reminders/warnings about sexual violence from your academic advisor(s), supervisor(s), other faculty member(s), senior colleague(s) and/or fellow student(s).	その他 Others	n
答えたくない I do not want to answer	51 (92.7%)	2 (3.6%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	55
学部生 Undergraduate student	22 (78.6%)	1 (3.6%)	2 (7.1%)	4 (14.3%)	0 (0.0%)	28
大学院生 Graduate student	179 (85.2%)	5 (2.4%)	8 (3.8%)	18 (8.6%)	1 (0.5%)	210
ポスドク Post-doctoral fellow	55 (87.3%)	2 (3.2%)	3 (4.8%)	4 (6.3%)	1 (1.6%)	63
研究員(任期付き)Research fellow (fixed term)	87 (90.6%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	8 (8.3%)	1 (1.0%)	96
研究員(常勤)Research fellow (full-time)	198 (90.0%)	7 (3.2%)	2 (0.9%)	10 (4.5%)	3 (1.4%)	220
大学教員(任期付き) University lecturer (fixed term)	122 (88.4%)	5 (3.6%)	3 (2.2%)	8 (5.8%)	2 (1.4%)	138
大学教員(テニュアトラック) University lecturer (tenure track)	59 (88.1%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	6 (9.0%)	1 (1.5%)	67

大学教員(非常勤) University lecturer (part-time)	69 (83.1%)	2 (2.4%)	2 (2.4%)	10 (12.0%)	1 (1.2%)	83
大学教員(常勤) University lecturer (tenured)	633 (90.0%)	13 (1.8%)	15 (2.1%)	40 (5.7%)	8 (1.1%)	703
フリーランス研究者 Independent researcher	57 (95.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (5.0%)	0 (0.0%)	60
その他 Others	200 (87.3%)	8 (3.5%)	5 (2.2%)	13 (5.7%)	5 (2.2%)	229

表 33. 性自認ごとに区分した、性暴力に関する事前学習を受けたかの回答数と割合 (%)

Table 33. Experience of receiving prior guidance by fieldworkers' gender identity

	何も受けていない I received no guidance	パンフレット等を受け 取った Guidance was provided through written information materials (e.g., pamphlets, leaflets, booklets)	説明会やワークショッ プに参加した Guidance was provided through information sessions workshops	教員や先輩・同僚から性被害に関する注意喚起 を受けたり、体験談を聞いた Hearing personal experiences about and/or receiving reminders/warnings about sexual violence from your academic advisor(s), supervisor(s), other faculty member(s), senior colleague(s) and/or fellow student(s)	その他 Others	n
女性 Female	705 (88.9%)	13 (1.6%)	10 (1.3%)	58 (7.3%)	11 (1.4%)	793
男性 Male	926 (88.6%)	33 (3.2%)	31 (3.0%)	57 (5.5%)	10 (1.0%)	1045
LGBTQ+	18 (94.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	19
答えない No answer	27 (79.4%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	3 (8.8%)	3 (8.8%)	34
不明 Unknown	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3



表 34. 性暴力に関する事前学習についての回答で区分した、準備の有無の回答数と割合 (%)

Table 34. Pre-fieldwork preparation by fieldworkers' experience of receiving prior guidance

	あり YES	なし NO	n
何も受けていない I received no guidance	230 (13.7%)	1449 (86.3%)	1679
パンフレット等を受け取った Guidance was provided through written information materials (e.g., pamphlets, leaflets, booklets)	9 (19.1%)	38 (80.9%)	47
説明会やワークショップに参加した Guidance was provided through information sessions/workshops	12 (28.6%)	30 (71.4%)	42
教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いた Hearing personal experiences about and/or receiving reminders/warnings about sexual violence from your academic advisor(s), supervisor(s), other faculty member(s), senior colleague(s) and/or fellow student(s)	52 (43.7%)	67 (56.3%)	119
その他 Others	10 (41.7%)	14 (58.3%)	24

表 35. 性暴力に関する事前学習についての回答で区分した、フィールドワーク経験のある回答者内における被害数とその割合

Table 35. Experience of sexual violence by fieldworkers' experience of receiving prior guidance

	あり YES	なし NO	n
何も受けていない I received no guidance	254 (15.1%)	1425 (84.9%)	1679
パンフレット等を受け取った Guidance was provided through written information materials (e.g., pamphlets, leaflets, booklets)	3 (6.4%)	44 (93.6%)	47
説明会やワークショップに参加した Guidance was provided through information sessions/workshops	5 (11.9%)	37 (88.1%)	42
教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いた Hearing personal experiences about and/or receiving reminders/warnings about sexual violence from your academic advisor(s), supervisor(s), other faculty member(s), senior colleague(s) and/or fellow student(s)	27 (22.7%)	92 (77.3%)	119
その他 Others	2 (8.3%)	22 (91.7%)	24

表 36. 性自認と準備の有無で区分した、フィールドワーク経験のある回答者内における被害数とその割合

Table 36. Experience of sexual violence by fieldworkers' gender identity and pre-fieldwork preparation

	あり YES	なし NO	n
女性・あり Female-YES	67 (34.9%)	125 (65.1%)	192
女性・なし Female-NO	186 (30.9%)	415 (69.1%)	601
男性・あり Male-YES	2 (1.9%)	102 (98.1%)	104
男性・なし Male-NO	21 (2.2%)	921 (97.8%)	942
LGBTQ+・あり LGBTQ+-YES	3 (60.0%)	2 (40.0%)	5
LGBTQ+・なし LGBTQ+-NO	3 (21.4%)	11 (78.6%)	14
答えない・あり No answer-YES	1 (25.0%)	3 (75.0%)	4
答えない・なし No answer-NO	4 (13.3%)	26 (86.7%)	30
不明・あり Unknown-YES	0 (NA%)	0 (NA%)	0
不明・なし Unknown-NO	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3

表 37. 性暴力を受けたことがあるかで区分した、現地の機関が取るべき対策の回答数と割合 (%)

Table 37. Measures requested for institutions in fieldwork locations by fieldworkers' experience of sexual violence

	性被害の危険に関する注意喚起 パンフレットの配布など Issuing reminders about sexual violence (e.g., brochures)	性被害に関するヘルプデスクを常時設置する Setting up a help desk for sexual violence	現地の警察や病院 カウンセリングなど 性被害 セクシュアルハラスメントに対する対応に必要な機関と連携する Partnering with relevant institutions (e.g., local police, hospitals and counselling desks) to handle cases of sexual violence and sexual harassment	現地の警察や病院 カウンセリングなど 性被害 セクシュアルハラスメントに対する対応に必要な機関のリストを公開する Actively disseminating information about the relevant institutions (e.g., local police, hospitals and counselling desks)	その他 Others	n
あり YES	69 (23.8%)	81 (27.9%)	49 (16.9%)	50 (17.2%)	41 (14.1%)	290
なし NO	301 (18.8%)	494 (30.8%)	492 (30.7%)	264 (16.4%)	54 (3.4%)	1605

表 38. 性暴力を受けたことがあるかで区分した、所属機関が取るべき対策の回答数と割合 (%)

Table 38. Measures requested for home institutions by fieldworkers' experience of sexual violence

	性被害の危険に関する講習会の実施 Providing information sessions (e.g., education and training programs workshops about sexual violence)	緊急連絡網の整備 Establishing an emergency contact network	所属機関におけるハラスメント対策センターなどの設置・充実 Setting up and consolidating a harassment consultation office	カウンセリングの案内や法的措置を含めた所属機関主導の被害対応 Playing an active role in making a referral to counselors and taking appropriate legal action	その他 Others	n
あり YES	85 (29.3%)	27 (9.3%)	50 (17.2%)	82 (28.3%)	46 (15.9%)	290
なし NO	366 (22.8%)	187 (11.7%)	412 (25.7%)	583 (36.3%)	57 (3.6%)	1605

表 39. 性暴力を受けたことがあるかで区分した、指導的な立場の人が取るべき対策の回答数と割合 (%)

Table 39. Measures requested for those in supervisory positions by fieldworkers' experience of sexual violence

	あなたの滞在先や移動手段などの安全性を確認する Making sure you travel safely and stay safe before during after the fieldwork	定期的に連絡を取る Maintaining regular contact with you during the fieldwork フィールドワークでの安全対策につながる人的ネットワークの構築に積極的に関わる Actively getting involved in creating a reliable human network for your safety during the fieldwork	フィールドワークに同行する場合は 同じホテルへの宿泊や密室で 2 人きりといった状況を可能な限り避ける In case your advisor accompanies you during fieldwork, avoid staying in the same hotel and avoid unnecessary situations in which you are alone with your advisor behind closed doors	フィールドで直面しうる性被害の危険に関する講習会などに参加する Attending information sessions (e.g., education and training programs, workshops, about sexual violence)	性被害の危険に関して事前に注意喚起(病院などの性被害対応に必要な情報を含め)をする Providing reminders about risks of sexual violence in fieldwork and relevant information (e.g., local police, hospitals)	性被害の危険に関して事前に注意喚起(病院などの性被害対応に必要な情報を含め)をする Providing reminders about risks of sexual violence in fieldwork and relevant information (e.g., local police & hospitals)	ハラスメント対策センターなど学内機関、学外機関(弁護士、カウンセラーなど)との仲介役になる Acting as liaison between you and institutions such as harassment consultation office, counseling desks, hospitals, and lawyers	その他 Others	n
あり YES	22 (7.6%)	12 (4.1%)	49 (16.9%)	35 (12.1%)	43 (14.8%)	43 (14.8%)	43 (14.8%)	43 (14.8%)	290
なし NO	281 (17.5%)	96 (6.0%)	299 (18.6%)	246 (15.3%)	160 (10.0%)	210 (13.1%)	255 (15.9%)	58 (3.6%)	1605

表 40. 性暴力を受けたことがあるかで区分した、個人個人のフィールドワーカーが取るべき対策の回答数と割合 (%)

Table 40. Measures necessary for individual fieldworkers by fieldworkers' experience of sexual violence

	性被害の危険に関する講習会などに参加する Attending information session(s) (e.g., education and training programs, workshops) about sexual violence	教員や先輩など、フィールドワークの経験者に話を聞く Asking academic advisor(s)/ supervisor(s) and colleagues about their experiences concerning sexual violence in the fieldsite	安全な滞在先、移動手段、病院など性被害対応に必要なフィールドの情報を集めておく Collecting relevant information for your safety in the fieldsite (e.g., accommodation, transportation, hospital, local police)	フィールドでの緊急の連絡手段を確保する Ensuring emergency contact in the fieldsite	定期的にフィールド内外の人々と連絡を取る Having regular contact with people in and outside the fieldsite	低用量ピルを常時飲む、あるいは緊急避妊薬(アフターピル)を携行する Taking a low-dose contraceptive pill regularly or carrying morning-after pill	被害に遭った場合のための学内外機関の情報収集(ハラスメント対策センター、弁護士、カウンセラーなど) Proactively collecting relevant information in case of being a victim of sexual violence (e.g., harassment consultation office, counselling desks, hospitals, and lawyers)	その他 Others	n
あり YES	42 (14.5%)	43 (14.8%)	39 (13.4%)	33 (11.4%)	20 (6.9%)	11 (3.8%)	51 (17.6%)	51 (17.6%)	290
なし NO	255 (15.9%)	126 (7.9%)	543 (33.8%)	281 (17.5%)	138 (8.6%)	30 (1.9%)	188 (11.7%)	44 (2.7%)	1605

## 設問と回答

アンケートの設問と回答選択肢、およびそれらの選択割合を以下に示す。場合によっては、回答について、自由記述や設問で示された選択肢よりも大きなレベルのくくりで区分し直した上で集計した。その場合には青字で表記した。

The questions and answers and the percentages of respondents choosing each choice are shown below. In some cases, the answers were reclassified into a smaller number of higher categories from the original choices provided in the questionnaire. The results are shown in blue for the reclassified choices.

---

本アンケートは、ひとつ前のページでお示した趣旨のもとに行っています。同意いただける方は「同意する」を選択し、アンケートにお進みください。

Clicking on the "I agree to participate" button below indicates that you have read all the information

concerning this survey on the previous page.

- 同意する I agree to participate 2487 (99.9%)
  - 同意しない I don't agree to participate 3 (0.1%)
- (有効回答総数 n=) 2490 名 person

0-1 本アンケートを知ったのはどのような媒体からですか？学会名や、その他の媒体を教えてください  
(複数回答可) → [HiF によるカテゴリー化](#)

How did you learn about this survey? Please tell us the name of academic association(s) from you heard about this survey. You may list more than one association. If you learned about this survey from other means, please let us know where you read/heard about the survey. → [Categorized by HiF](#)

- 学会 Academic society 2327 (93.6%)
  - 学会以外 Institutions other than academic society 129 (5.2%)
  - SNS 21 (0.8%)
  - その他・不明 Other or unknown 10 (0.4%)
- (有効回答総数 n=) 2487 名 person

0-2 あなたのご専門の学問分野(以下のリストは科研費の審査区分に対応)

([https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03 keikaku/data/h30/h30 beppyoyo2-1.pdf](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/data/h30/h30_beppyo2-1.pdf))

→ [大区分ごとにカテゴリー化](#)

What is your academic discipline? (The following list corresponds to the review

category of KAKENHI Grants-in-Aid for Scientific Research). ([https://www.jsps.go.jp/english/e-grants/data/kakenhi\\_pamph\\_e.pdf](https://www.jsps.go.jp/english/e-grants/data/kakenhi_pamph_e.pdf))

→ Categorized by major categories

• A	685 (27.5%)
• B	270 (10.9%)
• C	49 (2.0%)
• D	42.5 (1.7%)
• E	47 (1.9%)
• F	364 (14.6%)
• G	346 (13.9%)
• H	70 (2.8%)
• I	430.5 (17.3%)
• J	11 (0.4%)
• K	95 (3.8%)
• 答えたくない I do not want to answer	77 (3.1%)
(有効回答総数 n=)	2487 名 person

0-3これまでの修学・研究のなかで、フィールドワークを行ったことがありますか？

フィールドワークとは、資料やデータの収集のために、研究者自らが研究室や研究機関を離れ、研究対象とする地域や団体など(フィールド)に赴き調査を行う研究手法のことです。フィールドワークの方法は学問分野によって多様ですが、分野を問わず本アンケートの対象とします。また、教員の引率のもとでの実習や巡検なども含みます。

Have you ever conducted fieldwork in your study/research experience?

This survey defines fieldwork as a way of doing research or a form of research training where individuals collect research data and materials first hand in the natural environment or social setting (e.g., a particular area or part of the world, within a particular institution) rather than in a laboratory or office at your own institution.

• ある YES	1895 (76.2%)
• ない NO	592 (23.8%)
(有効回答総数 n=)	2487 名 person

I あなたのこと

Please provide us some details about yourself.

I-1 出生年 → 現在の年齢カテゴリーに換算

In what year were you born? → Converted to current age category

• 70代以上 ≥70s	42 (2.2%)
• 60代 60s	189 (10.0%)



• 50代 50s	436 (23.0%)
• 40代 40s	502 (26.5%)
• 30代 30s	392 (20.7%)
• 20代 20s	215 (11.3%)
• 10代以下 ≤10s	0 (0.0%)
• 答えたくない I do not want to answer	119 (6.3%)
(有効回答総数 n=)	1895名 person

I-2 あなたの性自認(性別)を自由にご記入ください。答えたくない場合は「答えない」とご記入ください。→ HiFによるカテゴリー化

Please provide your gender identity. If you do not want to answer, write "N/A". →

Categorized by HiF

• 女性 Female	793 (41.8%)
• 男性 Male	1046 (55.2%)
• LGBTQ+	19 (1.0%)
• 不明 Unknown	3 (0.2%)
• 答えたくない I do not want to answer	34 (1.8%)
(有効回答総数 n=)	1895名 person

I-3 現在の身分

What is your current position?

• 学部生 Undergraduate student	28 (1.5%)
• 大学院生 Graduate student	210 (11.1%)
• ポスドク Post-doctoral fellow	63 (3.3%)
• 研究員(任期付き)Research fellow (fixed term)	96 (5.1%)
• 研究員(常勤)Research fellow (full-time)	220 (11.6%)
• 大学教員(任期付き) University lecturer (fixed term)	138 (7.3%)
• 大学教員(テニユアトラック) University lecturer (tenure track)	67 (3.5%)
• 大学教員(非常勤) University lecturer (part-time)	84 (4.4%)
• 大学教員(常勤) University lecturer (tenured)	703 (37.1%)
• フリーランス研究者 Independent researcher	61 (3.2%)
• その他 Other	229 (12.1%)
• 答えたくない I do not want to answer.	55 (2.9%)
(有効回答総数 n=)	1895名 person

I-4 フィールドワーク中に自身が何らかの性暴力・性被害に遭ったことがありますか？(性暴力・性被害にはセクシュアルハラスメントを含みます。本アンケートにおける性暴力の定義の詳細は趣旨文に記載してあります)

Have you ever experienced any kind of sexual violence during fieldwork placement? (See the preface of this survey for the definition of sexual violence, which is an umbrella term that includes sexual harassment).

- YES 290 (15.3%)
  - NO 1605 (84.7%)
- (有効回答総数 n=) 1895 名 person

Ⅱ 性暴力・性被害の実態について(複数の性暴力被害に遭われたご経験のある方は、5 つまで選び、それぞれについて別個にお答えいただけましたら幸いです)

Please provide details concerning the incident(s) of sexual violence that you have experienced. If you have experienced multiple incidents, please select up to five cases and answers about each separate case.

Ⅱ-0-1 あなたがこれまでフィールドワーク中に遭ったことのある性暴力は何件ありますか(加害者が同一のケースや、加害者が複数であっても同じフィールドで同様の暴力が繰り返されるケースを 1 件と想定していますが、ご自身のご判断に基づいてカウントしてください)

How many times have you been the victim of sexual violence during fieldwork? (Repeated incidents inflicted by the same preparator will be counted as one incident. Repeated incidents of the same/similar kind of sexual violence in the same field site(s) by multiple preparators will also be counted as one incident. However, please rely on your own judgement should you feel uncertain regarding how to count the incident(s))

- 1 件 1 case 139 (48.3%)
  - 2 件 2 cases 79 (27.4%)
  - 3 件 3 cases 23 (8.0%)
  - 4 件 4 cases 9 (3.1%)
  - 5 件 5 cases 5 (1.7%)
  - 6 件以上 6 cases or more 33 (11.5%)
- (有効回答総数 n=) 288 名 person

Ⅱ-0-2 次のページでは、性暴力被害についての詳細をお聞きします。詳細について教えていただける場合には「詳細の入力に進む」を選択ください。しかし、場合によっては、辛い記憶のフラッシュバックなど精神的な苦痛が生じる恐れもあります。もし、詳細についての記述を省略し、被害にあったという事実を伝えるだけにとどめたい場合には「スキップする」を選択ください。なお、「詳細の入力に進む」を選択し、設問の内容を確認してから、アンケートフォーム末尾の「戻る」ボタンでこのページに戻り、選択をやり直すことができます。

On the next page, we will ask you to provide details concerning the incident(s) of sexual violence that you have experienced. If you are willing to do so, please select "Proceed to the next page" below. However, you may experience

emotional distress such as flashbacks of painful memories while providing the details. If you would like to skip the details and just tell us the fact that you have been a victim of sexual violence, please select "Skip the next page" below. You may select "Proceed to the next page" and take a brief look at the questions first and then come back to this page by clicking the on "Back"(戻る) button at the bottom of the survey page.

- 1. 詳細の入力に進む Proceed to the next page. 242 (84.0%)
  - 2. スキップする Skip the next page. 46 (16.0%)
- (有効回答総数 n=) 288 名 person

## II 性暴力・性被害の実態について(1件目の性暴力被害について教えてください)

Please provide details concerning the first case of sexual violence that you have experienced.

### II-1 被害当時のご自身の身分

What was your position at the time of the incident?

- 答えたくない I do not want to answer. 13 (3.7%)
  - 学部生 Undergraduate student 52 (14.8%)
  - 大学院生 Graduate student 202 (57.4%)
  - ポスドク Post-doctoral fellow 14 (4.0%)
  - 研究員(任期付き)Research fellow (fixed term) 11 (3.1%)
  - 研究員(常勤)Research fellow (full-time) 24 (6.8%)
  - 大学教員(任期付き) University lecturer (fixed term) 9 (2.6%)
  - 大学教員(テニユアトラック) University lecturer (tenure track) 5 (1.4%)
  - 大学教員(非常勤) University lecturer (part-time) 8 (2.3%)
  - 大学教員(常勤) University lecturer (tenured) 20 (5.7%)
  - フリーランス研究者 Independent researcher 3 (0.9%)
  - その他 Other 14 (4.0%)
- (有効回答総数 n=) 352 件 case

### II-2a 被害は、何年ごろに起こりましたか? →10年区切りでカテゴリー化

In what year did the incident occur? → Categorized by decade

- 1992年以前 Before 1992 23 (6.5%)
  - 1993-2002年 66 (18.8%)
  - 2003-2012年 102 (29.0%)
  - 2013-2022年 124 (35.2%)
  - 答えたくない I do not want to answer 37 (10.5%)
- (有効回答総数 n=) 352 件 case

II-2b 被害は、何年ごろに起こりましたか？→被害当時の被害者の年齢に換算

In what year did the incident occur? → Converted to the respondent's age at the time of the abuse

• 60代以上 Over 60s	0 (0.0%)
• 50代 50s	7 (2.0%)
• 40代 40s	24 (6.8%)
• 30代 30s	77 (21.9%)
• 20代 20s	176 (50.0%)
• 10代以下 Under 10s	0 (0.0%)
• 答えたくない I do not want to answer	61 (17.3%)
(有効回答総数 n=)	352 件 case

II-3 被害の起こったフィールドワーク先(国)(以下のリストは外務省の国・地域の区分に基づきます。この区分にない国や地域については「その他」をご選択の上、国・地域をご記入ください)→ 日本国内と国外にカテゴリー化

In which country or region was the fieldwork performed at the time of the incident? (If the country or region you performed the fieldwork is not included in the list, please select the “Other (その他)” option and provide its name. The list of countries and regions used here covers those specified by the Ministry of Foreign Affairs of Japan. → Categorized as domestic and international

• 日本国内 Japan	199 (56.5%)
• 日本国外 Overseas	113 (32.1%)
• その他 Other	2 (0.6%)
• 答えたくない I do not want to answer	38 (10.8%)
(有効回答総数 n=)	352 件 case

II-4 フィールドワーク先の詳細(農村、都市、コミュニティ、組織など)を自由に記述してください。答えたくない場合は「答えない」と書いてください。

Please provide details of the fieldwork site(s) to the extent that you can feasibly share, for example, the type of community/institution it was set in, whether the location was rural or urban, etc. If you do not want to answer, write “N/A”.

現在解析中

Now analyzing

II-5 被害当時、誰と一緒にフィールドワークをしていましたか？選択肢に当てはまらない人物(例:調査助手、通訳、ガイドなど)が随行していた場合は、その他にご記入下さい。

With whom were you performing the fieldwork? If your companion(s) were neither academic advisors/supervisors nor colleagues, please specify the role

they played in your research (e.g., research assistants, interpreters, local guides, etc.) in the "Other"(その他) box.

- 単独でしていた I was doing fieldwork alone. 161 (45.7%)
  - 指導教員 Academic advisor/supervisor 68 (19.3%)
  - 上司 Boss/superior 23 (6.5%)
  - 同じ年の研究者／学生 Fellow researcher/student 49 (13.9%)
  - 年上の研究者／学生 Senior researcher/student 81 (23.0%)
  - 年下の研究者／学生 Junior researcher/student 39 (11.1%)
  - 答えたくない I do not want to answer. 8 (2.3%)
- (有効回答総数 n=) 352 件 case

II-6 被害当時のあなたのフィールドワーク経験について、当てはまるのは以下のどれですか？

Which of the following applies to your fieldwork experience/expertise at the time you experienced sexual violence?

- 私は、生まれて初めてのフィールドワークで、性暴力・性被害に遭った。I experienced sexual violence during my very first fieldwork placement. 23 (6.5%)
  - 私が性暴力・性被害に遭った時、私は、まだフィールドワークの初心者であった。When I experienced sexual violence, I was still relatively new to doing fieldwork. 112 (31.8%)
  - 私は、別の場所でのフィールドワークの経験はあったものの、初めて行ったフィールドで性暴力・性被害に遭った。I had some previous experience doing fieldwork elsewhere and I experienced sexual violence for the first time while on field assignment. 88 (25.0%)
  - 私は、既に何度もフィールドワークを行っていた場所で性暴力・性被害に遭った。I experienced sexual violence in the fieldsite where I had already performed fieldwork many times. 103 (29.3%)
  - その他 14 (4.0%)
  - 答えたくない。I do not want to answer. 12 (3.4%)
- (有効回答総数 n=) 352 件 case

II-7 その性被害を初めて受けたのは、フィールド滞在後どのくらいの時期のことでしたか？

When the incident occurred, how much time had passed since your initial arrival in the field?

- 1か月未満 Less than 1 month 209 (59.4%)
- 1か月以上3か月未満 1 month or longer but less than 3 months 39 (11.1%)
- 3か月以上6か月未満 3 months or longer but less than 6 months 20 (5.7%)

- 6か月以上1年未満 6 months or longer but less than a year 22 (6.2%)
  - 1年以上 More than a year 32 (9.1%)
  - その他 Other 13 (3.7%)
  - 答えたくない I do not want to answer. 17 (4.8%)
- (有効回答総数 n=) 352 件 case

Ⅱ-8 被害の起こった場所(例:ホームステイ先の家、自身が宿泊するホテルの部屋、道端、バスの中など)。答えたくない場合は「答えない」と書いてください。

Where did this incident occur? (e.g., at a host family's house, in a hotel room, on the street, on a bus, etc.). If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

Ⅱ-9 そのフィールドワークにおける被害の頻度

How many times did the incident(s) occur during your fieldwork?

- 1回 Once 176 (50.0%)
  - 2回以上5回以下 2-5 times 125 (35.5%)
  - 6回以上10回以下 6-10 times 11 (3.1%)
  - 10回以上または継続的 More than 10 times or on a regular/continuous basis 27 (7.7%)
  - 答えたくない I do not want to answer. 13 (3.7%)
- (有効回答総数 n=) 352 件 case

Ⅱ-10a 加害者の年齢(分からない場合は、「不明」を選択、または、ご自身の推測で答えていただいても構いません)

To the best of your knowledge, what was the age of the perpetrator(s)? (If you are unclear/unsure on this, you can rely on your impressions or guesses or simply select "not sure".)

- 10代以下 Under 19 4 (1.1%)
- 20代 20s 53 (15.1%)
- 30代 30s 63 (17.9%)
- 40代 40s 79 (22.4%)
- 50代 50s 81 (23.0%)
- 60代 60s 56 (15.9%)
- 70代以上 70s or over 25 (7.1%)
- 不明 Not sure 26 (7.4%)
- その他 Other 2 (0.6%)
- 答えたくない I do not want to answer. 8 (2.3%)

(有効回答総数 n=)

352 件 case

II-10b 加害者の年齢(分からない場合は、「不明」を選択、または、ご自身の推測で答えていただいてもかまいません)→ 被害者と加害者の10歳区切りの年齢差にカテゴリー化

To the best of your knowledge, what was the age of the perpetrator(s)? (If you are unclear/unsure on this, you can rely on your impressions or guesses or simply select "not sure".) → Categorized into 10-year age difference between respondent and abuser

- 加害者の年齢区分のほうが上 Abuser's age category is higher 205 (77.7%)
- 同じ年齢区分 Same age category 48 (18.2%)
- 被害者の年齢区分のほうが上 Respondent's age category is higher 11 (4.2%)

(有効回答総数 n=)

264 件 case

II-11 加害者の性別

To the best of your knowledge, what sex was the perpetrator'(s)?

- 男性 Male 332 (94.3%)
- 女性 Female 11 (3.1%)
- 不明 Not sure 4 (1.1%)
- その他 Other 1 (0.3%)
- 答えたくない I do not want to answer. 4 (1.1%)

(有効回答総数 n=)

352 件 case

II-12 加害者の職業(不明の場合はご自身の推測、または「不明」という回答でかまいません)答えたくない場合は「答えない」と書いてください。

To the best of your knowledge, what was the employment status of the perpetrator(s)? (If you are unclear/unsure on this, you can rely on your impressions or guesses or simply write "not sure".) If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

II-13 加害者とご自身との関係(例:フィールドで雇用した調査助手、調査許可書の発行に関わる現地の役人、大使館や領事館の駐在員、フィールドで出会った同じ研究領域で権威のある人、全く無関係の知らない人)答えたくない場合は「答えない」と書いてください。

What was the relationship between the perpetrator(s) and yourself? (e.g., research assistant hired in the fieldsite, local officials involved in issuing research permits, embassy/consulate staff, authoritative figure in your research

field whom you met in the fieldsite, a complete stranger) If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

II-14 どのような性暴力・性被害であったか、ご自身の言葉で具体的に教えてください。(個人名や具体的な組織名などの記載は控えてください)被害の詳細を書いていただくのはこの設問だけです。なお、日本語や英語に限らず、ご自身の表現しやすい言語で書いてくださってもかまいません。答えたくない場合は「答えない」と書いてください。

Please describe what kind of sexual violence occurred. When doing so, please refrain from reporting the names of individuals or specific organizations involved. You can choose any language in which you're comfortable writing. Remember this is the only place where you can provide the details of the incident in your own words. If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

II-15 この性暴力は、以下の種類のどれに当てはまりますか？当てはまるものを選択してください。Which type of sexual violence did this incident most closely resemble? Choose applicable option(s) that reflect(s) the incident.

- |  |             |
|--|-------------|
| • レイプ Rape   | 16 (4.5%)   |
| • 強制わいせつ Forcible touching   | 58 (16.5%)  |
| • 望まない接近や接触 Unwanted sexual approach(es) and/or contact  | 215 (61.1%) |
| • 性的発言 Sexual remarks and/or sexually suggestive comments  | 145 (41.2%) |
| • ストーカー行為 Stalking   | 37 (10.5%)  |
| • 望まない性的情報(画像や書籍など)の提示 Exposure to unwanted sexually explicit media contents (e.g., images, books) | 29 (8.2%)   |
| • 裸や性器の露出など視覚的な性暴力 Sexual exhibition (e.g., nudity, exposure of genitals)                          | 13 (3.7%)   |
| • その他 Other  | 33 (9.4%)   |
| • 答えたくない I do not want to answer.  | 5 (1.4%)    |
| (有効回答総数 n=)  | 352 件 case  |

II-16 被害に遭っているときや被害直後に、フィールドに頼ることのできる人がいましたか？

Was there anyone in your immediate vicinity that you could rely on at the time of the incident?



• YES	99 (28.1%)
• NO	237 (67.3%)
• 答えたくない I do not want to answer.	16 (4.5%)
(有効回答総数 n=)	352 件 case

Ⅱ-17 ひとつ前の質問(Ⅱ-16)の回答が YES の場合、それはどのような人でしたか？答えたくない場合は「答えない」と書いてください。

If you answered 'Yes' to the previous question (Ⅱ-16), who was/were this individual(s)? If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

Ⅱ-18 被害のあと、何らかの対処をとりましたか？(対処の例:拒絶の意思を強く伝えた、加害者と二人きりになることを避けた、一人で夜間や暗い場所を歩かないようにした、身近な人に相談した等)

Did you take any action after the incident? (e.g., directly rejecting the perpetrator(s), avoiding situations where you find yourself alone with the perpetrator(s), avoid walking alone or through poorly lit areas at night, consulting with people around you, etc.)

• YES	247 (70.2%)
• NO	96 (27.3%)
• 答えたくない I do not want to answer.	9 (2.6%)
(有効回答総数 n=)	352 件 case

Ⅱ-19 ひとつ前の質問(Ⅱ-18)の回答が YES の場合、どのような対処でしたか？また、対処をとらなかった場合、どのような理由からですか？答えたくない場合は「答えない」と書いてください。

If you answered 'Yes' to the previous question (Ⅱ-18), what kind of action did you take? If you answered 'No', why was this so? If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

Ⅱ-20 被害のあと、どのような人に相談しましたか？

Who did you consult with after the incident?

• 誰にも相談しなかった I didn't consult with anyone	158 (44.9%)
• 親 Parents	15 (4.3%)
• キョウダイ Siblings	4 (1.1%)
• 身近な家族・親族 Close (Extended) family members	8 (2.3%)
• 恋人、配偶者 Partner, Spouse	36 (10.2%)

• 指導教員 Academic advisor/Supervisor	31 (8.8%)
• その他教員 Other faculty member(s)	0 (0.0%)
• 先輩・後輩を含む大学の友人 University-related friends such as fellow students	79 (22.4%)
• その他友人 Other friends	0 (0.0%)
• 上司 Boss/Superior	5 (1.4%)
• 同僚 Colleagues	21 (6.0%)
• 警察 Police	5 (1.4%)
• 所属大学や研究機関のハラスメント相談窓口 Harassment counseling desk (Affiliated institutions such as university and research institute)	12 (3.4%)
• その他ハラスメント相談窓口 Harassment counseling desk (Other)	0 (0.0%)
• 医療従事者(医者、看護師など)Medical practitioners (e.g., doctors, nurses)	4 (1.1%)
• 弁護士 Lawyer	3 (0.9%)
• セラピスト Therapist	4 (1.1%)
• その他 Other	103 (29.3%)
• 答えたくない I do not want to answer.	6 (1.7%)
(有効回答総数 n=)	352 件 case

Ⅱ-21 その後のフィールドワークにその性暴力・性被害はどのような影響を及ぼしましたか？答えたくない場合は「答えない」と書いてください

What was the impact of the incident on your subsequent fieldwork? If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

Ⅱ-22 その後のご自身の研究活動にその性暴力・性被害はどのような影響を及ぼしましたか？答えたくない場合は「答えない」と書いてください

What kind of influence did the incident have on your research activities from that point? If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

Ⅱ-23 その後のご自身の日常生活にその性暴力・性被害はどのような影響を及ぼしましたか？答えたくない場合は「答えない」と書いてください。

What kind of influence did the incident have on your everyday life from that point? If you do not want to answer, write "N/A".

現在解析中

Now analyzing

Ⅱ-24 同じ加害者から、性暴力・性被害ではなく、権力関係を背景としたハラスメント(例:学術・研究機関を含む職場やフィールド先での優越的な関係を背景とした嫌がらせ、精神的・身体的虐待、調査研究環境の悪化につながる言動)を受けていましたか？

Did the perpetrator(s) of said incident engage in bullying, mobbing, and/or mental/physical abuse by taking advantage of their authority or (higher) position in the field site(s)/workplace (including academic/research institutions)?

- YES 106 (30.1%)
  - No 227 (64.5%)
  - 答えたくない I do not want to answer. 19 (5.4%)
- (有効回答総数 n=) 352 件 case

Ⅱ-25 本事例を、個別事例として報告書などに使用することをお許しいただけますか？

なお、個別事例として使用する際には、「学問分野」「身分」「調査地域」などを架空のものに変更し、別事例の内容と組み合わせるなどして、匿名性を厳重に確保した上で使用します。

Would you allow us to use the reported case here as a typical example of sexual violence in our publication? When doing so, we assure to protect the anonymity, for example, by adding fiction to the case (e.g., combining it with the content of another reported/imaginary case, changing the respondent's academic discipline, position, fieldsite, etc. to something fictitious).

- 使用してよい I give you a permission to use the case reported here. 332 (94.3%)
  - 回答事例の一部であっても、具体事例は一切使用しないでほしい I do not allow you to use the case reported here at all. 20 (5.7%)
- (有効回答総数 n=) 352 件 case

Ⅲ フィールドワークと性暴力被害に関する事前学習の有無

Please provide us with your experiences of and opinions about pre-fieldwork preparation and countermeasures concerning sexual violence.

Ⅲ-1 フィールドワークに行く前に、性被害に関するガイダンスを受けましたか？

Did you receive any guidance concerning how to avoid/how to deal with/how to report sexual violence prior to your fieldwork placement?

- 何も受けていない I received no guidance. 1679 (88.6%)
- パンフレット等を受け取った Guidance was provided through written information materials (e.g., pamphlets, leaflets, booklets) 47 (2.5%)

- 説明会やワークショップに参加した Guidance was provided through information sessions/workshops. 42 (2.2%)
  - 教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いた Hearing personal experiences about and/or receiving reminders/warnings about sexual violence from your academic advisor(s), supervisor(s), other faculty member(s), senior colleague(s) and/or fellow student(s). 119 (6.3%)
  - その他 24 (1.3%)
- (有効回答総数 n=) 1894 名 person

Ⅲ-2 フィールドワークに行く前に、性被害の可能性を考えて用意したものや気を付けたことはありますか？

Prior to your fieldwork, did you prepare yourself for, or take precautions against the possibility of being a victim of sexual violence?

- YES 305 (16.1%)
  - NO 1590 (83.9%)
- (有効回答総数 n=) 1895 名 person

Ⅲ-3 ひとつ前の質問(Ⅲ-2)で YES と回答した方は、具体的に何をしましたか？

If you answered 'Yes' to the previous question (Ⅲ-2), what did you specifically do?

現在解析中

Now analyzing

Ⅲ-4 フィールドワーク中の性被害を防ぎ、また起こってしまった場合の事後の対処のために、現地の大使館や自治体、受け入れ機関はどのような対策を取るべきだと思いますか？以下からもっとも大事だと思うことを選んでください。

What measures do you feel are necessary for local embassies, local governments, host institutions, etc. in the fieldwork location to take in order to prevent sexual violence during fieldwork, or to provide help in case of occurrence? Please select one option that you think is particularly important.

- 性被害の危険に関する注意喚起(パンフレットの配布など) Issuing reminders about sexual violence (e.g., brochures) 370 (19.5%)
- 性被害に関するヘルプデスクを常時設置する Setting up a help desk for sexual violence 575 (30.3%)
- 現地の警察や病院、カウンセリングなど、性被害・セクシュアルハラスメントに対する対応に必要な機関と連携する Partnering with relevant institutions (e.g., local police, hospitals and counselling desks) to handle cases of sexual violence and sexual harassment 541 (28.5%)

- 現地の警察や病院、カウンセリングなど、性被害・セクシュアルハラスメントに対する対応に必要な機関のリストを公開する Actively disseminating information about the relevant institutions (e.g., local police, hospitals and counselling desks) 314 (16.6%)
  - その他 Other 95 (5.0%)
- (有効回答総数 n=) 1895 名 person

Ⅲ-5 フィールドワーク中の性被害を防ぎ、また起こってしまった場合の事後の対処のために、所属機関(大学、研究所など)はどのような対策を取るべきだと思いますか？以下からもっとも大事だと思うことを選んでください。

What measures do you feel are necessary for home institutions (your university, research institute, etc.) to take in order to prevent sexual violence during fieldwork, or to provide help in case of occurrence? Please select one option that you think is particularly important.

- 性被害の危険に関する講習会の実施 Providing information sessions (e.g., education and training programs, workshops) about sexual violence. 451 (23.8%)
  - 緊急連絡網の整備 Establishing an emergency contact network 214 (11.3%)
  - 所属機関におけるハラスメント対策センターなどの設置・充実 Setting up and consolidating a harassment consultation office 462 (24.4%)
  - カウンセリングの案内や法的措置を含めた所属機関主導の被害対応 Playing an active role in making a referral to counsellors and taking appropriate legal action. 665 (35.1%)
  - その他 Other 103 (5.4%)
- (有効回答総数 n=) 1895 名 person

Ⅲ-6 フィールドワーク中の性被害を防ぎ、また起こってしまった場合の事後の対処のために、指導的な立場にいる人(指導教員、上司など)にしてほしかったこと、あるいは、してほしいことは何ですか？以下からもっとも大事だと思うことを選んでください。

What measures do/did you want your academic advisor/supervisor/boss/superior to take for you in order to prevent sexual violence during fieldwork, or to provide help in case of occurrence? Please select one option that you think is particularly important.

- 1. あなたの滞在先や移動手段などの安全性を確認する Making sure you travel safely and stay safe before/during/after the fieldwork. 303 (16.0%)
- 2. 定期的に連絡を取る Maintaining regular contact with you during the fieldwork 108 (5.7%)

- 3. フィールドワークでの安全対策につながる人的ネットワークの構築に積極的に関わる Actively getting involved in creating a reliable human network for your safety during the fieldwork. 348 (18.4%)
  - 4. フィールドワークに同行する場合は、同じホテルへの宿泊や密室で 2 人きりといった状況を可能な限り避ける In case your advisor accompanies you during fieldwork, avoid staying in the same hotel and avoid unnecessary situations in which you are alone with your advisor behind closed doors. 281 (14.8%)
  - 5. フィールドで直面しうる性被害の危険に関する講習会などに参加する Attending information sessions (e.g., education and training programs, workshops) about sexual violence. 203 (10.7%)
  - 6. 性被害の危険に関して事前に注意喚起(病院などの性被害対応に必要な情報を含め)をする Providing reminders about risks of sexual violence in fieldwork and relevant information (e.g., local police, hospitals). 253 (13.4%)
  - 7. ハラスメント対策センターなど学内機関、学外機関(弁護士・カウンセラーなど)との仲介役になる Acting as liaison between you and institutions such as harassment consultation office, counselling desks, hospitals, and lawyers. 298 (15.7%)
  - その他 Other 101 (5.3%)
- (有効回答総数 n=) 1895 名 person

Ⅲ-7 フィールドワーク中の性被害を防ぎ、また起こってしまった場合の事後の対処のために、あなた自身がすべきだったこと、あるいは、すべきだと思うことは何ですか？以下からもっとも大事だと思うことを選んでください。

What measures do you think you will take in the future to prevent sexual violence during fieldwork or to handle any occurrence? Please select one option that you think is particularly important.

- 性被害の危険に関する講習会などに参加する Attending information session(s) (e.g., education and training programs, workshops) about sexual violence. 297 (15.7%)
- 教員や先輩など、フィールドワークの経験者に話を聞く Asking academic advisor(s)/supervisor(s) and colleagues about their experiences concerning sexual violence in the fieldsite 169 (8.9%)
- 安全な滞在先・移動手段、病院など性被害対応に必要なフィールドの情報を集めておく Collecting relevant information for your safety in the fieldsite (e.g., accommodation, transportation, hospital, local police). 582 (30.7%)
- フィールドでの緊急の連絡手段を確保する Ensuring emergency contact in the fieldsite 314 (16.6%)

- 定期的にフィールド内外の人々と連絡を取る Having regular contact with people in and outside the fieldsite 158 (8.3%)
  - 低用量ピルを常時飲む、あるいは緊急避妊薬(アフターピル)を携行する Taking a low-dose contraceptive pill regularly or carrying morning-after pill 41 (2.2%)
  - 被害に遭った場合のための学内外機関の情報収集(ハラスメント対策センター、弁護士、カウンセラーなど) Proactively collecting relevant information in case of being a victim of sexual violence (e.g., harassment consultation office, counselling desks, hospitals, and lawyers) 239 (12.6%)
  - その他 Other 95 (5.0%)
- (有効回答総数 n=) 1895 名 person

#### IV アンケートへのフィードバック

Here we ask your feedback to this survey.

IV-1 今後のアンケートの改善のために、本アンケートの感想やコメントがありましたらお寄せいただけましたら幸いです

In order for this survey to improve, we would appreciate your comment/feedback.

現在解析中

Now analyzing

## 統計解析の詳細

統計解析に関する補足と詳細を以下に記す。

### 方法

一般化線形モデルによる統計解析は R 言語 (version 4.2.3) の glm 関数を用いて実施した (R Core Team, 2023)。解析では、ひとりの回答者が性暴力の事例を複数件入力した場合でも、それぞれの性暴力の事例に関する情報を独立したデータとして扱った。これは同じ回答者であっても地域や年代や状況がまったく異なるフィールドで性暴力に遭っている場合があるためである。また、性暴力の具体的な内容は被害者の属性ではなく加害者の属性で決まる側面も大きい (被害者が性暴力を誘発しているのではなく、性暴力の責任は加害者にある) と考えられる。これらのことを鑑みて、今回の解析では同一の回答者が同じような被害傾向を持っている可能性を考慮せず、回答者 ID をランダム効果とした一般化線形混合モデルは実施しなかった。

### 解析 1

性自認と専門分野の違いによって「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」が異なるのかを明らかにするため、解析を実施した。フィールドワーク経験のある回答者における被害の有無を応答変数とし、回答者の性自認、専門分野を説明変数として、二項分布とロジットリンク関数を仮定した一般化線形モデルを適用した。性自認によって専門分野に偏りがある可能性を考慮し (横山, 2022)、両者をモデルに含めた。

以下のような解析結果が得られた (解析表 1、解析図 1)。性自認が【女性】の回答者に比べて【男性】の回答者では、性暴力を受けたことのある回答者の割合が有意に低かった。また、専門分野の大区分が【A 人文学系】の回答者に比べて【B 数物系】、【I 医学系】、【F 農学系】の回答者では性暴力を受けたことのある回答者の割合が有意に低かった。フィールドワークを手法として採用する人の割合や、本アンケートに興味関心を持ち、回答の労を厭わなかった人の割合に関しては、分野間の違いが大きいと考えられるため、本結果ではそれらの分野の傾向を正確には代表できていないと HiF は考えている。

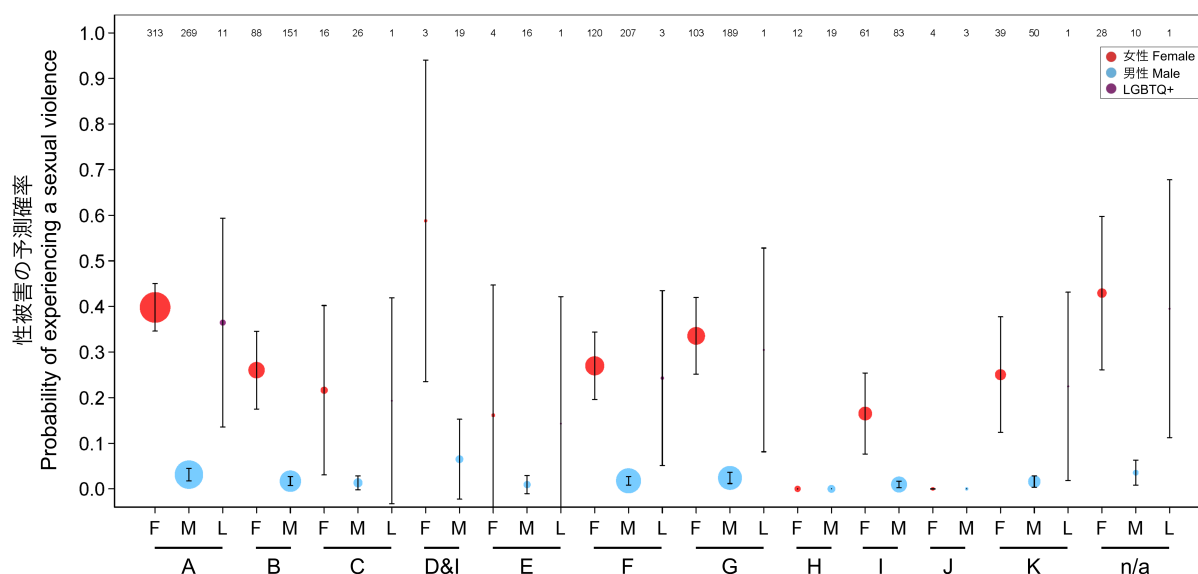
解析表 1. 性自認と専門分野の違いによる、性被害割合の違い

Analysis Table 1: Experience of sexual violence by fieldworkers' gender identity and their academic discipline

説明変数 Explanatory variables	推定値 Effect	標準誤差 SE	t	p 値 p-value
(切片) (Intercept)	-0.41	0.11	-3.74	<0.001
大区分 B Expertise: B	-0.63	0.25	-2.53	0.011
大区分 C Expertise: C	-0.87	0.57	-1.54	0.125



大区分 D Expertise: D	0.77	0.75	1.03	0.303
大区分 D&I Expertise: D&I	0.13	1.27	0.10	0.919
大区分 E Expertise: E	-1.23	1.08	-1.14	0.253
大区分 F Expertise: F	-0.58	0.22	-2.67	0.007
大区分 G Expertise: G	-0.27	0.22	-1.24	0.216
大区分 H Expertise: H	-15.03	375.87	-0.04	0.968
<b>大区分 I Expertise: I</b>	<b>-1.21</b>	<b>0.35</b>	<b>-3.50</b>	<b>&lt;0.001</b>
大区分 J Expertise: J	-15.43	819.39	-0.02	0.985
大区分 K Expertise: K	-0.68	0.36	-1.90	0.058
大区分 答えない Expertise: No answer	0.13	0.36	0.36	0.722
<b>性自認 男性 Gender: Male</b>	<b>-3.02</b>	<b>0.23</b>	<b>-13.20</b>	<b>&lt;0.001</b>
性自認 LGBTQ+ Gender:LGBTQ+	-0.14	0.51	-0.28	0.781
<b>性自認 答えない Gender: No answer</b>	<b>-1.07</b>	<b>0.50</b>	<b>-2.14</b>	<b>0.032</b>
性自認 不明 Gender: Unknown	17.50	1348.75	0.01	0.990



解析図 1. GLM によってモデル計算された性被害割合の推定値とその 95%信頼区間。横軸上段は性自認で、F は【女性】、M は【男性】、L は【LGBTQ+】。回答数が少なかったため【答えない】と【不明】は示していない。横軸下段は専門分野の大区分で、n/a は「答えたくない」。図上方の数字はもともなった回答の数を表し、プロットされている円の面積は回答数が多いほど大きく表示されている。

Analysis Figure 1. Probabilities of experiencing sexual violence and their 95% confidence intervals, predicted by GLM. F, 【Female】; M, 【Male】; L, 【LGBTQ+】. 【No answer】 and 【Unknown】 are not shown due to the small sample size. The lower part of the x-axis represents the expertise, and n/a corresponds to <I do not want to answer>. The numbers above

the plots represent the number of responses, and the area of the plotted circles is displayed larger, the larger the number of responses.

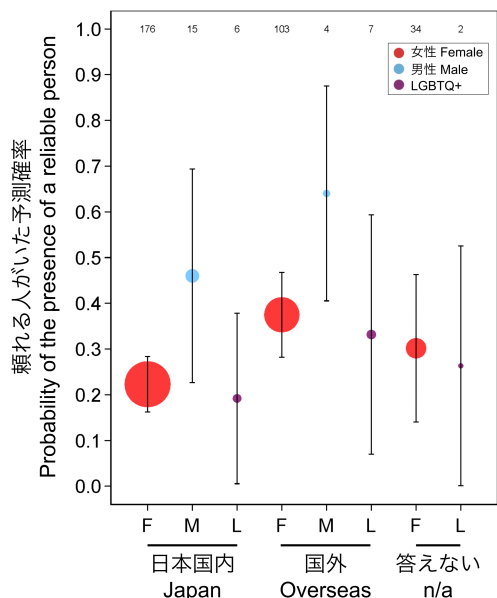
## 解析 2

性自認と性暴力の起こった国・地域の違いによって頼れる人がいた割合が異なるのかを明らかにするため、解析を実施した。性暴力の事例における頼れた人の有無を応答変数とし、被害者の性自認、性暴力の起こった国・地域（【国内】、【国外】、その他）を説明変数として、二項分布とロジットリンク関数を仮定した一般化線形モデルを適用した。

以下のような解析結果が得られた（解析表 2、解析図 2）。性自認が【女性】の回答者に比べて【男性】の回答者では、頼れる人がいた回答者の割合が有意に高かった。また、被害にあったのが【国内】の回答者に比べて【国外】の回答者では、頼れる人がいた回答者の割合が有意に高かった。

解析表 2. 性自認と性暴力の起こった国・地域の違いによる、頼れる人がいた割合の違い  
Analysis Table 2. Probabilities of the presence of a reliable person at the fieldsite by fieldworkers' gender identity and country/region.

説明変数 Explanatory variables	推定値 Effect	標準誤差 SE	t	p 値 p-value
(切片) (Intercept)	-1.25	0.18	-6.96	<0.001
国・地域 国外 Country/region: Overseas	0.74	0.26	2.79	0.005
国・地域 不明 Country/region: Unknown	0.41	0.43	0.96	0.337
性自認 男性 Gender: Male	1.09	0.50	2.18	0.030
性自認 LGBTQ+ Gender: LGBTQ+	-0.19	0.61	-0.31	0.755
性自認 答えない Gender: No answer	1.81	1.24	1.46	0.145
性自認 不明 Gender: Unknown	-13.73	882.74	-0.02	0.988



解析図 2. GLM によってモデル計算されたフィールドに頼れる人がいた割合の推定値とその 95%信頼区間。横軸上段は性自認で、F は【女性】、M は【男性】、L は【LGBTQ+】。回答数が少なかったため【答えない】と【不明】は示していない。横軸下段は被害にあった国・地域。n/a は〈答えたくない〉。図上方の数字はもともなった回答の数を表し、プロットされている円の面積は回答数が多いほど大きく表示されている。

Analysis Figure 2. Probabilities of the presence of a reliable person at the fieldsite and their 95% confidence intervals, predicted by GLM. F, [Female]; M, [Male]; L, [LGBTQ+]. [No answer] and [Unknown] are not shown due to the small sample size. The lower part of the x-axis represents the country/region, and n/a corresponds to 〈I do not want to answer〉. The numbers above the plots represent the number of responses, and the area of the plotted circles is displayed larger for the larger the number of responses.

### 解析 3

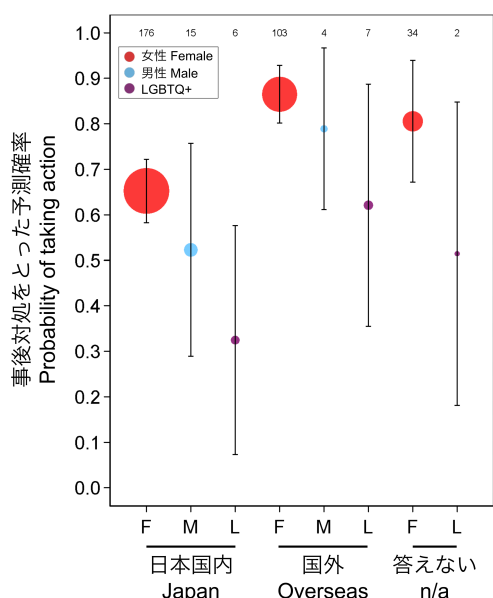
性自認と性暴力の起こった国・地域の違いによって事後対処を取った割合が異なるのかを明らかにするため、解析を実施した。性暴力の事例における事後対処の有無を応答変数とし、被害者の性自認、性暴力の起こった国・地域（【国内】、【国外】、その他）を説明変数として、二項分布とロジットリンク関数を仮定した一般化線形モデルを適用した。

以下のような解析結果が得られた。性自認が【女性】の回答者に比べて【LGBTQ+】の回答者では、事後対処を取った回答者の割合が有意に低かった。また、被害にあったのが【国内】の回答者に比べて【国外】の回答者では、事後対処を取った回答者の割合が有意に高かった。

解析表 3. 性自認と性暴力の起こった国・地域の違いによる、事後対処をとった割合の違い

Analysis Table 3: Probabilities of taking action after sexual violence by fieldworkers' gender identity and country/region.

説明変数 Explanatory variables	推定値 Effect	標準誤差 SE	t	p 値 p-value
(切片) (Intercept)	0.63	0.16	4.02	<0.001
国・地域 国外 Country/region: Overseas	1.23	0.31	3.94	<0.001
国・地域 不明 County/region: Unknown	0.79	0.46	1.72	0.086
国・地域 その他 Country/region: Others	-16.20	1455.40	-0.01	0.991
性自認 男性 Gender: Male	-0.54	0.50	-1.08	0.279
性自認 LGBTQ+ Gender: LBGTQ+	-1.36	0.58	-2.35	0.019
性自認 答えない Gender: No answer	14.70	824.91	0.02	0.986
性自認 不明 Gender: Unknown	14.15	1455.40	0.01	0.992



解析図 3. GLM によってモデル計算された事後対処をとった予測確率とその 95%信頼区間。横軸上段は性自認で、F は【女性】、M は【男性】、L は【LGBTQ+】。回答数が少なかったため【答えない】と【不明】は示していない。横軸下段は被害にあった国・地域。n/a は「答えたくない」。図上方の数字はもともなった回答の数を表し、プロットされている円の面積は回答数が多いほど大きく表示されている。

Analysis Figure 3. Probabilities of taking action after sexual violence and their 95% confidence intervals, predicted by GLM. F, 【Female】; M, 【Male】; L, 【LGBTQ+】. 【No answer】 and 【Unknown】 are not shown due to the small sample size. The lower parts of the x-axis represents the country/region and n/a corresponds to <I do not want to answer>. The numbers above the plots represent the number of responses, and the

area of the plotted circles is displayed larger for the larger the number of responses.

#### 解析 4

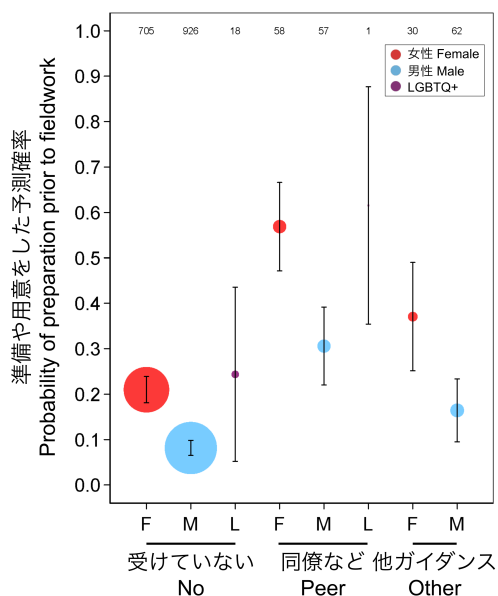
性自認とフィールドワーク前の事前学習（ガイダンスや情報共有）を受けた経験の有無とその種類の違いによって、準備をする（用意したのや気を付けたことがある）確率が異なるのかを明らかにするため、解析を実施した。フィールドワーク経験のある回答者における準備の有無を応答変数とし、回答者の性自認、事前学習の有無とその種類を説明変数として、二項分布とロジットリンク関数を仮定した一般化線形モデルを適用した。性自認による危機感の違いや一般に流布する言説（女性は被害に遭いやすい等）などから、事前学習を受ける動機や機会に偏りがある可能性を考慮し、性自認と事前学習の有無とその種類の両方をモデルに含めた。事前学習の有無とその種類については、複数回答可の設問であったため、【何も受けていない】、【教員や先輩・同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いたりしたことがある】、【それ以外】と回答を分類したものを解析対象とした。

以下のような解析結果が得られた（解析表 4、解析図 4）。事前学習を【受けていない】回答者に比べてなんらかの事前学習を受けたことのある回答者では、準備をしたことのある回答者の割合が有意に高かった。また、性自認が【女性】の回答者に比べて【男性】の回答者では、準備や用意をした回答者の割合が有意に低かった。

解析表 4. 性自認とガイダンスを受けた経験の有無とその種類の違いによる、準備をした割合の違い

Analysis Table 4: Probabilities of making pre-fieldwork preparations by fieldworkers' gender identity and prior guidance.

説明変数 Explanatory variables	推定値 Effect	標準誤差 SE	t	p 値 p-value
(切片) (Intercept)	-1.33	0.09	-14.90	<0.001
ガイダンス 教員や先輩・同僚 Guidance: Faculty, seniors, colleagues	1.60	0.21	7.81	<0.001
ガイダンス その他 Guidance: Others	0.80	0.26	3.05	0.002
性自認 男性 Gender: Male	-1.10	0.14	-8.05	<0.001
性自認 LGBTQ+ Gender: LGBTQ+	0.19	0.54	0.36	0.719
性自認 答えない Gender: No answer	-1.03	0.55	-1.86	0.063
性自認 不明 Gender: Unknown	-12.24	309.12	-0.04	0.968



解析図 4. GLM によってモデル計算された準備をした割合の推定値とその 95%信頼区間。横軸上段は性自認で、F は【女性】、M は【男性】、L は【LGBTQ+】。回答数が少なかったため【答えない】と【不明】は示していない。横軸下段は No が「何も受けていない」を選択した場合、Peer が「教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いた」を選択した場合、Other が「パンフレット等を受け取った」、「説明会やワークショップに参加した」、「その他」を選択した場合。図上方の数字はもとになった回答の数を表し、プロットされている円の面積は回答数が多いほど大きく表示されている。

Analysis Figure 4. Probabilities of making preparation prior to the fieldwork and their 95% confidence intervals, predicted by GLM. F, [Female]; M, [Male]; L, [LGBTQ+]. [No answer] and [Unknown] are not shown due to the small sample size. The lower part of the x-axis shows the results of “I have not received any guidance” (No), “I have received guidance from faculties, seniors, or colleagues (Peer), and “I have received pamphlets, etc.”, “I have participated in information sessions or workshops”, or “Other” (Other). The numbers above the plots represent the number of responses, and the area of the plotted circles is displayed larger for the larger the number of responses.

## 解析 5

性自認、事前学習を受けた経験の有無とその種類、準備（用意したものや気を付けたこと）の有無によって「フィールドワーク経験のある回答者における被害割合」が異なるのかを明らかにするため、解析を実施した。フィールドワーク経験のある回答者における被害の有無を応答変数とし、回答者の性自認、事前学習を受けた経験の有無とその種類、事前の備えの有無を説明変数として、二項分布とロジットリンク関数を仮定した一般化線形モデルを適用した。性自認に

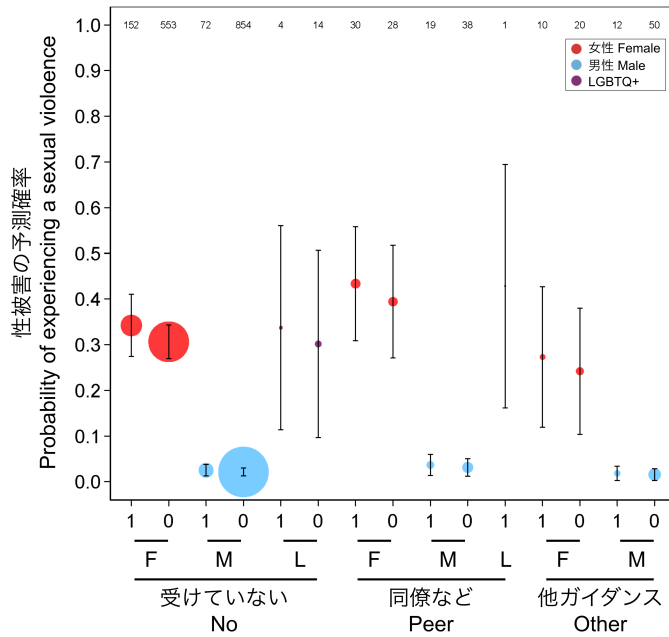
よる危機感の違いや一般に流布する言説（女性は被害に遭いやすい等）などから、事前学習を受け動機や機会と事前の備えに偏りがある可能性を考慮し、性自認、事前学習を受けた経験の有無とその種類、事前の備えの有無をモデルに含めた。事前学習の有無とその種類については、複数回答可の設問であったため、【何も受けていない】、【教員や先輩・同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いたりしたことがある】、【それ以外】と回答を分類したものを解析対象とした。

以下のような解析結果が得られた（解析表 5、解析図 5）。事前学習を受けた経験の有無・その種類と準備の有無と、被害の有無のあいだには有意な関係が見られなかった。また、性自認が【女性】の回答者に比べて【男性】の回答者では、性暴力を受けたことのある回答者の割合が有意に低かった。

解析表 5. 性自認、事前学習を受けた経験の有無とその種類、準備の有無の違いによる、性被害割合の違い

Analysis Table 5: Probabilities of experiencing sexual violence among fieldworkers by their gender identity, prior guidance, and pre-fieldwork preparation.

説明変数 Explanatory variables	推定値 Effect	標準誤差 SE	t	p 値 p-value
(切片) (Intercept)	-0.82	0.09	-9.18	<0.001
ガイダンス 教員や先輩・同僚 Guidance: Faculty, seniors, colleagues	0.39	0.26	1.48	0.140
ガイダンス その他 Guidance: Others	-0.32	0.39	-0.84	0.400
準備 あり Preparation: Yes	0.16	0.17	0.96	0.338
性自認 男性 Gender: Male	-3.00	0.23	-13.32	<0.001
性自認 LGBTQ+ Gender: LGBTQ+	-0.02	0.50	-0.04	0.965
性自認 答えない Gender: No answer	-0.97	0.49	-1.97	0.049
性自認 不明 Gender: Unknown	15.38	509.65	0.03	0.976



解析図 5. GLM によってモデル計算された性被害割合の推定値とその 95%信頼区間。横軸上段は準備の有無で、1 は〈準備あり〉、0 は〈準備なし〉。横軸中段は性自認で、F は【女性】、M は【男性】、L は【LGBTQ+】。回答数が少なかったため【答えない】と【不明】は示していない。横軸下段は No が〈何も受けていない〉を選択した場合、Peer が〈教員や先輩、同僚から性被害に関する注意喚起を受けたり、体験談を聞いた〉を選択した場合、Other が〈パンフレット等を受け取った〉、〈説明会やワークショップに参加した〉、〈その他〉を選択した場合。図上方の数字はもともなった回答の数を表し、プロットされている円の面積は回答数が多いほど大きく表示されている。

Analysis Figure 5. Probabilities of experiencing sexual violence among fieldworkers and their 95% confidence intervals, predicted by GLM. The upper part of the x-axis shows pre-fieldwork experience. 1, “with preparation”; 0, “without preparation”. The middle part represents gender identity. F, [Female]; M, [Male]; L, [LGBTQ+]. [No answer] and [Unknown] are not shown due to the small sample size. The lower part of the x-axis shows the results of “I have not received any guidance” (No), “I have received guidance from faculties, seniors, or colleagues (Peer), and “I have received pamphlets, etc.”, “I have participated in information sessions or workshops”, or “Other” (Other). The numbers above the plots represent the number of responses, and the area of the plotted circles is displayed larger for the larger the number of responses.



# Abstract

## Report of the 2022 survey concerning sexual violence and sexual harassment in fieldwork situations: Quantitative analysis

### Harassment in Fieldwork (HiF)

Ruriko Otomo, Hokkaido University

Wakana Shiino, Tokyo University of Foreign Studies

Ai Sugie, Kyoto University

Takumi Tsutaya, Graduate University for Advanced Studies (SOKENDAI)

Mio Horie, Gifu University

Ryota Yamaguchi, Kanazawa University

Since the 1990s, sexual violence, including sexual harassment, has come to be recognized as a serious problem in universities and research institutions. However, there has been little qualitative and quantitative research on sexual violence involved in fieldwork, impeding the design of effective measures to prevent such violence. As fieldworkers visit a variety of locations to conduct research, they are susceptible to sexual violence arising from the social space of individual fieldsite and from the complex human relationships that they build therein. Thus, in order to ensure a safe environment for fieldworkers conducting academic research, designing measures to prevent sexual violence in fieldwork is an important issue. As a first step to reach this goal, a large-scale online questionnaire was conducted in 2022 to understand the reality of sexual violence experienced by fieldworkers. We asked for cooperation from almost all academic societies in Japan, and received responses from 2,490 people who knew about the survey through a total of 272 academic societies. Of the 2,487 valid responses, 1,895 (76.2%) responded that they had conducted fieldwork, and of these, 290 (15.3%) responded that they had experienced sexual violence during fieldwork. Of these 290 fieldworkers who had experienced sexual violence, 87.2% were female. We also obtained detailed information on 352 cases of sexual violence from 242 fieldworkers who had experienced sexual violence. Of these 352 cases, the largest number (35.2%) had occurred during the last 10 years (2013–2022), while some cases had occurred more than 30 years before the time of the survey (2022).

This report, the first to be released on the results of the survey,

presents the quantitative analysis of the responses to select questions (e.g., multiple-choice questions, Yes/No questions, drop-down survey questions). Analysis of the 352 cases of sexual violence showed that 94.3% of the abusers were male and that the most prevalent victims were graduate students (57.4%) and undergraduate students (14.8%). In addition, 88.6% of the 1,895 respondents who had fieldwork experience had received no guidance on preventing or addressing the risks of sexual violence prior to their fieldwork. Most of the responses to the open-ended questions have not yet been analyzed, and we plan to report on them in the future. This report presents a quantitative picture of the sexual violence experienced by fieldworkers.

**Contact:** [fieldworkandsafety@gmail.com](mailto:fieldworkandsafety@gmail.com)

**Published by** Harassment in Fieldwork (HiF)

**Published on** February 28, 2025

## おわりに

HiF の活動が始まって、早いもので 4 年が経とうとしています。この 4 年の間に、HiF のメンバーは 3 名から一時は 8 名へと増えました。質問紙調査に習熟したメンバーがいないなか、アンケートの設問や文言だけでなく、選択肢をどう準備するか、どのように周知するかなどについて、何度も議論を重ね、約 1 年の試行錯誤を経て、本アンケートを実施することができました。

本アンケートに回答して下さった 2490 名のみなさまになによりも厚くお礼申し上げます。また、回答者のみなさまの多くが、所属する学協会からの通知によってこのアンケートにアクセスして下さいました。その点で、この調査の周知にご協力いただいた学協会すべてにも感謝申し上げます。また、本アンケートの設計から解析の段階に至るまで、各所から様々なご協力、ご支援をいただきました。本アンケートを知って個人的なネットワークを駆使したり、SNS などで情報を拡散して下さった回答者の方もいらっしゃいました。改めて、お礼申し上げます。

思い出したくない出来事を思い出そうとしたり、それを文字化することやそれを自分の目に入れたりすることは辛いことだったと思います。ですが、回答された約 95%の方が自身の受けた性暴力についてフィクション化して匿名で公開してもよいと回答して下さったことから、本アンケートを通じて性暴力の啓発や予防、対策に貢献して下さろうとする回答者の方々の強い意志を感じました。みなさまから寄せられた回答があったからこそ、フィールドワークにおける性暴力についての初の実態調査をすることができ、この第一報を発表することができました。今後も引き続き、この貴重なデータに対して真摯に向き合い、分析を進めて、第二報、第三報の報告書の発表をしてまいります。続報をお待ちいただけましたら幸いです。

なお、本アンケートは、多様な背景をもつであろう回答者に精一杯思いを巡らせながら、安心して回答できるように、限られた HiF のメンバーで考え得る限りの工夫を施しました。回答される方全員に負担がなく、特に、性暴力を受けた当事者の方の負担軽減を目的として、「答えたくない」や「分からない」を選択肢の一番最初に表示させたり、具体的な性暴力の事例の入力を「スキップする」などの設問を加えたりしました。しかしそれでも至らない点が多々あり、様々な視点から課題も指摘していただきました。詳しくは、HiF ウェブサイトに掲載しました“アンケート後にいただいたご指摘やご意見につきまして”をご参照ください。そして、HiF の間でも、本アンケートの集計と解析、そしてこの第一報を作成している際、多くの後悔や反省の声が上がりました。本アンケートに使用した一部の語彙についての議論が十分ではなかったり、また、適切な文言や表現を使って設問および選択肢を設定することができなかつたことで、本アンケートに回答して下さった、また回答を試みて下さった方に、混乱を招いてしまったり、不快な気持ちにさせてしまったことと思います。深くお詫び申し上げます。

HiF は、この実態調査は継続的に行っていくべきであるといった共通認識を持っています。実施時期は未定ではありますが、いただいたご意見やご指摘をもとに、アンケート設問や文言、選択肢など見直して、より配慮され、より安心して回答できる実態調査をしていきたいと思っております。今後ともご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

